

学科到達目標

【本科（準学士課程）の学習目標】

1. 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
2. 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
3. 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
4. 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

【創造工学プログラムの学習・教育目標】

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力する技術者を育成する。

- (1) 基礎工学（設計システム、情報論理、材料バイオ、力学、社会技術）の科目を修得している。
- (2) PBL(Problem-based Learning)の経験から創造の喜びを修得している。

B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる技術者を育成する。

- (1) 学士の学位を取得できる申請学士領域の工学の知識と能力を有する。
- (2) 数学（情報処理）・物理による理論的解析能力がある。

C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる技術者を育成する。

- (1) 国際社会を多面的に考えることができる。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力がある。
- (3) 技術者倫理を修得している。

D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる技術者を育成する。

- (1) 地域企業などでのインターンシップをとおして、実務上の問題点と解決法の現状を体得している。
- (2) 実務上の問題点として、いろいろな環境技術について検討できる。

E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる技術者を育成する。

- (1) 日本語による論理的な記述、コミュニケーションができる。
- (2) 地道に行った研究成果を口頭発表できる。
- (3) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめることができる。

F 1. 複合工学修得コースの学習・教育目標

いくつかの工学の知識を修得し、幅広い考察ができる技術者を育成する。

- (1) 申請学士領域以外の工学の知識を修得し、幅広い考察ができる。

F 2. 専門工学探究コースの学習・教育目標

専門工学を探究し、深い考察ができる技術者を育成する。

- (1) 申請学士領域の工学を探究し、深い考察ができる。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
電子情報工学科	本4年	学科	専門	応用物理 I	2	竹下 哲義
電子情報工学科	本5年	学科	専門	デジタル信号処理	2	山田 洋士
電子情報工学科	本5年	学科	専門	システム数理工学	2	越野 亮
電子情報工学科	本5年	学科	専門	人工知能	2	越野 亮
電子情報工学科	本5年	学科	専門	シーケンス制御	2	中山 一
電子情報工学科	本5年	学科	専門	ソフトウェア工学	2	三吉 建尊

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
一般	必修	国語 I	履修単位	4	4	4																		山崎 梓 吉本 弥生		
一般	必修	歴史 I	履修単位	2	2																			永井 隆之		

一般	必修	基礎数学 A	20031	履修単位	4	4	4													森田 健二	
一般	必修	基礎数学 B	20032	履修単位	3	2	4													吉江 佑介	
一般	必修	物理学 I	20041	履修単位	2	2	2													古崎 広志	
一般	必修	化学 I	20045	履修単位	2	2	2													奥村 真子	
一般	必修	保健体育 I	20051	履修単位	2	2	2													北田 耕司, 岩淳	
一般	必修	美術	20061	履修単位	1	2														南 淳史	
一般	必修	基礎オールラウンドコミュニケーション	20071	履修単位	2	2	2													リチャードカース	
一般	必修	基礎英語 I	20072	履修単位	2	2	2													川島 嘉美	
一般	必修	英語表現 I	20074	履修単位	2	2	2													香本 直子	
専門	必修	電子情報工学基礎 I	20309	履修単位	2	2	2													山田 健二	
専門	必修	情報基礎	20323	履修単位	2	2	2													長岡 健一	
専門	必修	プログラミング基礎 I	20324	履修単位	2	2	2													越野 亮, 川除佳和	
専門	必修	電子情報工学実験 I	20342	履修単位	2	2	2													越野 亮, 山田健二, 川除佳和, 任田崇吾	
一般	必修	国語 I I	20012	履修単位	2					2	2									吉本 弥生	
一般	必修	歴史 I I	20022	履修単位	1					2										永井 隆之	
一般	必修	倫理	20023	履修単位	2					2	2									佐々木 香織	
一般	必修	解析学 I	20033	履修単位	4					4	4									河合 秀泰	
一般	必修	代数・幾何 I	20035	履修単位	2					2	2									村山 太郎	
一般	必修	物理学 I I A	20042	履修単位	2					2	2									佐野 陽之	
一般	必修	物理学 I I B	20043	履修単位	1					2										古崎 広志	
一般	必修	化学 I I	20046	履修単位	3					4	2									畔田 博文, 常光幸美	
一般	必修	保健体育 I I	20052	履修単位	2					2	2									和久井 健吾, 南雅樹	
一般	必修	基礎英語 I I	20073	履修単位	2					2	2									紺谷 雅樹	
一般	必修	英語表現 I I	20075	履修単位	4					4	4									香本 直子	
専門	必修	電子情報工学基礎 I I	20310	履修単位	2					2	2									小村 良太郎, 三吉建尊, 竹下哲義	
専門	必修	回路基礎	20311	履修単位	2					2	2									小村 良太郎	
専門	必修	デジタル回路	20312	履修単位	1					2										松本 剛史	
専門	必修	プログラミング基礎 I I	20325	履修単位	2					2	2									三吉 建尊	
専門	必修	電子情報工学実験 I I	20343	履修単位	2					2	2									越野 亮, 松本剛史, 三吉建尊, 小村良太郎	

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語 I
科目基礎情報					
科目番号	20011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	『精選 現代の国語』(明治書院)『精選 言語文化』(明治書院)『精選 現代の国語 学習課題ノート』(明治書院)『精選 言語文化 学習課題ノート』(明治書院)『新版品詞別頻出漢字マスター3000』(尚文出版)『古典文法ワークノート』(第一学習社)『全訳読解 古語辞典』(三省堂)『カラー版新国語便覧』(第一学習社)				
担当教員	山崎 梓,吉本 弥生				
到達目標					
(現代文の内容) 1.現代の随想・評論を論理的に読解し、鑑賞できる。 2.現代の小説を論理的に読解し、鑑賞できる。 3.現代の韻文作品を論理的に読解し、鑑賞できる。 4.文章作成、また討議に基づく意見形成ができる。 5.生活の基礎となる文字の読み書きができる。			(古典の内容) 6.古文読解のための基本事項(仮名遣い・品詞・用言の活用)を理解し、説明できる。 7.古文の説話・随筆・日記・物語を理解し、文学史的事項を理解し説明できる。 8.漢文読解のための基礎事項(句法・訓読)を理解し説明できる。 9.漢文の故事・詩・文などの基本的な文章の訓読と読解ができる。		
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1,2,3,4,5	現代の文章を論理的に読解し、深く鑑賞できる。明解な文章作成、活発な議論を通じた意見形成ができ、正確な読み書きができる。		現代の文章の主旨を概ね把握し、鑑賞できる。文章作成、議論を通じた意見形成、ほぼ正確な読み書きができる。		現代の文章の主旨を正確に把握できない。文章作成、対話能力、読み書き能力が不足している。
評価項目6,7	古文について、文法的知識を踏まえた正確な口語訳ができ、鑑賞できる。		古文について、文法的知識を踏まえた口語訳ができ、内容を理解できる。		古典の文章について、文法的知識が不足しており、正確な口語訳ができない。
評価項目8,9	漢文について、訓読・句法の知識に基づいた正確な書き下し・口語訳ができ、鑑賞できる。		漢文について、訓読・句法の知識に基づいて概ね正確な書き下し・口語訳ができる。		漢文について、訓読・句法の知識が不十分で、正確な書き下し・口語訳ができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	国語の読み・書き・作文・文学作品の読解、評論の読解及び古文の基礎と作品の読解及び漢文の訓読の基礎を学ぶ。以上のことを通じて、技術者として必要な基礎学力を習得すると共に、自分の考えを正しく表現し公正に意見交換できる豊かな人間性を身につける。				
授業の進め方・方法	授業は現代文と古典(古文・漢文)の時間に分けて教科書に基づき講義と演習(質疑応答・漢字練習等)をおこなう。定期テストは現代文・古典あわせて「国語I」として実施する。現代文分野で、授業中に漢字小テストを課す。また作文課題を課すことがある。古典分野で、古語の理解を確認するためにワーク形式の課題及び小テストを課す。長期休暇等に作文課題を課すことがある。 MCC対応:Ⅲ-A国語、Ⅶ汎用的技能、Ⅷ態度・志向性(人間力)、Ⅸ総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	作品に対して、主体的に興味・関心を持つことが大切である。現代文の授業では漢字学習に取り組むので、国語辞典を各自用意のこと。日本古典文学全集(小学館)など図書館所蔵の国語関連図書、インターネットなどを参考にすること。 前期成績:現代文50%(前期中間・期末試験各20%、小テスト10%)、古典50%(前期中間・期末試験各20%、古典小テスト10%)。 学年成績:現代文50%(全定期試験40%、小テスト・レポート10%)、古典50%(全定期試験40%、古典小テスト・作文10%) 定期試験年4回(前期中間・期末・後期中間・学年末)を実施する。成績評価の基準として50点以上を合格とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	わかりあえないことから/古文入門	論の構造をとらえることができる。/古文を学ぶ意義を理解できる。	
		2週	わかりあえないことから/古典学習の基礎(1)	論理的な読解ができる。/古文読解に必要な基礎知識を理解できる。	
		3週	わかりあえないことから/宇治拾遺物語・児のそら寝	構成をとらえ、筆者の主張を正確に読み取ることができる。/宇治拾遺物語の概要が理解できる。「児のそら寝」の内容が理解できる。	
		4週	羅生門/宇治拾遺物語・絵仏師良秀(1)	作品の背景、設定をとらえることができる。/「絵仏師良秀」前半部を読み、内容が理解できる。	
		5週	羅生門/宇治拾遺物語・絵仏師良秀(2)	下人の心情の変化および、老婆の論理を考察し、読解できる。/「絵仏師良秀」前半部を読み、内容が理解できる。	
		6週	羅生門/物語文学	作品の主題・評価を考え、自分の言葉で表現できる。/物語文学がどのようなものかを理解し、説明できる。	
		7週	資料調査/伊勢物語・芥川(1)	資料調査の方法を理解し、その整理ができる。/伊勢物語の概要が理解できる。「芥川」の内容を理解できる。	
		8週	資料調査/伊勢物語・芥川(2)	複数の資料を比較、検討することができる。/「芥川」に書かれた当時の生活や考え方を理解し、説明できる。	

後期	2ndQ	9週	資料をまとめる/伊勢物語・東下り（1）	資料を整理し、論理的な文章にまとめることができる。/「東下り」都～三河国までの内容が理解できる。作中の和歌を鑑賞できる。	
		10週	資料をまとめる/伊勢物語・東下り（2）	資料を整理し、論理的な文章にまとめることができる。/「東下り」駿河国～武蔵国までの内容が理解できる。作中の和歌を鑑賞できる。	
		11週	詩「小景異情」/伊勢物語・東下り（3）	詩の構成をとらえ、全体の主題を論理的に理解できる。/「東下り」武蔵国の内容が理解できる。作中の和歌を鑑賞できる。	
		12週	城の崎にて/徒然草・亀山殿の御池に（1）	作品の背景をとらえ、設定を理解することができる。/徒然草の概要を理解できる。「亀山殿の御池に」前半の内容が理解できる。	
		13週	城の崎にて/徒然草・亀山殿の御池に（2）	行動から登場人物の心理を把握し、その独特の世界観を理解することができる。/「亀山殿の御池に」後半の内容が理解できる。	
		14週	城の崎にて/古典学習の基礎（2）	登場人物の世界観と心理を論理的に把握し、その批評性について理解できる。/古文読解に必要な基礎知識を理解できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
	後期	3rdQ	1週	うまい、おもしろい/徒然草・奥山に猫またといふものありて（1）	論理的な読解ができる。/「奥山に猫またといふものありて」前半の内容が理解できる。
			2週	うまい、おもしろい/徒然草・奥山に猫またといふものありて（2）	構成をとらえ、筆者の主張を正確に読み取ることができる。/「奥山に猫またといふものありて」後半の内容が理解できる。
			3週	短歌と俳句/日記文学と随筆文学	短歌と俳句の技法を理解できる。作品の思想・感情を考察し、自分の言葉で表現できる。/日記文学と随筆文学がそれぞれどのようなものか理解し、説明できる。
			4週	「ふと」と「思わず」/土佐日記・門出（1）	論の構造をとらえることができる。/土佐日記の概要が理解できる。
			5週	「ふと」と「思わず」/土佐日記・門出（2）	構成をとらえ、筆者の主張を正確に読み取ることができる。/「門出」前半の内容が理解できる。
			6週	青が消える/土佐日記・門出（3）	前半を読み、作品の内容を正確に把握することができる。/「門出」後半の内容が理解できる。
			7週	青が消える/古典学習の基礎（3）	後半を読み、作品の主題を考察することができる。/古文読解に必要な基礎知識を理解できる。
			8週	青が消える/漢文訓読の基礎（1）	作品の主題を考察し、考えを表現することができる。/漢文読解に必要な基礎知識を理解できる。
4thQ		9週	世界中がハンバーガー/漢文訓読の基礎（2）	構成を把握し、内容を正確に理解できる。/漢文読解に必要な基礎知識を理解できる。	
		10週	世界中がハンバーガー/故事成語・断腸（1）	筆者の主張を正確に読み取ることができる。/「断腸」を書き下し文にし、ことばの意味が理解できる。	
		11週	待つ/故事成語・断腸（2）	時代背景をふまえ、登場人物の心情を読み取ることができる。/「断腸」の内容が理解できる。	
		12週	待つ/十八史略・先従隗始（1）	作品の主題を正確につかむことができる。/「先従隗始」前半を書き下し文にし、内容を理解できる。	
		13週	待つ/十八史略・先従隗始（2）	時代背景をふまえ、登場人物の心情を読み取り、自分の考えを表現することができる。/「先従隗始」後半を書き下し文にし、内容を理解できる。	
		14週	プレゼンテーション/十八史略・先従隗始（3）	論理的な語彙や表現を用いて、説明することができる。/「先従隗始」の主題を理解できる。	
		15週	後期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	1		
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	1		
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1		
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1		
			社会生活で使われている故事成語・慣用語の意味や内容を説明できる。	1		
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1		
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1		
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1		
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	1		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1		

				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	1	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1	
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	1	
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1					
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合

	試験	小テスト・課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	歴史 I
科目基礎情報					
科目番号	20021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校世界史A新訂版』(清水書院) 『新選日本史B』(東京書籍)、『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社)				
担当教員	永井 隆之				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 諸地域の文明の特色を風土との関わりにおいて理解する。 2. 諸文明の発展が、宗教の成立と不可分の関係にあることを理解する。 3. 諸文明が影響関係を持ちながら発展したことを理解する。 4. 歴史の思想的転換について理解する。 5. 社会構造・身分制度の変遷について理解する。 6. 文化史についての基礎知識を得る。 7. 世界史で学ぶ国々の正しい地理の知識を得る。 8. 日本の古代行政区分や歴史上の地名の知識を得る。 9. 歴史的事象に関する語句を正しく読解・表記できる。 10. 歴史的事象について考察したことを論理的に表現できる。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,9		歴史的事象について読解・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる	歴史的事象に関する語句を正しく読解・表記し、意味を説明できる	歴史的事象に関する語句を正しく読解できない。意味が説明できない。	
評価項目2 項目7,8		世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る	世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称の知識がない	
評価項目3 項目10		歴史的事象について自ら調査・資料収集し、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる	歴史的事象について考察したことを論理的に表現・表記できる	歴史的事象についての知識がない	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	国際社会への幅広い視点を持った技術者となるためには、諸国家、諸地域の変遷やそれぞれの影響関係など、現代世界が形成された過程を知る必要がある。そこで本授業では、原始から現代までの世界史および日本史の知識の習得を主眼とし、その学習成果を論理的に記述し表現できる基礎学力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時課題を出す。MCC対応: III-C 社会、VII 汎用的技能、態度・志向性(人間力)、VIII 態度・志向性(人間力)、IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	<p>【評価方法・評価基準】</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。</p> <p>前期末: 中間試験成績(40%)、期末試験成績(40%)、課題提出(20%)</p> <p>学年末: 定期試験成績(80%)、課題提出(20%)</p> <p>定期試験成績は前後期4回の試験をそれぞれ20%、課題提出は前後期分それぞれ10%として算出する。</p> <p>事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。</p> <p>また、それらを説明できる力を身につけること。</p>				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	100年前のパンデミック スペイン風邪	現在、新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミック(爆発的感染)の状況にある。過去にも、パンデミックは発生していた。今回の新型コロナウイルスへの対策と教訓を、過去のパンデミックから学び取る。	
		2週	人間らしさとは何か? その1 ～ホモ・サピエンス誕生～	我々に至るまで人類はどうやって進化してきたのか。なぜ最終的にホモ・サピエンスだけが繁栄できたのか。その起源について知見を得る。	
		3週	人間らしさとは何か? その2 ～ホモ・サピエンスとネアンデルタール人～	かつてホモ・サピエンスには屈強なライバル・ネアンデルタール人という人類がいた。ネアンデルタール人がなぜ姿を消し、ホモ・サピエンスだけが栄えたのか、その理由について、理解を深める。	
		4週	人間らしさとは何か? その3 ～グレートジャーニー(世界拡散)～	アフリカで生まれた私たちの祖先は、6万年前に故郷を離れ、驚異的なスピードで世界に広まっていった。その原動力は新たに発明された道具だった。それはどのような道具が人類の世界拡散に約だったのか、その具体相を知る。	
		5週	人間らしさとは何か? その4 ～サピエンス、日本列島に到達～	なぜホモ・サピエンスだけが日本列島に到達できたのか。サピエンスが世界の隅々にまで行き繁栄した理由について理解を深める。	

後期	2ndQ	6週	人間らしさとは何か? その5 ～農耕の始まり～	農耕の始まりは人類史上最大の革命にして最大の謎。主食の一つである小麦。それは当初、全く栽培に適していなかった。それでも私たちの食を支える農耕はなぜ始まり、そして広まったのか。農耕の始まりは人類の長い試練の始まり。その実像について知見を得る。
		7週	人間らしさとは何か? その6 ～貨幣の誕生～	6000年以上前、世界で最初の都市が誕生した。その原動力とは貨幣。その力は人間の脳そのものを変え、現代文明を築く原動力になった。お金こそが人間を人間にした。それでは一体、お金は人間をどう変えてきたのか。その具体相と仕組みを理解する。
		8週	人間らしさとは何か? その7 ～『サビエンス全史』の描く人類の歴史、そして未来～	人類の誕生から未来までをたどり、現代を読み解く本が登場。ユヴァル・ノア・ハラリ著『サビエンス全史』。私たちはどこから来て、どこへ行くのか。人類は幸福になったのか。私たちの幸福を探るヒントは人類の歴史に隠されている。本書から歴史を俯瞰する考え方を学ぶ。
		9週	人間らしさとは何か? その8 ～人類の未来像『ホモ・デウス』に学ぶ～	ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス』から学び、テクノロジーの急激な発展によって、人類が新たな力を手に入れ、驚異的な力を手に入れる可能性が高まる中、予想される社会像について考えを深める。
		10週	現代史から学ぶ その1	天安門事件は、1989年6月4日に起こった事件。天安門広場は中国の象徴的な場所。ここにかつて学生や市民が民主化を求めて集結し、デモを行った。これに対し、軍隊が武力行使し、多数の死傷者を出した。なぜこのようなことが起きてしまったのか。このことを当時の世界情勢、中国の現代史から理解する。前編
		11週	現代史から学ぶ その2	上記の後編。この事件にアメリカや日本はどうかかわったのか、そしてこの事件は現在の世界にどのような影響を与えたのか、考えを深める。
		12週	現代史から学ぶ その3	第二次大戦時、マンハッタン計画と呼ばれた原爆開発。アメリカの極秘プロジェクトといわれてきた。しかし近年の研究でイギリスの深い関与が指摘されている。ナチス・ドイツを率いるヒトラーやソ連率いるスターリンも原爆開発で凌ぎを削っていた。原爆投下をめぐる舞台裏で何が起きていたのか、その過程を理解する。前編
		13週	現代史から学ぶ その4	上記の後編。原爆投下を決定する過程から、これに関わった人々の考えを知ると同時に、その投下が世界をどのように変えたのか理解する。
	14週	現代史から学ぶ その5	戦後フェミニズムの歴史を振り返る。その上で、宮崎駿監督作品『魔女の宅急便』（1989年）を取り上げ、当時のあるべき女性像について検討し、現代との比較を行い、フェミニズムの課題について理解する。	
	15週	後期復習	本学期に学んだ内容を概観できる。また、現代にあるモノの起源や社会問題の遠因を発見できる力を養える。さらに現代社会の特質や課題に関する主題について探究し、その成果を議論することを通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について歴史の観点から展望できる。	
	16週			
	3rdQ	1週	文明のあけぼの	旧石器時代から縄文時代までの社会・経済・文化について理解する。日本列島に人が移住してきた理由について理解できる。
		2週	国の形成	弥生時代から古墳時代までの社会・経済・文化について概観する。日本列島に国が成立、展開していく過程を理解できる。
		3週	律令国家の建設	奈良に政治の中心があった頃の政治・経済・文化・外交を概観する。律令国家の内実について理解できる。
		4週	平安京とその文化	京都に政治の中心があった頃の政治・経済・文化・外交を概観する。平安遷都、摂関政治などについて理解できる。
		5週	武家政治の開始	平氏政権、鎌倉幕府、執権政治について理解する。承久の乱の意義について説明できる。
6週		武家政治の展開	蒙古襲来、建武の親政、南北朝内乱、室町幕府の成立について理解する。建武の親政の意義、鎌倉幕府と室町幕府の違いについて理解できる。	
7週		中世の社会と文化	鎌倉・室町時代の社会と文化のあり様について概観する。特に鎌倉仏教について理解を深められる。	
8週		戦国時代から天下統一へ	群雄割拠の戦国時代から統一政権が成立するまでを概観する。豊臣秀吉の指揮した朝鮮出兵についてその背景を理解できる	
4thQ		9週	江戸幕府の政治	江戸幕府の内政と外交について理解できる。
		10週	産業の発達と教育・文化の普及	江戸時代に発展した産業や文化、これらを支えた教育について理解を深められる。
		11週	幕府の政治改革	列島内外の深刻な諸問題に対処する幕府の政治改革の内容と結果を理解できる。
		12週	地域の歴史を調べる(1) 一向一揆	一向一揆に身を投じた村の僧侶の描いた理想の社会像について知り、戦国時代の人々が求めていた社会や生き方を理解できる。
		13週	地域の歴史を調べる(2) 白山の歴史	戦国時代の白山麓の村々の歴史を知る。当時の村々の対立が現代の登山道を成立させたことを理解できる。

		14週	地域の歴史を調べる(3) ある仏像の由緒書	金沢市南山間部内川地域の仏像とその由緒書を手掛かりに、江戸時代寺町における修験道の活動を知る。
		15週	後期復習	本学に学んだ内容を概観できる。また、現代にあるモノの起源や社会問題の遠因を発見できる力を養える。さらに現代社会の特質や課題に関する主題について資料を活用して探究し、その成果を論述することを通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について歴史の観点から展望できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	1	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	1	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	1	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	1	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	1	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	1	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	2	
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	2		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	1	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	1	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	1	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1	
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1				
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1				
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1				
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	1				
	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1				
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。				1		
目標の実現に向けて計画ができる。				1		
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。				1		
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。				1		
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。				1		

			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	1	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	1	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	1	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	1	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	1	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	1	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	1	
			企業には社会的責任があることを認識している。	1	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	1	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	1	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	1	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	1	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	1	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	1	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	1	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	1	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	40	10	50
専門的能力	40	10	50
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	基礎数学 A
科目基礎情報					
科目番号	20031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	高遠節夫ほか「新基礎数学 改訂版」(大日本図書) / 高遠節夫ほか「新基礎数学問題集 改訂版」(大日本図書)				
担当教員	森田 健二				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 整式の計算ができる。 2. 分数式, 平方根の計算ができる。 3. 実数, 複素数を理解し, 扱うことができる。 4. 2次方程式を理解し, 計算できる。 5. いろいろな方程式を解くことができる。 6. 恒等式が理解できる。 7. 等式を証明できる。 8. いろいろな不等式を解くことができる。 9. 不等式を証明できる。 10. 集合, 命題が理解できる。 11. 2点間の距離・内分点の計算ができる。 12. 直線の方程式が理解できる。 13. 2次曲線が理解できる。 14. 不等式の表す領域が理解できる。 15. 場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達評価項目 1	整式の加減乗除ができ, 剰余の定理や因数定理を応用できる。	整式の加減乗除ができ, 剰余の定理や因数定理を理解できる。	整式の計算ができない。		
到達評価項目 2	様々な分数式, 平方根の計算ができる。	分数式, 平方根の計算ができる。	分数式, 平方根の計算ができない。		
到達評価項目 3	実数, 複素数を説明し, 計算することができる。	簡単な実数, 複素数の計算ができる。	実数, 複素数の計算ができない。		
到達評価項目 4	2次方程式を理解し, 様々な問題に応用できる。	2次方程式の解を判別し, 解くことができる。	2次方程式の計算ができない。		
到達評価項目 5	いろいろな方程式の解法を説明できる。	簡単な方程式を解くことができる。	方程式を解くことができない。		
到達評価項目 6	恒等式の計算ができる。	簡単な恒等式の計算ができる。	恒等式を理解できない。		
到達評価項目 7	様々な等式を証明することができる。	簡単な等式を証明することができる。	等式を証明することができない。		
到達評価項目 8	様々な不等式を解くことができる。	簡単な不等式を解くことができる。	不等式を解くことができない。		
到達評価項目 9	様々な不等式を証明できる。	簡単な不等式を証明できる。	不等式の証明ができない。		
到達評価項目 10	集合や命題を説明できる。	集合や命題の真偽を理解できる。	集合や命題の真偽が理解できない。		
到達評価項目 11	2点間の距離・内分点の計算ができ, 様々な問題に応用できる。	簡単な2点間の距離・内分点の計算ができる。	2点間の距離・内分点が理解できない。		
到達評価項目 12	直線を方程式で表し, 応用できる。	直線の方程式が理解できる。	直線の方程式が理解できない。		
到達評価項目 13	2次曲線を方程式で表し, 応用できる。	2次曲線の方程式が理解できる。	2次曲線が理解できない。		
到達評価項目 14	不等式の表す領域の計算ができる。	不等式の表す領域が図示できる。	不等式の表す領域が図示できない。		
到達評価項目 15	場合の数・順列・組合せを説明し, 計算できる。	場合の数・順列・組合せを理解し, 計算できる。	場合の数・順列・組合せの計算に困難が認められる。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	数学的な考え方は科学の理解に不可欠といわれている。専門科目の理解に必要な広範囲の内容を扱い, 技術者として必要な基礎学力の修得を目的とする。また, 数学の問題を解き解答を記述することにより, 課題の解決に最後まで取り組み, 自分の考えを正しく表現できる能力を学ぶ。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】到達目標の達成度を確認するため, 必要に応じてレポート課題を与え, 小テストを行うことがある。 【関連科目】基礎数学 B, 解析学 I, 代数・幾何 I 【MCC対応】I 数学, VII汎用的技能, IX総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	【その他履修上の注意事項や学習上の助言】授業中の学習に真剣に取り組むことと, 日頃の予習・復習が非常に大切である。授業中は講義に集中し, 他の学生に迷惑をかけないようにすること。レポート課題の提出期限を守ること。 【専門科目との関連】数学を用いる全科目の基礎である。 (1)回路基礎: 数と式, 方程式 (2)電子情報工学基礎: 数と式, 方程式 (3)プログラミングI: 方程式 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。 前期末: 前期の定期試験の平均(70%), 小テスト・レポート課題(30%) 学年末: 一年間の定期試験の平均(70%), 小テスト・レポート課題・C B T試験(30%)				
テスト					

授業の属性・履修上の区分

アクティブラーニング ICT 利用 遠隔授業対応 実務経験のある教員による授業

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法, 整式の乗法	整式の計算ができる。
		2週	因数分解	整式の計算ができる。
		3週	整式の除法, 剰余の定理と因数定理	整式の計算ができる。
		4週	分数式の計算, 実数	分数式, 平方根の計算ができる。 実数, 複素数を理解し, 扱うことができる。
		5週	平方根	分数式, 平方根の計算ができる。
		6週	複素数	実数, 複素数を理解し, 扱うことができる。
		7週	2次方程式, 解と係数の関係	2次方程式を理解し, 計算ができる。
		8週	高次方程式, 連立方程式	いろいろな方程式を解くことができる。
	2ndQ	9週	いろいろな方程式, 恒等式	いろいろな方程式を解くことができる。恒等式が理解できる。
		10週	等式の証明	等式を証明できる。
		11週	不等式の性質, 1次不等式の解法	いろいろな不等式を解くことができる。
		12週	連立不等式, 2次不等式	いろいろな不等式を解くことができる。
		13週	2次不等式, 高次不等式	いろいろな不等式を解くことができる。
		14週	不等式の証明	不等式を証明できる。
		15週	前期復習	項目1から9
		16週		
後期	3rdQ	1週	集合	集合, 命題が理解できる。
		2週	命題	集合, 命題が理解できる。
		3週	2点間の距離と内分点	2点間の距離・内分点の計算ができる。
		4週	直線の方程式, 2直線の関係	直線の方程式が理解できる。
		5週	円の方程式	2次曲線が理解できる。
		6週	楕円	2次曲線が理解できる。
		7週	双曲線, 放物線	2次曲線が理解できる。
		8週	2次曲線の接線	2次曲線が理解できる。
	4thQ	9週	不等式と領域	不等式の表す領域が理解できる。
		10週	場合の数	場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。
		11週	順列	場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。
		12週	組合せ	場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。
		13週	いろいろな順列	場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。
		14週	二項定理	場合の数・順列・組合せ・二項定理が理解できる。
		15週	後期復習	項目10から15
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
			因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3		
			分数式の加減乗除の計算ができる。	3		
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3		
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3		
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3		
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3		
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3		
			簡単な連立方程式を解くことができる。	3		
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3		
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3		
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3		
			2点間の距離を求めることができる。	3		
			内分点の座標を求めることができる。	3		
			2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3		
			簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3		
			放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3		
			簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3		
積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3					
簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3					

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1		
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1		
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1		
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	1	
					要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	1	
					課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1	
					提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	1	

評価割合

	試験	小テスト・課題	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	基礎数学B
科目基礎情報					
科目番号	20032		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:4	
教科書/教材	新 基礎数学 (大日本図書) / 新 基礎数学問題集 (大日本図書)				
担当教員	吉江 佑介				
到達目標					
1. 2次関数が理解できる。 2. いろいろな関数(べき関数, 分数関数, 無理関数など)が理解できる。 3. 指数関数が理解できる。 4. 対数関数が理解できる。 5. 三角比が理解できる。 6. 三角関数が理解できる。 7. 加法定理が理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標項目1	関数の計算ができる。		簡単な関数の計算ができる。		関数の計算ができない。
到達目標項目2	2次関数のグラフを描くことができる。		簡単な2次関数のグラフを描くことができる。		2次関数のグラフを描くことができない。
到達目標項目3	2次方程式を解くことができる。		簡単な2次方程式を解くことができる。		2次方程式を解くことができない。
到達目標項目4	2次不等式を解くことができる。		簡単な2次不等式を解くことができる。		2次不等式を解くことができない。
到達目標項目5	べき関数・分数関数のグラフを描くことができる。		簡単なべき関数・分数関数のグラフを描くことができる。		べき関数・分数関数のグラフを描くことができない。
到達目標項目6	無理関数・逆関数のグラフを描くことができる。		簡単な無理関数・逆関数のグラフを描くことができる。		無理関数・逆関数のグラフを描くことができない。
到達目標項目7	累乗根, 指数の拡張の計算ができる。		累乗根, 指数の拡張の簡単な計算ができる。		累乗根, 指数の拡張の計算ができない。
到達目標項目8	指数関数のグラフを描くことができる。		簡単な指数関数のグラフを描くことができる。		指数関数のグラフを描くことができない。
到達目標項目9	対数関数のグラフを描くことができる。		簡単な対数関数のグラフを描くことができる。		対数関数のグラフを描くことができない。
到達目標項目10	対数, 常用対数の計算ができる。		対数, 常用対数の簡単な計算ができる。		対数, 常用対数の計算ができない。
到達目標項目11	三角関数の計算ができる。		簡単な三角関数の計算ができる。		三角関数の計算ができない。
到達目標項目12	三角関数の性質を理解し, グラフを描くことができる。		三角関数の性質を理解し, 簡単なグラフを描くことができる。		三角関数の性質を理解し, グラフを描くことができない。
到達目標項目13	加法定理を理解し, 応用することができる。		簡単な加法定理を理解できる。		加法定理を理解することができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	数学的な考え方は科学の理解に不可欠といわれている。専門科目の理解に必要な広範囲の内容を扱い, 技術者として必要な基礎学力の修得を目的とする。また, 数学の問題を解き解答を記述することにより, 課題の解決に最後まで取り組み, 自分の考えを正しく表現できる能力を学ぶ。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 到達目標の達成度を確認するため, 随時演習課題を与えることがある。必要に応じて, レポート課題を与え, 小試験を行うことがある。 【関連科目】 基礎数学A, 解析学I, 代数・幾何I 【MCC対応】 I 数学, VII 汎用的技能, IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	【評価方法・評価基準】 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末: 前期中間試験(40%), 前期末試験(40%), 課題・小試験・レポート(20%) 学年末: 一年間の定期試験の総合的評価(70%), 課題・小試験・レポート(30%) ※注意: 受講態度や学習への取り組み方の評価は, 講義に集中しなかった場合や他の学生に迷惑を掛けた場合に減点すること。課題のレポートなどは必ず提出すること。 【その他履修上の注意事項や学習上の助言】 授業中の学習に真剣に取り組むことと, 日頃の予習・復習が非常に大切である。定期試験時には十分に勉強し受験すること。課題のレポートなどは必ず提出すること。 【専門科目との関連】 ■電子情報工学専門科目全般				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	関数とグラフ	1. 関数の概念を理解し, 説明できる。	

後期	2ndQ	2週	2次関数のグラフ (1)	2. 2次関数のグラフを理解し、描くことができる。
		3週	2次関数のグラフ (2)	2. 2次関数のグラフを理解し、描くことができる。
		4週	2次関数の最大・最小 (1)	2. 2次関数のグラフを理解し、描くことができる。
		5週	2次関数の最大・最小 (2)	2. 2次関数のグラフを理解し、描くことができる。
		6週	2次関数と2次方程式 (1)	3. 2次方程式を解くことができる。
		7週	2次関数と2次不等式	4. 2次不等式を解くことができる。
		8週	べき関数 (1)	5. べき関数・分数関数を理解し、グラフを描くことができる。
		9週	べき関数 (2)	5. べき関数・分数関数を理解し、グラフを描くことができる。
	10週	分数関数 (1)	5. べき関数・分数関数を理解し、グラフを描くことができる。	
	11週	分数関数 (2)	5. べき関数・分数関数を理解し、グラフを描くことができる。	
	12週	無理関数 (1)	6. 無理関数・逆関数を理解し、グラフを描くことができる。	
	13週	無理関数 (2)	6. 無理関数・逆関数を理解し、グラフを描くことができる。	
	14週	逆関数	6. 無理関数・逆関数を理解し、グラフを描くことができる。	
	15週	前期復習	1. 2. 3. 4. 5. 6.	
	16週			
	後期	3rdQ	1週	累乗根, 指数の拡張
2週			指数関数	8. 指数関数の性質を理解し, グラフを描くことができる。
3週			対数	9. 対数, 常用対数を理解し, 説明できる。
4週			対数関数	10. 対数関数の性質を理解し, グラフを描くことができる。
5週			常用対数	9. 対数, 常用対数を理解し, 説明できる。
6週			鋭角の三角比, 鈍角の三角比	11. 三角関数の概念を理解し, 説明できる。
7週			三角形への応用	11. 三角関数の概念を理解し, 説明できる。
8週			一般角, 一般角の三角関数	11. 三角関数の概念を理解し, 説明できる。
4thQ		9週	弧度法	11. 三角関数の概念を理解し, 説明できる。
		10週	三角関数の性質	11. 三角関数の概念を理解し, 説明できる。
		11週	三角関数のグラフ (1)	12. 三角関数の性質を理解し, グラフを描くことができる。
		12週	三角関数のグラフ (2)	12. 三角関数の性質を理解し, グラフを描くことができる。
		13週	加法定理	13. 加法定理を理解し, 応用することができる。
		14週	加法定理の応用	13. 加法定理を理解し, 応用することができる。
		15週	後期復習	7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	
			指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
			対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
			対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
			角を弧度法で表現することができる。	3	
			三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	
			三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1	
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1	

				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	1	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	1	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合			
	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	物理学 I
科目基礎情報					
科目番号	20041		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	前田恵一(ほか「物理基礎」, 佐藤文隆(ほか「物理 新訂版」 (実教出版) / 「エクセル物理 総合版 物理基礎+物理」 (実教出版)				
担当教員	古崎 広志				
到達目標					
1. 力と速度と加速度を理解できる 2. 運動の諸法則を理解できる 3. 仕事を理解できる 4. 力学的エネルギーとその保存則を理解できる 5. 熱量の保存と比熱について理解できる 6. 運動量とその保存則を理解できる 7. 剛体を理解できる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目1, 2, 7	概念, 関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
到達目標 項目3, 4, 6	概念, 関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
到達目標 項目5	概念, 関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	人類は自然現象の中に存在する法則を発見し, それを応用して文明を築いてきた. 物理学はその中心的役割を果たしてきている. 物理学 I では力と運動に関する現象を中心に, その現象と物理量を言葉や式で表現する. また, 数式で表現された物理量から現象を理解する. こうして技術者としての基礎学力を養い, さまざまな工学的な課題の解決方法を習得することを目的とする.				
授業の進め方・方法	【授業の進め方など】板書により進めていくが, 学生実験を3回行う. 【事前事後学習など】授業内容の復習のため, 毎回課題を与える. 【関連科目】基礎数学 A, 基礎数学 B, 化学 I 【MCC対応】 II-A 物理, II-B 物理実験				
注意点	復習が大事なので, 課題には必ず取り組むこと. 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として学年末の成績が 50 点以上で合格とする. 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する. 前期評価: 前期中間試験 (45%), 前期末試験 (45%), 課題 (10%) 後期評価: 後期中間試験 (45%), 学年末試験 (45%), 課題 (10%) 学年末評価: 前期評価 (50%), 後期評価 (50%)				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	速度	速度を理解できる	
		2週	加速度	加速度を理解できる	
		3週	等加速度直線運動	速度と加速度を理解できる	
		4週	自由落下の実験	自由落下する物体の速度の変化を調べる	
		5週	重力による運動	速度と加速度を理解できる	
		6週	力	力を理解できる	
		7週	力のつり合い	力を理解できる	
	8週	前期中間試験の解答と復習 摩擦力	1~7週の授業内容に関する問題が解ける 力を理解できる		
	2ndQ	9週	摩擦力	力を理解できる	
		10週	いろいろな力, 圧力, 浮力	力を理解できる	
		11週	慣性の法則	運動の諸法則を理解できる	
		12週	運動方程式	運動の諸法則を理解できる	
		13週	運動方程式の応用	運動の諸法則を理解できる	
		14週	復習と演習	8~13週の授業内容に関する問題が解ける	
		15週	前期復習	8~13週の授業内容に関する問題が解ける	
16週					
後期	3rdQ	1週	仕事	仕事を理解できる	
		2週	運動エネルギー	力学的エネルギーを理解できる	

4thQ	3週	位置エネルギー	力学的エネルギーを理解できる
	4週	力学的エネルギー保存の法則	力学的エネルギーとその保存則を理解できる
	5週	熱エネルギー	熱量の保存と比熱について理解できる
	6週	比熱の実験	熱量計を用いた測定により金属の比熱を求める
	7週	復習と演習	1～6週の授業内容に関する問題が解ける
	8週	後期中間試験の解答と復習 運動量	1～6週の授業内容に関する問題が解ける 運動量を理解できる
	9週	運動量と力積	運動量を理解できる
	10週	運動量の保存	運動量とその保存則を理解できる
	11週	運動量と力学的エネルギー	運動量とその保存則を理解できる
	12週	運動量保存の実験	2台の台車を衝突させ、衝突前後の運動量の変化を調べる
	13週	剛体の力学 I	剛体を理解できる
	14週	剛体の力学 II	剛体を理解できる
	15週	後期復習	8～14週の授業内容に関する問題が解ける
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前1,前2
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				運動の法則について説明できる。	3	
				静止摩擦力がはたらいっている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
		重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3			
		弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3			
		力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3			
		物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3			
		運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3			
		運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3			
		力のモーメントを求めることができる。	3			
		剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3			
		重心に関する計算ができる。	3			
		熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	2		
			時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3		
			物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3		
			熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3		
			動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3		
			エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	2		
			不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	2		
			測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	2		
		物理実験	物理実験	安全を確保して、実験を行うことができる。	2	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	2	
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	2	

			力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	
			熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	化学 I
科目基礎情報					
科目番号	20045		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「化学基礎」, 「化学」 (東京書籍), エクセル化学 総合版 (実教出版), スクエア最新図説化学 (第一学習社), 授業用プリント				
担当教員	奥村 真子				
到達目標					
1. 化学実験の基本操作と諸注意を理解できる。 2. 化学の基礎法則を理解できる。 3. 化学式を理解できる。 4. 化学結合の違いを理解できる。 5. 典型元素の化学的性質の周期性を理解できる。 6. アルカリ金属元素の性質の類似性を理解できる。 7. 原子量, 物質量の考え方を理解できる。 8. 遷移金属元素の性質を理解できる。 9. 種々の錯イオンの構造や色を理解できる。 10. 金属イオンの混合溶液を系統立てて分離できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
物質の分離方法 1	物質の性質を利用した分離方法について理解でき, 分離操作を選択できる。	物質の性質を利用した分離方法について理解できる。	物質の性質を利用した分離方法について理解できない。		
原子のつくりと周期表 2, 4, 5, 6	原子の作りと電子軌道について理解でき, 元素と周期表のことが説明できる。	原子の作りと電子軌道について理解できる。	原子の作りと電子軌道について理解できない。		
物質量と化学反応式 2, 3, 7	物質量, モル濃度の算出について理解でき, 化学反応式と関連付けることができる。	物質量, モル濃度の算出について理解できる。	物質量, モル濃度の算出について理解できない。		
典型元素 5, 6	典型元素とは何か及び各元素の性質について周期表と関連付けて理解できる。	典型元素とは何か及び各元素の性質について理解できる。	典型元素とは何か及び各元素の性質について理解できない。		
遷移元素 8, 9	遷移元素とは何か及び各元素の性質について理解でき, 典型元素との違いを説明できる。	遷移元素とは何か及び各元素の性質について理解できる。	遷移元素とは何か及び各元素の性質について理解できない。		
金属イオンの分離 10	イオンの沈澱反応が理解でき, 分離操作を理解できる。	イオンの沈澱反応が理解できる。	イオンの沈澱反応が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	講義や化学実験を通して, 身の回りにある物質の性質, 分類, 構造をさぐり, それらの間に成り立つ法則を調べる。その中で, 専門科目の理解に必要な基礎学力を養い, 得られた化学的な知識や考え方を生かした様々な問題解決の方法を学ぶ。さらに, 化学実験においては, 適切な試薬使用量を守ること, 廃液をむやみに流さないことなど, 環境に配慮する態度を養う。				
授業の進め方・方法	化学 I は講義で学びます。 【事前事後学習など】化学実験のレポートは, 実験当日中に必ず提出すること。提出期限を過ぎたレポートは, 原則として受理しない。 【関連科目】化学 II, 物理学 I, 物理学 II A, 物理学 II B 【MCC対応】II-C 化学, II-D 化学実験				
注意点	記憶する事項が多いが, 単なる丸暗記ではなく, 理屈を考えて記憶すること。 座学だけでなく, 実験を通じて, 注意力, 観察力, 思考力, 技術力を獲得するように努めること。 科学に取り組む基本姿勢である, 常に“なぜ?”と考える習慣を, 毎時間, 身につけてもらいたい。授業は, プリントによって行うので, 絶対に忘れてこないこと。 【評価方法・評価基準】前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。 前期末: 前期中間試験 (50%), 前期末試験 (50%) 学年末: 前期中間試験 (20%), 前期末試験 (20%), 後期中間試験 (20%), 学年末試験 (20%), 実験レポートなど (授業への取り組み姿勢) (20%) ★実験レポートなどの点数は, レポートがすべて受理され, 授業態度が良好と認められた場合にフルマーク (20%) を与える。成績の評価基準として50点以上を合格とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	化学実験 (1)		ガラス細工を通して物質の利用とその性質とのかかわりを理解するとともに実験室における安全について理解ができる。
		2週	物質の分類・分離		物質の分類ならびに混合物の分離方法について理解できる。
		3週	物質と原子・分子 (1) 化学の基礎法則		原子と分子の違い, アボガドロの法則等の化学における基本法則が理解できる。
		4週	物質と原子・分子 (2) 物質の表し方		物質の表し方が理解できる。
		5週	原子の構造		原子の構造について理解できる。

後期	2ndQ	6週	原子の電子配置	原子の電子殻と電子配置について理解できる。	
		7週	元素と周期表	電子殻における電子の重点に関する規則性をもとに各元素と周期表の関係が理解できる。	
		8週	化学結合（1） イオン結合	各元素のイオンへのなりやすさとイオン結合について理解できる。	
		9週	化学結合（2） 共有結合と分子	共有結合とそれからなる分子について理解できる。	
		10週	化学結合（3） 分子の極性	共有結合の分極について理解できる。	
		11週	化学結合（4） 金属結合、結晶の種類とその性質	金属結合と金属格子の種類について理解できる。	
		12週	原子量・分子量と物質質量	原子量、物質質量と物質質量との関係が理解できる。	
		13週	化学実験（2）	アルカリ金属元素に関する実験を通して周期表とイオンへのなりやすさの関係を理解するとともに、ガラス器具を安全に正しく取り扱うことができる。	
	14週	物質質量の応用	物質質量の算出ならびにモル濃度の算出ができる。		
	15週	前期復習	ここまでの知識を総合的に活用することができる。		
	16週				
	後期	3rdQ	1週	化学反応式（1） 化学反応式の書き方	化学反応式を記す際の規則を理解し、化学反応式の作成ができる。
			2週	化学反応式（2） 化学反応式を用いる計算	化学反応式を用い各物質同士の量的関係を理解することができる。
			3週	化学反応式（3） 化学反応式を用いる計算	化学反応式を用い過不足があるケースにおける量的関係を理解することができる。
			4週	典型元素の単体と化合物（1）	1, 2, 13族の性質とその単体について理解できる。
			5週	典型元素の単体と化合物（2）	14, 15, 16族の性質とその単体について理解できる。
6週			典型元素の単体と化合物（3）	17, 18族の性質とその単体について理解できる。	
7週			復習	ここまでの知識を総合的に活用することができる。	
8週			化学実験（3）	過不足のあるケースについての実験を行いこれまでの知識を活用し、化学反応における量的関係を理解するとともに、ガラス器具を安全に正しく取り扱うことができる。	
4thQ		9週	遷移元素の単体と化合物（1） 遷移元素と典型元素の違い	遷移元素と典型元素の違いを理解することができる。	
		10週	遷移元素の単体と化合物（2） 遷移元素	Mn, Feの特徴について理解できる。	
		11週	遷移元素の単体と化合物（3） 遷移元素	Cr, Cu, Agの特徴について理解できる。	
		12週	遷移元素の単体と化合物（4） 遷移元素と錯イオン	錯イオンについて理解できる	
		13週	金属イオンの系統分離とその確認	金属イオンの沈澱反応を用いる金属イオンの分離法について理解できる。	
		14週	化学実験（4）	金属イオンの分離実験を行い、分離方法における知識を通して現象が理解できるとともに、ガラス器具を安全に正しく取り扱うことができる。	
		15週	後期復習	ここまでの知識を総合的に活用することができる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	
			物質が原子からできていることを説明できる。	3		
			単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3		
			同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3		
			純物質と混合物の区別が説明できる。	3		
			混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3		
			原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	2		
			同位体について説明できる。	3		
			放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3		
			原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3		
			価電子の働きについて説明できる。	3		
			原子のイオン化について説明できる。	3		
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	2		
			原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3		
			元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3		
			イオン式とイオンの名称を説明できる。	3		
			イオン結合について説明できる。	3		
			イオン結合性物質の性質を説明できる。	3		
			イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3		
			共有結合について説明できる。	2		

				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3		
				自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3		
				金属の性質を説明できる。	3		
				原子の相対質量が説明できる。	3		
				天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	3		
				アボガド口定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	3		
				分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	3		
				気体の体積と物質量の関係を説明できる。	3		
				化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	2		
				化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	2		
				電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	2		
				質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	2		
				モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	2		
	化学実験	化学実験		実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	2		
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	2		
				測定と測定値の取り扱いができる。	2		
				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	2		
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	2		
				ガラス器具の取り扱いができる。	2		
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	2		
				試薬の調製ができる。	2		
				代表的な気体発生の実験ができる。	2		
				代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	2		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1		
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1		
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1		
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1		
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1		
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	1		
				複数の情報を整理・構造化できる。	1		
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1					
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	1					
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
					自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
					目標の実現に向けて計画ができる。	1	
					目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
					日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
					社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
					チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
					チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。					1		
チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。					1		
自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1						
その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	1						
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力		工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	1		

評価割合			
	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	保健体育 I
科目基礎情報					
科目番号	20051		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習・実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	アクティブスポーツ総合版 (大修館書店)		その他、図書館に多数の関連書籍がある。		
担当教員	北田 耕司, 岩竹 淳				
到達目標					
<p>【陸上競技】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 陸上競技に必要な技術・体力的要素を理解し説明できる。 2. 自己の持つ力を最大限に発揮することができる。 3. 標準記録をクリアできる。 4. ルールを理解し説明できる。 <p>【バドミントン】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ラリーを続けることができる。 6. ルールを理解しゲームができる。 <p>【トレーニング科学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 筋の種類と構造、活動様式を理解し説明できる。 8. 筋のエネルギー代謝特性を理解し説明できる。 <p>【バレーボール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 確実なサーブとレシーブができる。 10. ルールを理解しゲームができる。 <p>【バスケットボール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. ルールを理解し、ゲームを楽しむことができる <p>【保 健】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 飲酒と喫煙の害を理解し説明できる。 13. 性の意味を理解し説明できる。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標項目 1, 2, 3, 4, 5, 6, 9, 10, 11		ルールを理解するとともに、運動の技術的、体力的および戦術的な構造を把握して運動に取り組むことができる。	ルールを理解して運動に取り組むことができる。	ルールを理解できず運動に取り組むことが困難である。	
到達目標項目 7, 8, 12, 13		健康の保持および増進に必要な知識を身につけ、自己または他者に実践することができる。	健康の保持および増進に必要な知識を身につけ、自己実践することができる。	健康の保持および増進に必要な知識を身につけることが困難である。	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	保健体育は技術者としてはもとより、人間としてより良い生活を実践していくための基礎学力および国際社会を多面的に捉える教養を身につける。個人の健康の保持増進に努めると共に、幅広い視点から社会性を見につけ、意欲的かつ実践的に運動課題の解決に取り組む姿勢を育成する。				
授業の進め方・方法	理解を深めるため、必要に応じてレポートや課題を課すことがある。 【MCC対応】Ⅶ 汎用的技能, Ⅷ 態度・志向性 (人間力), Ⅸ 総合的な学修経験と創造的思考力0				
注意点	<p>前期は雨天時にバレーボールを実施する。 学校指定の服装を着用すること。体育館に入るときは必ず学校指定の室内シューズに履きかえること。 障害防止等安全上の観点より、実技授業中は携帯電話の保持やアクセサリ類の着用を禁ずる。 怪我等身体的事由により規定の種目が受講できない場合は、適宜レポート課題を課す。 課題のレポートは期限内に必ず提出すること。</p> <p>【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期実技試験, 前期末筆記試験, 後期実技試験, 後期末筆記試験を実施した上で下記の割合で前期末と学年末の成績を算出する。 前期末: 実技試験 (70%), 期末筆記試験 (30%) 後期末: 実技試験 (60%), 期末筆記試験 (30%), レポート (10%) 学年末: 前期評価と後期評価の平均</p>				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・スポーツテスト (屋内種目)	授業における各種の注意点について理解できる。 スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		2週	スポーツテスト (屋外種目 50m走・ハンドボール投)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		3週	スポーツテスト (屋内種目 シャトルランテスト)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		4週	陸上競技 短距離走 (1)	短距離走に必要な技術・体力的要素を理解し説明できる。	
		5週	陸上競技 短距離走 (2)	自己の持つ力を最大限に発揮できる。	
		6週	陸上競技 跳躍 (1)	跳躍に必要な技術・体力的要素を理解し説明できる。	
		7週	陸上競技 跳躍 (2)	自己の持つ力を最大限に発揮できる。	
		8週	陸上競技 投擲 (1)	投擲に必要な技術・体力的要素を理解し説明できる。	
	2ndQ	9週	陸上競技 投擲 (2)	自己の持つ力を最大限に発揮できる。	
		10週	陸上競技 長距離走	長距離走に必要な技術・体力的要素を理解し説明できる。	

後期	3rdQ	11週	バドミントン	サーブ, ラリー練習	確実なサーブとラリーができる。
		12週	バドミントン	ゲーム	ルールを理解しゲームができる。
		13週	バドミントン	テスト	実技テスト課題を達成できる。
		14週	保 健	飲酒と喫煙を考える	飲酒と喫煙の害を理解し説明できる。
		15週	前期復習		前期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。
		16週			
	4thQ	1週	バレーボール	パス, レシーブ練習	確実なパスとレシーブができる。
		2週	バレーボール	サーブ, レシーブ練習	確実なサーブとレシーブができる。
		3週	バレーボール	ゲーム	ルールを理解してゲームができる。
		4週	バレーボール	ゲーム	ルールを理解してゲームができる。
		5週	バレーボール	ゲーム	ルールを理解してゲームができる。
		6週	バレーボール	テスト	実技テスト課題を達成できる。
		7週	トレーニング科学	筋カトレーニングの基礎	筋の種類と構造、活動様式を理解し説明できる。
		8週	トレーニング科学	トレーニングの原理・原則	トレーニングの原理・原則を理解し説明できる。
		9週	トレーニング科学	エネルギー供給系1	筋のエネルギー代謝特性を理解し説明できる。
		10週	トレーニング科学	エネルギー供給系2	筋のエネルギー代謝特性を理解し説明できる。
11週	バスケットボール	パス・ドリブル基礎練習	確実なパスとドリブルができる。		
12週	バスケットボール	ゲーム	ルールを理解してゲームができる。		
13週	バスケットボール	ゲーム	ルールを理解してゲームができる。		
14週	保 健	性を考える	性の意味を理解し説明できる。		
15週	後期復習		後期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。		
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1		
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	1		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1		
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1		
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1		
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	1		
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1		
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	1		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	1	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
目標の実現に向けて計画ができる。	1					
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1					
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1					
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1					
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1					
チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1					
当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1					
チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1					

				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合

	実技試験	筆記試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	65	30	5	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	65	30	5	100

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	美術
科目基礎情報					
科目番号	20061		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	美術書, ビデオ				
担当教員	南 淳史				
到達目標					
1. ものの見え方見方を理解し, 表現できる。 2. 構図のとらえ方ができる。 3. 形を正確にとらえられる。 4. 明暗により平面に奥行きを表現できる。 5. 石ころの質感を表現できる。 6. 自由な線の表現ができる。 7. 自由な発想ができる。 8. 自由な発想を構成し形にできる。 9. 個性的な色の表現ができる。 10. 表現に適した色の塗り方 (技術) ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1,2,3,4,5	構図と形を正確にとらえ, 表現できている。 明暗により立体感, 奥行きが表現できている。 ものをよく見ている。	形を正確にとらえている。 影と光で立体感を表現できている。 ものをよく見ようと努力している。	構図や形が正確にとらえられていない。 ものをよく見ようとせず, 表現に立体感がなく平面的になっている。		
到達目標項目6,7,8,9,10	自由な発想を構成し, 形や色で的確に表現ができている。 線の引き方, 色の塗り方がより自分の想う表現になっている。	自由な発想を構成し, 形や色で表現ができている。 線の引き方, 色の塗り方が表現につながっている。	自由な発想が形や色で表現できていない。 線の引き方, 色の塗り方が表現につながっていない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	個性ある表現力を身に付けるために, 自分自身の目や感覚で意欲的にものを見る方法や色彩感覚など, 技術士として必要な基礎学力を養う。課題に対して感じたものを表現するために鉛筆や筆や絵具などの使い方を身に付け, ものづくり・課題の解決に, 実践的・意欲的に最後まで取り組む姿勢を養う。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】自然観察, 美術展などの鑑賞, 映画鑑賞 【関連科目】全科目				
注意点	・なんにでも興味を示す気持ちが大切である。・作品を完成して提出すること。・個性を信じて, 自信を持って表現すること。 ・製作する時の集中力が大切である。・鉛筆 (HB) 消しゴムを持参すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 作品の提出 (20%) 作品の完成度 (20%) 作品の個性 (20%) 興味を示す態度 (20%) 受講態度および平常の学習状況 (20%)				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	石ころデッサン 構図 もの見え方見方	もの見え方見方を理解し, 表現できる。構図のとらえ方ができる。	
		2週	石ころデッサン 単純化された形の表現	形を正確にとらえられる。	
		3週	石ころデッサン 複雑な形の表現	形を正確にとらえられる。	
		4週	石ころデッサン 光と影 明暗による三次元の表現	明暗により平面に奥行きを表現できる。	
		5週	石ころデッサン 光と影 明暗による三次元の表現	明暗により平面に奥行きを表現できる。	
		6週	石ころデッサン 質感の表現	石ころの質感を表現できる。	
		7週	石ころデッサン 完成へのアプローチ		
		8週	音のドローイング	自由な線の表現ができる。	
	2ndQ	9週	音から触発された形	自由な発想ができる。	
		10週	鉛筆で濃淡によるエスキース制作	自由な発想を構成し形にできる。	
		11週	鉛筆で濃淡によるエスキース制作	自由な発想を構成し形にできる。	
		12週	色を塗る為の技術と道具の説明	表現に適した色の塗り方 (技術) ができる。	
		13週	色と形と心の関係	個性的な色の表現ができる。	
		14週	色と形と心の関係	個性的な色の表現ができる。	
		15週	前期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		ポートフォリオ	取組み状況	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	基礎オーラルコミュニケーション
科目基礎情報					
科目番号	20071	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子情報工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	David Martin『Talk a Lot, Book One』 (EFL Press)				
担当教員	リチャード カーティス				
到達目標					
1. 基本的な英会話に必要な語彙や表現を身につける。 2. 基本的な語句や文の聴き取りや発音ができる。 3. 基本的な対話やアナウンス等を聴いて理解できる。 4. 基本的な英作文ができる。 5. 基本的なコミュニケーションがとれる。 6. 基本的な表現を用いて自分の意見や感想を述べることができる。 7. 異文化についての理解を深め、国際的な視点を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 1	基本的な語彙や表現を習得できる。	基本的な語彙や表現を概ね習得できる。	基本的な語彙や表現を習得することが困難である。		
到達目標 2, 3	基本的な対話やアナウンス等を聴いて、その内容を理解できる。	基本的な対話やアナウンス等を聴いて、その内容を概ね理解できる。	基本的な対話やアナウンス等を聴いて、その内容を理解することが困難である。		
到達目標 4	辞書を用いて基本的な英作文ができる。	教科書の例文などを参考にして基本的な英作文ができる。	教科書の例文などを参考にしても基本的な英文作成を行うことが困難である。		
到達目標 5	自らの言葉で基本的なコミュニケーションがとれる。	教科書の例文などを参考にしながら基本的なコミュニケーションがとれる。	教科書の例文などを参考にしても基本的なコミュニケーションをとることが困難である。		
到達目標 6	基本的な表現を用いて自分の意見や感想を積極的に述べるができる。	基本的な表現を用いて自分の意見や感想を述べるができる。	自分の意見や感想を述べるのが困難である。		
到達目標 7	自ら積極的に調べるとなどして異文化についての理解を深め、国際的な視点を身につけることができる。	教科書に出てくる題材に関する異文化についての理解を深め、国際的な視点を身につけることができる。	異文化についての理解を深め、国際的な視点を身につけることが困難である。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	コミュニケーション能力を養うため、語彙力向上指導、聴き話す能力向上指導、英作文指導を行う。幅広い視点から自らの立場を理解するための異文化理解指導も含め、英語による自己表現の基礎学力となる総合的な英語力を養う。				
授業の進め方・方法	[事前事後学習など] 到達目標の達成度を確認するため、随時演習課題を与える。長期休暇時に自習課題を与える。 [関連科目] 基礎英語 I, 英語表現 I [MCC対応] III-B 英語, VII 汎用的技能, VIII 態度・志向性 (人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	このクラスでは、リスニング練習、発音練習、対話練習などのアクティビティを通して、英語コミュニケーション・スキルの習得を目指す。そのため、授業中の積極的なアクティビティへの参加が重要である。授業には必ず辞書を持っていくこと。また、課題などの提出物にも積極的に取り組み、着実に提出すること。 [評価方法・評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末: 中間試験 (30%), 期末試験 (30%), 課題・小テスト・英語活動への参加 (40%) 後期末: 中間試験 (30%), 学年末試験 (30%), 課題・小テスト・英語活動への参加 (40%) 学年末: 前期末と後期末の平均				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	HELP! Useful Language Getting Started Unit 1: Getting to know each other	授業で用いる表現が使える。自己紹介にかかわるやりとりができる。	
		2週	Unit 1: Getting to know each other, Unit 2: Talking about Interests	誕生日を述べるができる。自分の興味についてのやりとりができる。	
		3週	Unit 2: Talking about Interests	さまざまな活動について自分の意見を述べるができる。またクラスメートの意見に賛成したり反対したりすることができる。	
		4週	Unit 3: Talking about Family	家族についてのやりとりができる。	
		5週	Unit 3: Talking about Family, Unit 4: Talking about People	親戚についてのやりとりができる。人の外見を描写することができる。	
		6週	Unit 4: Talking about People	人の外見についてのやりとりができる。	
		7週	まとめと復習	Unit 1からUnit 4で学んだ表現を用いてやりとりができる。学んできた発音の仕方に留意できる。	
		8週	Unit 5: Talking about Work	仕事についてのやりとりができる。	

後期	2ndQ	9週	Unit 5: Talking about Work, Unit 6: Talking about Past Experiences	時間を表現することができる。過去の経験について述べることができる。	
		10週	Unit 6: Talking about Past Experiences	過去の経験についてのやりとりができる。	
		11週	Unit 7: Talking about Sports	スポーツについて簡単な説明をすることができる。	
		12週	Unit 7: Talking about Sports, Unit 8: Talking about other Countries	スポーツについてのやりとりができる。外国について簡単な説明をすることができる。	
		13週	Unit 8: Talking about other Countries	外国についてのやりとりができる。	
		14週	まとめと復習	Unit 5からUnit 8で学んだ表現を用いてやりとりができる。学んできた発音の仕方に留意できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
	後期	3rdQ	1週	Unit 9: Talking about Experiences	経験について述べるができる。
			2週	Unit 9: Talking about Experiences, Unit 10: Talking about Places	経験にかかわるやりとりができる。モノなどの位置を説明することができる。
			3週	Unit 10: Talking about Places	地図にもとづき道案内ができる。
			4週	Unit 11: Travel English Part I: Traveling to Hawaii	レストランの予約ができる。飛行機の予約ができる。
			5週	Unit 11: Travel English Part I: Traveling to Hawaii, Unit 12: Talking about Japanese Things	飛行機の予約確認ができる。日本のモノ、場所について簡単な説明をすることができる。
			6週	Unit 12: Talking about Japanese Things	日本の習慣について説明することができる。モノの価格にかかわるやりとりができる。
			7週	まとめと復習	Unit 9からUnit 12で学んだ表現について、発音に留意しながら、やりとりができる。
			8週	Unit 13: Talking about Future Events	未来のできごとについて述べるができる。
4thQ		9週	Unit 13: Talking about Future Events, Unit 14: Talking about School	未来のできごとに関するやりとりができる。学校について描写することができる。	
		10週	Unit 14: Talking about School	学校にかかわるやりとりができる。	
		11週	Unit 15: Travel English Part II: Traveling to Thailand	旅行の準備にかかわるやりとりができる。	
		12週	Unit 15: Travel English Part II: Traveling to Thailand, Unit 16: Talking about Sickness & Health	買い物にかかわるやりとりができる。体の部位を描写できる。	
		13週	Unit 16: Talking about Sickness & Health	体調にかかわるやりとりができる。	
		14週	まとめと復習	Unit 13からUnit 16で学んだ表現を用いてやりとりができる。発音に留意できる。	
		15週	後期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	
			英語運用能力の基礎固め	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1		
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1		
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1		
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1		
	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1				
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	1				
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。				1		
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。				1		
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1		

評価割合

	試験	課題・小テスト等	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	基礎英語 I
科目基礎情報				
科目番号	20072	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	栗原文子 他『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I』(東京書籍)/東京書籍編集部『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I WORKBOOK』(東京書籍), 柏木厚子 他『Listen for It!』(いっずな書店), 岩村圭南『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』(研究社)			
担当教員	川島 嘉美			
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な英語による音声から必要な情報を聞き取り, 話し手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 基本的な英文から必要な情報を読み取り, 書き手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを口頭で伝えることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して口頭で発表することができる。 5. 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを書いて伝えることができる。 6. 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章で伝えることができる。 7. 英語多読に意欲的に取り組むことができる。 8. 授業で取り上げる話題の背景知識を理解することができる。 9. 授業で取り上げる話題に関連する英語表現を身につけることができる。 				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な英語による音声から必要な情報を聞き取り, 話し手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	支援を活用すれば, 基本的な英語による音声から必要な情報を聞き取り, 話し手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	支援を活用しても, 基本的な英語による音声から必要な情報を聞き取り, 話し手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることが困難である。	
評価項目2	基本的な英文から必要な情報を読み取り, 書き手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	支援を活用すれば, 基本的な英文から必要な情報を読み取り, 書き手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	支援を活用しても, 基本的な英文から必要な情報を読み取り, 書き手の意図を把握したり, 概要や要点を目的に応じて捉えたりすることが困難である。	
評価項目3	基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを口頭で伝えることができる。	支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを口頭で伝えることができる。	支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを口頭で伝えることが困難である。	
評価項目4	基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して口頭で発表することができる。	支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して口頭で発表することができる。	支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して口頭で発表することが困難である。	
評価項目5	基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを書いて伝えることができる。	支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを書いて伝えることができる。	支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを書いて伝えることが困難である。	
評価項目6	基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章で伝えることができる。	支援を活用すれば, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章で伝えることができる。	支援を活用しても, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章で伝えることが困難である。	
評価項目7	英語多読に意欲的に取り組むことができる。	英語多読に取り組むことができる。	英語多読に取り組むことができない。	
評価項目8	自ら積極的に調べ, 授業で取り上げる話題の背景知識を理解することができる。	授業で取り上げる話題の背景知識を理解することができる。	授業で取り上げる話題の背景知識を理解することが困難である。	
評価項目9	自ら積極的に調べ, 授業で取り上げる話題に関連する英語表現を身につけることができる。	授業で取り上げる話題に関連する英語表現を身につけることができる。	授業で取り上げる話題に関連する英語表現を身につけることが困難である。	
学科の到達目標項目との関係				
本科学習目標 1 本科学習目標 3				
教育方法等				
概要	本授業では「読む・聞く・話す(やり取り/発表)・書く」という語学の4技能5領域を総合的に習得することを大きな目標とする。リーディングでは丁寧に英文を読み進め, 他方では多くの英文にふれることにより, 文の流れのなかで語彙やその使い方をつかみ, 英語の構造や特色を理解していく。リスニングでは英語の特徴を理解し, 必要な情報や要点を聞き取るトレーニングを行う。アウトプット活動では, 口頭でのやりとりやプレゼン・スピーチのほか, テキスト・ジャンルに応じた英文ライティングを行い, それぞれのスタイルにふさわしい表現方法を学ぶ。これらの取り組みを通して基礎的な文法知識を蓄え, それらに応用する力を身につけて英語の資格試験を含むさまざまな英文への対応能力を培う。授業で扱われる話題をCLIL(内容言語統合型学習)を通して英語で学び, 知見を広げるとともに, 語学そのものを通して複眼的な視点から社会と環境に配慮する世界観・人生観を確立し, 自分自身の意見を伝える力や他者との対話力を磨いていく。			
授業の進め方・方法	【授業の進め方など】4技能5技能習得のための活動を行う。 【事前事後学習など】理解を深めるため, 随時課題を与える。 【関連科目】英語表現 I, 基礎オーラルコミュニケーション 【MCC対応】Ⅲ-B 英語, IV-D グローバリゼーション・異文化多文化理解, VII 汎用的技能, VIII 態度・志向性(人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力			

注意点	<p>英語によるアウトプット活動をはじめとする授業中のアクティビティーには積極的に参加すること。 予習では疑問点や不明点、判断に迷う点を明確にし、可能な範囲で調べておくこと。 予習で見つけた疑問点や不明点、判断に迷う点を解決できるよう積極的に授業に取り組むこと。 授業時には辞書を持参すること。 多くの英文にふれることで英文の仕組みが分かり、語彙の定着も進むので、多読多聴図書（図書館蔵）を積極的に利用すること。授業でも随時、多読活動の機会を与える。 授業の一環として実力試験TOEIC Bridge IPを実施する。 【評価方法・評価基準】 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末：中間試験（30%）、期末試験（30%）、課題・英語活動への参加（40%） 後期末：中間試験（30%）、学年末試験（30%）、課題・英語活動への参加（30%）、英語実力試験（10%） 学年末：前期末と後期末の平均</p>
-----	---

テスト
 授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	--	--	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	導入、ことばについて、日本語と英語、英語多読多聴図書の紹介。/Unit 1 What can happen in one second?	ことばの役割を知る。さまざまな観点から英語と日本語を比較し、各言語の特徴をつかむ。英語多読多聴図書の活用法を知り、実際に多読多聴活動に取り組む。トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
		2週	Unit 1 What can happen in one second?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		3週	Unit 1 What can happen in one second?	英語によるアウトプット活動を行う。
		4週	Unit 2 What do superstitions mean to you?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
		5週	Unit 2 What do superstitions mean to you?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		6週	Unit 2 What do superstitions mean to you?	英語によるアウトプット活動を行う。
		7週	まとめと復習	Unit 1・2の振り返りを行う。
		8週	Unit 3 How can we promote sustainability?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
	2ndQ	9週	Unit 3 How can we promote sustainability?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		10週	Unit 3 How can we promote sustainability?	英語によるアウトプット活動を行う。
		11週	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
		12週	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		13週	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians?	英語によるアウトプット活動を行う。
		14週	まとめと復習	Unit 3・4の振り返りを行う。
		15週	前期復習	
		16週		
後期	3rdQ	1週	Unit 5 Why do people tell each other stories?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
		2週	Unit 5 Why do people tell each other stories?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		3週	Unit 5 Why do people tell each other stories?	英語によるアウトプット活動を行う。
		4週	Unit 6 What are the qualities of a good leader?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		5週	Unit 6 What are the qualities of a good leader?	トピックに関連したさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		6週	Unit 6 What are the qualities of a good leader?	英語によるアウトプット活動を行う。
		7週	まとめと復習	Unit 5・6の振り返りを行う。
		8週	Unit 7 Where will you live in the future?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
	4thQ	9週	Unit 7 Where will you live in the future?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		10週	Unit 7 Where will you live in the future?	英語によるアウトプット活動を行う。
		11週	Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	トピックに関連する会話の聞き取り、重要フレーズのトレーニング、テキストを読むトレーニングを行う。
		12週	Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	トピックに関連するさらなる情報についてリスニング、リーディングで理解を深め、アウトプット活動の準備をする。
		13週	Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	英語によるアウトプット活動を行う。
		14週	まとめと復習	Unit 7・8の振り返りを行う。

	15週	後期復習	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1		
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	前1	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	1	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	1	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	1	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	1	
				それ以外の国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1		
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	

評価割合

	試験	課題・英語活動への参加（後期は+英語実力試験）	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	20074		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「be English Logic and Expression I Clear」 「be 総合英語 4th Edition」 「be English Logic and Expression I Clear Grammar Book」 「be English Logic and Expression I Clear Workbook」 (以上、いいずな書店) 「DataBase 4500 完成英単語・熟語 [5th Edition]」 (桐原書店) / 「ジーニアス英和辞典」 (大修館書店)、「ウィズダム和英辞典」 (三省堂)				
担当教員	香本 直子				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだ文法事項を含む英文を読んで理解できる。 2. 学んだ文法事項を含む英文を聴いて理解できる。 3. 学んだ文法事項を含む表現を補って英文を完成させることができる。 4. 学んだ文法事項を含む英文を指定された語彙を用いて正しい語順で表現できる。 5. 学んだ文法事項を用いて英作文ができる。 6. 学んだ文法事項を含む英文を口頭で発表できる。 7. 学んだ文法事項を用いてコミュニケーションができる。 8. 学んだ語彙を文法に結びつけて運用できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	既習の文法事項を含む英文を読んで正しく理解できる。	既習の文法事項を含む英文を読んで概ね理解できる。	既習の文法事項を含む英文を読んで理解できない。		
評価項目2	既習の文法事項を含む英文を聞いて正しく理解できる。	既習の文法事項を含む英文を聞いて概ね理解できる。	既習の文法事項を含む英文を聞いて理解できる。		
評価項目3	既習の文法事項を含む表現を補って適切な英文を完成させることができる。	既習の文法事項を含む表現を補って英文をなんとか完成させることができる。	既習の文法事項を含む表現を補って英文を完成させることができない。		
評価項目4	既習の文法事項を含む英文を指定された語彙を用いて適切な語順で表現できる。	既習の文法事項を含む英文を指定された語彙を用いてなんとか語句を並べて表現することができる。	既習の文法事項を含む英文を指定された語彙を用いて表現することができない。		
評価項目5	既習の文法事項を用いて自然な英語で英作文を完成させることができる。	既習の文法事項を用いてなんとか英作文を完成させることができる。	既習の文法事項を用いて英作文を完成させることができない。		
評価項目6	既習の文法事項を含む英文を適切な発音で口頭発表できる。	既習の文法事項を含む英文をなんとか口頭で発表できる。	既習の文法事項を含む英文を口頭で発表することができない。		
評価項目7	既習の文法事項を用いて自分の意見を意図した通りに相手に伝えることができ、相手にそれを正しく理解してもらうことができる。	既習の文法事項を用いて自分の意見を相手に伝え、相手にそれを理解してもらうことが概ねできる。	既習の文法事項を用いて自分の意見を相手に伝え、相手にそれを理解してもらうことができない。		
評価項目8	既習の語彙を既習の文法事項に応用させて適切に運用することができる。	既習の語彙を既習の文法事項に応用させてなんとか運用することができる。	既習の語彙を既習の文法事項に応用させて運用することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	国際社会に対応できる英語力・コミュニケーション力を養うための基礎となる文法知識を身につける。いずれも英語を運用するうえで欠かすことのできない知識であり、より発展的・専門的な内容を学ぶための土台固めとなる。同時に、母語とは異なる言語を学ぶことで新しい視点からの物の見方・考え方を知り、他文化に対する理解を深めていくことを目標とする。				
授業の進め方・方法	授業で学んだ表現や単語・熟語集をもとに語彙力固めを図ること。日常的に英語の音声にふれ、リスニング能力の向上に努めること。 【事前事後学習】 予習・復習をしっかり行うこと。予習では教科書や参考書、配布資料を参照し、自分が理解できる箇所と理解できない箇所を把握しておく。授業では、予習で学んだことへの理解を深めるとともに不明点の解消に努める。復習では、学んだ範囲が理解できているかを確認し、知識を定着させる。長期休業中に自習課題を与える。適宜、課題を課す。 【関連科目】 基礎英語 I, 基礎オーラルコミュニケーション 【MCC対応】 III-B 英語, VII 汎用的技能, VIII 態度・志向性 (人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	授業には辞書 (紙の辞書もしくは電子辞書) を必ず持参すること。授業中は携帯電話・スマートフォン・タブレット等通信機器による辞書機能の使用は認めない。 クラスメイトと協力して積極的なコミュニケーション活動を行うことが求められる。 【評価方法・評価基準】 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末成績: 中間試験 (40%), 期末試験 (40%), 課題・小テスト等 (20%) 後期末成績: 中間試験 (40%), 学年末試験 (40%), 課題・小テスト等 (20%) 学年末成績: 前期末成績と後期末成績の平均 学習内容に関連する語彙や基本的な単語・熟語が身につけているかを確認するため、単語・熟語集を用いた小テストを行う。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週	オリエンテーション Introduction「やり取り」「発表」「書く」ためのウ ォーミングアップ 英語の語順	授業の概要や、目的・目標、進め方がわかる 英語の語順を踏まえて、自分のことを話すことができ る
		2週	Introduction「やり取り」「発表」「書く」ためのウ ォーミングアップ 品詞、文の種類	品詞や文の種類について理解し、必要な情報を聞き出 すことができる また身近な内容を文章にまとめて発表することができる
		3週	Lesson 1: Meeting People 現在形：状態動詞、現在形：動作動詞	自分のことや身近な人のことを、学んだ文法事項を踏 まえ、適切な表現を用いて表現できる
		4週	Lesson 1: Meeting People 現在進行形、現在進行形：予定	自分のことや身近な人のことを、学んだ文法事項を踏 まえ、適切な表現を用いて表現できる
		5週	Lesson 2: Holidays and Weekends 過去形、過去進行形	休日や休暇中のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		6週	Lesson 2: Holidays and Weekends 過去形・過去進行形、used to	休日や休暇中のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		7週	Lesson 3: Making Plans will, be going to	予定について、学んだ文法事項を踏まえ、適切な表現 を用いて表現できる
		8週	まとめと復習	これまで学んだことを整理・復習して、総合的な英語 力を高めることができる
	2ndQ	9週	Lesson 3: Making Plans will be+ing形、whenやifのあとの現在形	予定について、学んだ文法事項を踏まえ、適切な表現 を用いて表現できる
		10週	Lesson 4: Travel 現在完了形：完了・結果、現在完了形：経験	旅行や移動について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		11週	Lesson 4: Travel 現在完了形・現在完了進行形：継続、現在完了形と過 去形	旅行や移動について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		12週	Lesson 5: Study and Activities 過去完了形：完了・経験、過去完了形・過去完了進行 形：継続	学習や学校での活動について、学んだ文法事項を踏ま え、適切な表現を用いて表現できる
		13週	Lesson 5: Study and Activities 過去完了形：大過去、will have+過去分詞	学習や学校での活動について、学んだ文法事項を踏ま え、適切な表現を用いて表現できる
		14週	Lesson 6: Food Culture can, be able to, can't	食べ物や食事について、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		15週	前期復習	これまで学んだことを整理・復習して、総合的な英語 力を高めることができる
		16週		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6: Food Culture may, might, may[might] have+過去分詞	食べ物や食事について、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		2週	Lesson 7: School Life must, have to, should, had better	学校生活のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適切な 表現を用いて表現できる
		3週	Lesson 7: School Life must, should, should/must have+過去分詞	学校生活のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適切な 表現を用いて表現できる
		4週	Lesson 8: Daily Life will, would, would often	日常生活について、学んだ文法事項を踏まえ、適切な 表現を用いて表現できる
		5週	Lesson 8: Daily Life would, will, can, shall	日常生活について、学んだ文法事項を踏まえ、適切な 表現を用いて表現できる
		6週	Lesson 9: Transportation Issues 受動態の基本形、受動態の疑問文	交通や建造物のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		7週	Lesson 9: Transportation Issues 進行形・完了形の受動態、感情を表す受動態	交通や建造物のことを、学んだ文法事項を踏まえ、適 切な表現を用いて表現できる
		8週	まとめと復習	これまで学んだことを整理・復習して、総合的な英語 力を高めることができる
	4thQ	9週	Lesson 10: Future Activities 不定詞の名詞用法	将来したい活動について、学んだ文法事項を踏まえ 、適切な表現を用いて表現できる
		10週	Lesson 10: Future Activities 疑問詞+不定詞、不定詞の意味上の主語と否定語	将来したい活動について、学んだ文法事項を踏まえ 、適切な表現を用いて表現できる
		11週	Lesson 11: Staying Healthy 不定詞の形容詞用法、不定詞の副詞用法：目的	健康や運動について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		12週	Lesson 11: Staying Healthy 不定詞の副詞用法：原因・根拠、形容詞+不定詞	健康や運動について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		13週	Lesson 12: New Products SVO+不定詞、使役動詞+名詞+動詞の原形	新しい製品について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		14週	Lesson 12: New Products 知覚動詞+名詞+動詞の原形、不定詞の進行形・受動 態・完了形	新しい製品について、学んだ文法事項を踏まえ、適切 な表現を用いて表現できる
		15週	後期復習	これまで学んだことを整理・復習して、総合的な英語 力を高めることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	英語	英語運用の 基礎となる 知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1

分野横断的能力				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1		
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1		
				英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	
					日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	
					日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	
					母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	
					実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	
					英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	
				英語運用能力向上のための学習	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	
					母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
					関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	
					関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	
					実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1		
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1		
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1		
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
					自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
					社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
					他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	1	

評価割合			
	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	電子情報工学基礎 I
科目基礎情報					
科目番号	20309		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	前期は教材テキスト 後期は文科省検定教科書「ハードウェア技術」(実教出版株式会社)				
担当教員	山田 健二				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. カラーコードを理解し, 説明できる。 2. 補助単位を用いた計算ができる。 3. オームの法則を用いた簡単な計算ができる。 4. 直列回路と並列回路の計算ができる。 5. 分流器と倍率器のしくみを理解し, 説明できる。 6. ブリッジ回路を理解し, 説明できる。 7. 電源の内部抵抗を理解し, 説明できる。 8. ブレッドボードを用いて回路を組むことができる。 9. 各種電子素子の取扱い方法を説明できる。 10. コンピュータの五つの装置と装置間のデータの流れを理解し, 説明できる。 11. コンピュータの組立てを行い, 保守管理の意義を理解し, 説明できる。 12. コンピュータでのデータ表現を理解し, 説明できる。 13. 基本的な論理回路を理解し, 説明できる。 14. 論理回路をブレッドボードを用いて構成し論理を確認できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目1, 2, 8, 9	電子部品の知識があり取り扱うことができる	基本的な電子部品の知識があり取り扱うことができる	基本的な電子部品の知識があり取り扱うことができない		
到達目標 項目3~7, 13, 14	電気回路について理解し計算できる	基本的な電気回路について理解し計算できる	基本的な電気回路について理解し計算できない		
到達目標 項目10~12	コンピュータについて理解し説明できる	基本的なコンピュータについて理解し説明できる	基本的なコンピュータについて理解し説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	エレクトロニクス(電子技術)を理解し応用する技術を身に付けるために, 前半は電気回路の基礎を学習する。後半はコンピュータハードウェアの構成およびその基本回路(演算)を学習する。いずれも内容は必要最小限にとどめ, 基本概念の習熟と基本的課題の解決能力を養うことを目指す。				
授業の進め方・方法	教材テキストや教科書に沿って進み, 直流回路, 直列・並列回路, 電子部品, 論理回路, マイクロプロセッサ, メモリ, 入出力装置を学ぶ。 【事前事後学習など】到達目標の達成度を確認するため, 随時, 演習問題を与える。 【関連科目】電子情報工学基礎Ⅱ, 回路基礎, コンピュータアーキテクチャ, デジタル回路 【MCC対応】V-D-8 その他の学習内容, 情報教育対応科目				
注意点	日頃の予習・復習が大事です。課題等は期限までに必ず提出すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末: 前期中間試験40%, 前期期末テスト40%, 前期課題および小テスト20% 後期分: 後期中間試験40%, 後期末試験40%, 後期課題または小テスト20% 学年末: 前期末50%, 後期分50%				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電子情報技術	電子情報技術を説明できる 補助単位を理解し計算できる	
		2週	オームの法則	オームの法則を理解し計算できる	
		3週	直列接続	分圧式について説明できる	
		4週	並列接続	分流式について説明できる	
		5週	ブリッジ回路・電源の内部抵抗	ブリッジの平衡条件を説明できる 電源の内部抵抗を説明できる	
		6週	豆電球とLED [in-situ I]	豆電球とLEDの特徴を説明できる 簡単な回路をブレッドボードで組むことができる	
		7週	分流器と倍率器	電流系と電圧計の測定範囲の拡大原理を説明できる	
		8週	回路演習	オームの法則を用いた直流回路の計算ができる	
	2ndQ	9週	キルヒホッフ則	キルヒホッフ則を理解し, 計算に利用できる	
		10週	キルヒホッフ則と重ねの理	重ねの理を理解し, 計算に利用できる	
		11週	タイマーIC [in-situ I]	タイマーICの取り扱いを理解し, 取り扱うことができる	
		12週	モーター [in-situ I]	DCモーターとステッピングモーターの特徴を理解し, 取り扱うことができる	
		13週	トランジスタ [in-situ I]	トランジスタの特徴を理解し, 取り扱うことができる	
		14週	スピーカ [in-situ I]	スピーカの原理を理解し, 複雑な回路をブレッドボードで組める	

		15週	前期復習	
		16週		
後期	3rdQ	1週	コンピュータとデータの流れ、マイクロプロセッサ	コンピュータとデータの流れ、マイクロプロセッサを説明できる
		2週	コンピュータの構成（記憶装置、入出力装置）	コンピュータの構成（記憶装置、入出力装置）を説明できる
		3週	コンピュータの組立てと保守管理(1)	コンピュータの組立てと保守管理を説明できる
		4週	コンピュータの組立てと保守管理(2)	コンピュータの組立てができる
		5週	コンピュータの組立てと保守管理(3)	コンピュータの組立てができる
		6週	コンピュータの基本回路 データの表現(1)	コンピュータの基本回路 データの表現を説明できる
		7週	コンピュータの基本回路 データの表現(2)	コンピュータの基本回路 データの表現を説明できる
		8週	コンピュータの基本回路 論理回路(1)	コンピュータの基本回路 論理回路を説明できる
	4thQ	9週	コンピュータの基本回路 論理回路(2)	コンピュータの基本回路 論理回路の計算ができる
		10週	コンピュータの基本回路 論理回路(3)	コンピュータの基本回路 論理回路を説明できる
		11週	コンピュータの基本回路 論理回路(4)	コンピュータの基本回路 論理回路の計算ができる
		12週	コンピュータの基本回路演習(1)	コンピュータの基本回路 論理回路の構築ができる
		13週	コンピュータの基本回路演習(2)	コンピュータの基本回路 論理回路の構築ができる
		14週	コンピュータの基本回路の復習	コンピュータの基本回路を説明できる
		15週	後期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	その他の学習内容	オームの法則、キルヒホッフの法則を利用し、直流回路の計算を行うことができる。	3

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	情報基礎
科目基礎情報					
科目番号	20323		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	岡田正, 高橋参吉「情報基礎 ネットワーク社会における情報の活用と技術」(実教出版)				
担当教員	長岡 健一				
到達目標					
1.本校のネットワーク環境を理解している。 2.情報の性質や情報伝達の特徴について理解し, 説明できる。 3.コンピュータの基本的なしくみを説明できる。 4.メールやSNSを安全に取り扱うことができる。 5.タッチタイピングができる。 6.情報通信ネットワークについて基本的なしくみを理解している。 7.有害情報やネットワーク利用のマナーについて理解し, 遵守できる。 8.情報の収集・整理, 発信や交換について理解し, それらを行うことができる。 9.情報社会のもたらす影響と課題について理解できている。 10.情報社会における個人の役割と責任について理解できている。 11.問題解決の手順やモデル化について理解できている。 12.情報セキュリティとは何かを理解し, 基本的な技術について説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1	本校のネットワーク環境を理解し, 設定などを正確に行える。	本校のネットワーク環境を理解している。	本校のネットワーク環境を理解していない。		
到達目標項目2	情報の性質や情報伝達の特徴について理解し, 説明できるとともに, 応用課題について考察できる。	情報の性質や情報伝達の特徴について理解し, 説明できる。	情報の性質や情報伝達の特徴について理解し, 説明することが困難である。		
到達目標項目3, 6	コンピュータと情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解し, 応用課題について考察できる。	コンピュータと情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解している。	コンピュータと情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解することが困難である。		
到達目標項目4, 7	有害情報やネットワーク利用のマナーについて理解し, 遵守しながらメールやSNSを安全に取り扱うことができる。とともに, 課題について考察できる。	有害情報やネットワーク利用のマナーについて理解し, 遵守しながらメールやSNSを安全に取り扱うことができる。	有害情報やネットワーク利用のマナーについて理解し, 遵守しながらメールやSNSを安全に取り扱うことが困難である。		
到達目標項目5	タッチタイピングを正確に行うことができる。	タッチタイピングができる。	タッチタイピングを行うことが困難である。		
到達目標項目8	情報の収集・整理, 発信や交換について理解し, それらを行うことができる。とともに, 応用課題について考察できる。	情報の収集・整理, 発信や交換について理解し, それらを行うことができる。	情報の収集・整理, 発信や交換について理解し, それらを行うことが困難である。		
到達目標項目9, 10	情報社会のもたらす影響と課題, 情報社会における個人の役割と責任について理解し, 応用課題について考察できる。	情報社会のもたらす影響と課題, 情報社会における個人の役割と責任について理解できている。	情報社会のもたらす影響と課題, 情報社会における個人の役割と責任について理解することが困難である。		
到達目標項目11	問題解決の手順やモデル化について理解でき, 応用課題について考察できる。	問題解決の手順やモデル化について理解できている。	問題解決の手順やモデル化について理解することが困難である。		
到達目標項目12	情報セキュリティとは何かを理解し, 基本的な技術について説明でき, 応用課題について考察できる。	情報セキュリティとは何かを理解し, 基本的な技術について説明できる。	情報セキュリティとは何かを理解し, 基本的な技術について説明することが困難である。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 3 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	現代社会においては情報技術はますます重要になってきている。情報社会でエンジニアとして能力を發揮するにはまず, 情報の本質とその処理技術について技術者として必要な基礎的および専門的知識を身につけ, それらを的確に表現できるようにしておくことが必要である。さらに, 情報社会において自らが果たす責任について幅広い視点から理解しておくことも重要である。本授業ではこのような情報基礎全般について学習する。				
授業の進め方・方法	テキスト, スライド資料を中心に講義し, 演習を適宜実施しながら情報の基礎全般を広く学習する。 【事前事後学習など】長期休業中, また随時, 理解を深めるための課題を課す。 【関連科目】電子情報工学基礎I, プログラミング基礎I, 情報通信I, 情報通信II, 情報通信III 【MCC対応】IV-B 技術者倫理(知的財産, 法令順守, 持続可能性を含む)および技術史, IV-C 情報リテラシー, V-D-6 情報通信ネットワーク, 情報教育対応科目				
注意点	コンピュータの操作, タッチタイピングなどは日頃からの慣れが重要です。授業時間外であっても適宜eラーニング教材等で自習すること。情報セキュリティや情報倫理については内容をただ理解するだけでなく, 情報社会に参加するにあたってはそれらを遵守すること。また情報の加工や整理, 発信能力などは今後様々な場面で要求されることを念頭において学習すること。なお, 適時オンラインで講義することがある。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 中間試験, 前期末試験, 学年末試験を実施する。 前期末: 中間試験 (35%), 期末試験 (35%), レポート・タッチタイピング (30%) 学年末: 中間試験 (35%), 期末試験 (35%), レポート・タッチタイピング (30%) 最終評価: 前期末 (50%), 学年末 (50%) レポート提出遅れは減点対象となるので絶対に遅れないこと。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
				<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	本校のネットワーク環境, e-Learning, メールアカウントの説明	本校のネットワーク環境, e-Learning, メールアカウントを理解し, 扱うことができる。
		2週	ネットワーク, SNS利用のマナー1	ネットワーク, SNS利用のマナーを理解できる。
		3週	ネットワーク, SNS利用のマナー2	ネットワーク, SNS利用のマナーを理解し, 安全に取り扱うことができる。
		4週	有害情報	有害情報について理解できる。
		5週	有害情報の対策 (フィルタリング, 法律規制)	有害情報の対策 (フィルタリング, 法律規制)を理解できる。
		6週	タッチタイピング1	ホームポジションと正しい指使いでタッチタイピングの基礎を習得する。
		7週	情報の性質	情報の性質について理解できる。
		8週	情報のデジタル表現1 (デジタル化, ビット, 2進数)	デジタル化, ビット, 2進数を理解し, 説明できる。
	2ndQ	9週	情報のデジタル表現2 (容量, 伝送速度, 圧縮)	容量, 伝送速度, 圧縮について理解し, 説明できる。
		10週	情報の収集, 整理	情報の収集, 整理を理解し, 説明できる。
		11週	情報の加工と表現1	情報の加工と表現手段を理解し, 説明できる。
		12週	情報の加工と表現2	情報の加工と表現方法と留意点を理解し, 説明できる。
		13週	情報の発信と交換1	情報の発信と交換手段を理解し, 説明できる。
		14週	情報の発信と交換2	情報の発信と交換方法と留意点を理解し, 説明できる。
		15週	前期復習	
		16週		
後期	3rdQ	1週	問題解決の手順	問題解決の手順を理解し, 説明できる。
		2週	モデル化	モデル化, 時系列モデル, 数理モデルについて理解し, 説明できる。
		3週	コンピュータのしくみ1 (5大装置, CPU, 記憶装置)	5大装置, CPU, 記憶装置を理解し, 説明できる。
		4週	コンピュータのしくみ2 (ソフトウェア)	ソフトウェアについて理解し, 説明できる。
		5週	コンピュータのしくみ3 (OS)	オペレーティングシステムについて理解し, 説明できる。
		6週	情報通信ネットワークのしくみ1 (プロトコル, TCP/IP, IPアドレス)	プロトコル, TCP/IP, IPアドレスを理解し, 説明できる。
		7週	情報通信ネットワークのしくみ2 (HTTP, DNS)	HTTP, DNSについて理解し, 説明できる。
		8週	情報セキュリティとは (三大要件)	情報セキュリティの三大要件について理解し, 説明できる。
	4thQ	9週	情報セキュリティ脅威, リスク	情報セキュリティ脅威, リスクについて理解し, 説明できる。
		10週	情報セキュリティを守る技術 (ファイアウォール, 暗号化)	ファイアウォール, 暗号化について理解し, 説明できる。
		11週	情報社会のもたらす影響と課題1 (情報格差, 健康への影響)	情報格差, 健康への影響を理解し, 説明できる。
		12週	情報社会のもたらす影響と課題2 (利便性と弊害)	情報社会の利便性と弊害を理解し, 説明できる。
		13週	情報社会における個人の役割と責任 (個人情報, 著作権)	情報社会における個人の役割と責任 (個人情報, 著作権)を理解し, 説明できる。
		14週	タッチタイピング2	基本的なタッチタイピングが行える。
		15週	後期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産, 法令順守, 持続可能性を含む)および技術史	現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3		
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3		
			情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3		
			高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	2		
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	
				情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	1	
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	1	
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	1	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	1	

専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	情報通信ネットワーク	基本的なフィルタリング技術について説明できる。	4	
評価割合						
		試験		レポート, タッチタイピング	合計	
総合評価割合		70		30	100	
基礎的能力		70		30	100	
専門的能力		0		0	0	
分野横断的能力		0		0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	プログラミング基礎 I
科目基礎情報					
科目番号	20324		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	美馬 義亮、「情報表現入門 Processingプログラミング」、公立はこだて未来大学出版会 / 関連のプリントを配布する				
担当教員	越野 亮,川除 佳和				
到達目標					
1. Processingを用いて簡単なプログラムを作成できる。 2. 変数を用いてプログラムを作成できる。 3. 条件文を使ってプログラムを作成できる。 4. 繰り返し処理を使ってプログラムを作成できる。 5. 関数を用いて処理を分割することができる。 6. 自分でプログラムの題材を考えプログラミングを行うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標項目 1, 2	変数の概念を理解・説明でき、変数を使ったプログラムを作成できる。		変数を使った基本的なプログラムを作成できる。		変数を使った基本的なプログラムを作成できない。
到達目標項目 3, 4, 5	条件分岐、繰り返し、関数の概念を理解・説明でき、それらを使ったプログラムを作成できる。		条件分岐、繰り返し、関数を使ったプログラムを作成できる。		条件分岐、繰り返し、関数を使ったプログラムを作成できない。
到達目標項目 6	自分でプログラムの題材を考え、プログラミングを行う事ができ、それを論理的に説明できる。		自分でプログラムの題材を考え、プログラミングを行う事ができる。		自分でプログラムの題材を考え、プログラミングを行う事ができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	本授業ではProcessingによるプログラミングを通じてプログラムの書き方や制御方法の基本的な考え方や知識を身につける。最終的に各自が自分でプログラムの題材を考えプログラミングを行う。プログラミング演習課題に取り組むことで、意欲的・実践的に問題の解決に取り組む姿勢を養う。 この科目は企業でシステムエンジニアとして勤務していた教員が、その経験を活かし、プログラミングの技術について講義と演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	到達目標の達成度を確認するために、随時演習課題を与える。 【関連科目】プログラミング基礎II、アルゴリズムとデータ構造 【MCC対応】V-D-1 プログラミング、情報教育対応科目				
注意点	課題は期限までに必ず提出すること。 【評価方法・評価基準】 前期中間試験、前期末試験を実施する。 前期末：前期中間試験(40%)、前期末試験(40%)、前期課題(20%) 学年末：前期末成績(50%)、後期課題(50%) 成績の評価基準として50点以上を合格とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	プログラミングとは？	プログラミングとは何かを理解し、説明できる。	
		2週	サンプルプログラムの作成：かたちを描く	サンプルプログラムを入力し、Processingで実行できる。	
		3週	計算と変数(1)	変数の概念を理解し、説明できる。	
		4週	計算と変数(2)	変数を使ったプログラム作成できる。	
		5週	計算と変数(3)	変数を使ったプログラム作成できる。	
		6週	繰り返し (ループ処理) (1)	繰り返しをの概念を理解し、説明できる。	
		7週	繰り返し (ループ処理) (2)	繰り返しを使ったプログラムを作成できる。	
		8週	繰り返し (ループ処理) (3)	繰り返しを使ったプログラムを作成できる。	
	2ndQ	9週	条件分岐(1)	条件分岐の概念を理解し、説明できる。	
		10週	条件分岐(2)	条件分岐を使ったプログラムを作成できる。	
		11週	条件分岐(3)	条件分岐を使ったプログラムを作成できる。	
		12週	関数(1)	関数の概念を理解し、説明できる。	
		13週	関数(2)	関数を使ったプログラムを作成できる。	
		14週	関数(3)	関数を使ったプログラムを作成できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
後期	3rdQ	1週	マウス入力と描画処理：お絵描きアプリの制作	マウス入力と描画処理を理解し、説明できる。	
		2週	乱数、型変換、画像表示	乱数や画像を使ったプログラムを作成できる。	
		3週	複数の画像ファイルの切替表示	変数を使って画像ファイルを切り替えるプログラムを作成できる。	

4thQ	4週	マウス入力とアニメーションの組合せ	マウス入力とアニメーションを組み合わせたプログラムを作成できる。
	5週	音楽再生プログラムの作り方	音声を扱うプログラムを作成できる。
	6週	キー入力を用いた様々なアプリの作り方	キー入力により、動作するプログラムを作成できる。
	7週	マウスと音と画像の組合せ	これまでに学んだ処理を組合せてプログラムを作成できる。
	8週	カメラ・映像の使い方	カメラからの映像を取り込み、描画処理と組み合わせ、拡張現実 (AR) の基礎となるプログラムを作成できる。
	9週	あたり判定の処理	ゲームを題材に、条件分岐などを利用したあたり判定を理解できる。
	10週	配列変数	配列変数を使ってプログラムを効率化することができる。
	11週	デバッグの仕方	デバッガを使って変数の中身を見ながら、効率的に処理の流れを確認することができる。
	12週	作品制作	自分で考えてプログラムを作ることができる
	13週	プログラミング作品の発表会	自分で作成したプログラムを論理的に説明できる。
	14週	プログラミング作品の発表会	自分で作成したプログラムを論理的に説明できる。
	15週	後期復習	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	プログラミング	代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。	3	
				プロシージャ(または、関数、サブルーチンなど)の概念を理解し、これらを含むプログラムを記述できる。	3	
				変数の概念を説明できる。	3	
				データ型の概念を説明できる。	3	
				制御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。	3	
				制御構造の概念を理解し、反復処理を記述できる。	3	
				与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラムを記述できる。	3	
		与えられたソースプログラムを解析し、プログラムの動作を予測することができる。	3			
		ソフトウェア	コンピュータ内部でデータを表現する方法(データ構造)にはバリエーションがあることを説明できる。	2		

評価割合

	試験	発表	課題	合計
総合評価割合	40	50	10	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	40	50	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	電子情報工学実験 I
科目基礎情報					
科目番号	20342		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習・実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	WebClassあるいはTeamsの実験資料 (石川高専) / 西巻 正郎ほか、「電気回路の基礎」、森北出版 / テスター 作製キット、関連のプリント				
担当教員	越野 亮, 山田 健二, 川除 佳和, 任田 崇吾				
到達目標					
1. 直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。 2. 部品をはんだ付けして電子回路を組み立てることができる。 3. Windowsの基本的操作ができる。 4. 情報処理の基本的操作ができる。 5. 表計算ソフトで関数が使え、グラフが作成できる。 6. アナログメータのしくみを理解している。 7. キルヒホッフの法則を用いて回路の電圧・電流を計算できる。 8. 基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。 9. 効果的なプレゼンテーションができる。 10. 実験を適切に実施し、レポートにまとめることができる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標 項目 1, 6, 7		直流回路の計測手法を理解・説明でき、キルヒホッフの法則を用いた応用的な回路の電圧・電流を計算できる。	直流回路の計測手法を理解し、キルヒホッフの法則を用いた基本的な回路の電圧・電流を計算できる。	直流回路の計測手法および計算方法を全く理解できない。	
到達目標 項目 3, 4, 5, 9		Windowsの応用的な操作が行え、オフィスアプリケーションの高度な使い方を理解・説明できる。	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	Windows、および、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を全く理解できない。	
到達目標 項目 2, 8		部品のはんだ付けによる基本的な電子回路を作成でき、それを論理的に説明できる。	部品のはんだ付けによる基本的な電子回路を作成できる。	部品のはんだ付けによる基本的な電子回路を作成できない。	
到達目標 項目 10		所定のテーマでの実験・演習の実施・取り組み内容のレポートによる報告など、一連の内容が要求水準を超えており、所定の期日までに完了するとともに、欠席がなかった。	所定のテーマに沿って実験・演習を実施し、取り組み内容が適切にレポートとしてまとめられ、所定の期限までに提出された。	所定のテーマでの実験・演習の実施、レポート提出による所定の期日までの取り組み内容の報告のそれぞれにおいて、大きな不備があり、評価できない(欠席が多く、実験・演習に実質的に取り組んでいないと判断できる場合も評価できない)。	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	電子情報工学の基礎知識をより実践的に活用できることを目的とし、各専門科目の基礎となる題目について、実験、演習を通して技術者として必要な基礎学力を養う。さらに、実験グループ内での対話などを通して課題の解決力を養い、レポートをまとめることにより表現力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	実験の準備として事前の内容の予習および実験後の結果(データ)の整理が大切です。 実験前に予習を担当者に提出してもらうことがあります。 授業で学んだ専門科目の基礎を理解している必要があります。 【関連科目】電子情報工学基礎 I、プログラミング基礎 I 【MCC対応】IV-A 工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)、V-C-6計測、V-D-8 その他の学習内容、VI-C 電気・電子系分野(実験・実習能力)、VII 汎用的技能、情報教育対応科目				
注意点	実験のレポート(報告書)は必ず定められた期限内に提出すること。 到達目標の達成度を確認するため、提出されたレポートに対して質問することがある。 【評価方法・評価基準】 前期末評価は、前期末までに終了したテーマのレポート点数の平均とする。 全テーマのレポートを提出期限・最終期限までに提出することで、成績評価対象となる。 各テーマについて次の内訳で総合的に評価し、テーマ数で平均した結果を成績とする。 成績の評価基準として50点以上を合格とする。 ・予習・実験状況(実験の取り組み方、器具の扱い、協調性など) 40% ・レポート(図表などの書き方、実験結果の整理と検討、提出期限など) 60%				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	直流回路の基礎(1), 実験のガイダンス含む	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		2週	直流回路の基礎(2)	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		3週	直流回路の基礎(3)	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		4週	直流回路の基礎(4)	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		5週	直流回路の基礎(5)	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		6週	直流回路の基礎(6)	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		7週	直流回路の基礎(7), レポート指導	直流回路の電圧・電流・抵抗を測定できる。	
		8週	オフィスアプリケーションの使い方(1)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	

後期	2ndQ	9週	オフィスアプリケーションの使い方(2)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		10週	オフィスアプリケーションの使い方(3)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		11週	オフィスアプリケーションの使い方(4)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		12週	オフィスアプリケーションの使い方(5)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		13週	オフィスアプリケーションの使い方(6)	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		14週	オフィスアプリケーションの使い方(7), レポート指導	Windowsの基本的な操作が行え、オフィスアプリケーションの基本的な使い方を理解・説明できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
	3rdQ	3rdQ	1週	直流計測のしくみ(1)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			2週	直流計測のしくみ(2)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			3週	直流計測のしくみ(3)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			4週	直流計測のしくみ(4)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			5週	直流計測のしくみ(5)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			6週	直流計測のしくみ(6)	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			7週	直流計測のしくみ(7), レポート指導	基本的な電子回路部品を用いて回路を組むことができる。
			8週	光通信の基礎(1)	部品をはんだ付けして電子回路を組み立てることができる。
4thQ		9週	光通信の基礎(2)	部品をはんだ付けして電子回路を組み立てることができる。	
		10週	光通信の基礎(3)	部品をはんだ付けして電子回路を組み立てることができる。	
		11週	プレゼンテーション演習(1)	効果的なプレゼンテーションができる。	
		12週	プレゼンテーション演習(2)	効果的なプレゼンテーションができる。	
		13週	プレゼンテーション演習(3)	効果的なプレゼンテーションができる。	
		14週	プレゼンテーション演習(4)	効果的なプレゼンテーションができる。	
		15週	後期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	1			
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	1			
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	1			
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	1			
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	1			
			実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	1			
			実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	1			
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	1			
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	1			
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	1			
レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	1						
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	4		
				オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	4		
				キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	4		
				合成抵抗や分圧・分流の考え方をを用いて、直流回路の計算ができる。	4		
				精度と誤差を理解し、有効数字・誤差の伝搬を考慮した計測値の処理が行える。	4		
		情報系分野	その他の学習内容	計測	指示計器について、その動作原理を理解し、電圧・電流測定に使用する方法を説明できる。	4	
					倍率器・分流器を用いた電圧・電流の測定範囲の拡大手法について説明できる。	4	
					少なくとも一つの具体的なコンピュータシステムについて、起動・終了やファイル操作など、基本的操作が行える。	4	

				少なくとも一つの具体的なオフィススイート等を使って、文書作成や図表作成ができ、報告書やプレゼンテーション資料を作成できる。	4	
				少なくとも一つのメールツールとWebブラウザを使って、メールの送受信とWebブラウジングを行うことができる。	4	
分野別の工学実験・実習能力		電気・電子系分野【実験・実習能力】	電気・電子系【実験実習】	電圧・電流・電力などの電気諸量の測定が実践できる。	4	
				抵抗・インピーダンスの測定が実践できる。	4	
				オシロスコープを用いて実際の波形観測が実施できる。	4	
				電気・電子系の実験を安全に行うための基本知識を習得する。	4	
				キルヒホッフの法則を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				分流・分圧の関係を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				ブリッジ回路の平衡条件を適用し、実験結果を考察できる。	4	
				重ねの理を適用し、実験結果を考察できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3					

評価割合

	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語 I I
科目基礎情報					
科目番号	20012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『精選論理国語』(明治書院) 『精選文学国語』(明治書院) 『精選古典探求 古典編』(明治書院) 『精選古典探求 漢文編』(明治書院) 『新版 品詞別 頻出漢字マスター3000』(尚文出版・1年次より継続) 『カラー版新国語便覧』(第一学習社・1年次より継続)				
担当教員	吉本 弥生				
到達目標					
1、現代の小説・詩歌・評論を論理的に読解し、鑑賞することができる。 2、古文を読解し、口語訳・鑑賞することができる。 3、漢文を読解し、書き下し・口語訳・鑑賞することができる。 4、基本的な日本語運用能力(常用漢字等)を習得し、活用できる。 5、各種情報を活用しつつ、感想文・随筆・意見文などの文章を作成できる。またこれに基づき口頭発表ができ、他者の発表を聴講して自分の意見が形成できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1,4	現代の文章を論理的に読解し、深く鑑賞できる。また討議なども踏まえ、それについての意見・感想を形成できる。	現代の文章の主旨を概ね理解・鑑賞でき、意見交換なども通じて考えをまとめることができる。	文意の理解が十分でなく、それに関する対話などを通じて自分の考えを深めることができない。		
評価項目4,5	基本的な常用漢字を習得して運用でき、各種情報を踏まえて自分の意見を展開し、文章化できる。またこれに基づき効果的に口頭発表ができ、他者の発表を聴講して自分の意見が形成できる。	日常的に使用する漢字をほぼ習得して運用でき、具体的根拠に基づいて考えをまとめ、文章化できる。またこれに基づき口頭発表でき、他人の発表を正確に聴講できる。	日常的に使用する漢字の修復が不十分で、客観性を持つ形で自分の考えをまとめることができない。また口頭発表も効果が不十分で、他者の発表の聞き取りも正確にできない。		
評価項目2,3	古文・漢文の高度な知識を理解した上で、古典に親しみ、その意義を理解できる。	古典についての知識を習得し、これを鑑賞できる。	古典についての知識が不足し、充分意味を把握できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	現代文の評論・小説・詩の論理的読解と鑑賞、古文・漢文の読解と文学史的理解の実践を通じ、自分の考えを正しく表現し公正に意見を交換できるための教養を習得する。また社会生活の基礎となる読み書き能力を養成し、技術者として必要な基礎学力を習得する。				
授業の進め方・方法	漢字小テストを課す。その他授業理解を助けるために課題を適宜出すことがある。 MCC対応: III - A 国語、VII 汎用的技能、VIII 態度・志向性(人間力)、IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	作品に対して、主体的に興味・関心を持つことが大切である。国語辞典・古語辞典・漢和辞典を積極的に活用して、基礎的な知識の定着をはかること。適宜、小テストを実施するため、日頃の学習を大切にすること。 (評価方法・評価基準) 前期末: 期末試験(80%)、小テスト(20%) 学年末: 全定期試験(80%)、小テスト(20%) 前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	「間」の感覚(評論1)	語句の意味を正確に理解しつつ、論理的な文章を構造的に捉え、筆者の主張について理解できる。	
		2週	「間」の感覚(評論1)	語句の意味を正確に理解しつつ、論理的な文章を構造的に捉え、筆者の主張について説明できる。	
		3週	檸檬(小説1)	難しい語句を正確に把握して、小説の展開の前提となる設定を理解できる。	
		4週	檸檬(小説1)	難しい語句を理解し、主人公の行動から心理を読み取ることができる。	
		5週	檸檬(小説1)	作者特有の人間観察の面白さを味わい、その特徴と背後にある思想について理解し、説明できる。	
		6週	源氏物語(古文1)	文中における言葉の定義を正確に把握し、説明できる。当時の時代背景を理解できる。	
		7週	源氏物語(古文1)	古典文法の知識を的確に運用して古文を正確に口語訳でき、内容を理解・説明できる。	
		8週	源氏物語(古文1)	古典文法の知識を的確に運用して古文を正確に口語訳でき、内容を理解・説明できる。	
	2ndQ	9週	こころ(小説2)	時代背景を確認し、当時の人々の状況や情景を理解することができる。	
		10週	こころ(小説2)	作品内容を理解し、登場人物の人間関係を読み取り、理解することができる。	
		11週	こころ(小説2)	作品世界を理解した上で、自分の意見を考え、他人の考えを聞く中で、熟慮した考えをまとめることができる。	

後期		12週	平家物語（古文2）	作品理解の前提となる歴史的背景について理解し、説明できる。	
		13週	平家物語（古文2）	文法的知識を踏まえて正確に口語訳でき、物語の内容と展開について理解し、説明できる。	
		14週	平家物語（古文2）	作品に通底する文学的理念を作中人物と状況設定及び物語展開から理解し、その鑑賞のポイントについて説明できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
	3rdQ	1週	デモクラシーと平等（評論2）	歴史的な知識を理解し、作品の全体像を把握できる。	
		2週	デモクラシーと平等（評論2）	語句の意味を正確に理解しつつつつ、論理的な文章を構造的に捉え、筆者の主張について説明できる。	
		3週	デモクラシーと平等（評論2）	作品を理解した上で、自分の意見を考え、他人の考えを聞く中で、熟慮した考えをまとめることができる。	
		4週	史記（漢文1）	漢文句法の知識を踏まえて正確な書き下し、口語訳ができ、内容を鑑賞できる。	
		5週	史記（漢文1）	漢文句法の知識を踏まえて正確な書き下し、口語訳ができ、内容を鑑賞できる。	
		6週	史記（漢文1）	漢文句法の知識を踏まえて正確な書き下し、口語訳ができ、内容を鑑賞できる。	
		7週	野火（小説3）	作品の背景となる歴史的事象について理解し、説明できる。	
		8週	野火（小説3）	作品内容を理解し、登場人物の人間関係を読み取り、理解することができる。	
		4thQ	9週	野火（小説3）	作品世界を理解した上で、自分の意見を考え、他人の考えを聞く中で、熟慮した考えをまとめることができる。
			10週	大和物語（古文3）	作品理解の前提となる歴史的背景について理解し、説明できる。
			11週	大和物語（古文3）	文法的知識を踏まえて正確に口語訳でき、物語の内容と展開について理解し、説明できる。
12週	大和物語（古文3）		作品に通底する文学的理念を作中人物と状況設定及び物語展開から理解し、その鑑賞のポイントについて説明できる。		
13週	老子（漢文2）		漢文句法を理解して漢文を正確に読み、書き下し文の作成と口語訳ができる。		
14週	老子（漢文2）		作品世界を理解した上で、他人の意見を聞き、熟慮した考えを示すことができる。		
15週	後期復習				
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	2	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	2	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	

			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
			目標の実現に向けて計画ができる。	2	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2				
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	

評価割合

	試験	小テスト		合計
総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	80	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史 I I
科目基礎情報					
科目番号	20022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校世界史A新訂版』(清水書院) 『新選日本史B』(東京書籍)、『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社)				
担当教員	永井 隆之				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代の社会制度・政治制度の変遷について理解できる。 2. 帝国主義と国民国家形成との関係が理解できる。 3. 列強諸国の世界進出に日本も深く関わっていることが理解できる。 4. 東アジアをめぐる列強諸国と日本との関係が理解できる。 5. 近代日本の外交について理解できる。 6. 二度の世界大戦における各国の立場を理解できる。 7. 大戦後、独立するまでの日本の状態を理解できる。 8. 歴史的な事象に関わる日本および世界の地理の知識を得る。 9. 適切な資料を調査し、必要な情報を取捨選択できる。 10. 調査した資料を私見を交えず客観的にまとめることができる。 11. 歴史的な事象について考察したことを論理的に表現、記述できる。 12. 現代世界の諸問題を自らの問題として考察する力を養う。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7,	歴史的な事象について読解・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる		史的な事象に関する語句を正しく読解・表記し、意味を説明できる		歴史的な事象に関する語句を正しく読解できない。意味が説明できない。
評価項目2 項目8	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる		世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る		世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称を知らない
評価項目3 項目9,10,11,12	現代の諸問題を自らの問題として考察する姿勢をもち、歴史的な事象について適切な資料を調査収集し、必要な情報を取捨選択して私見を交えず客観的にまとめ、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる		歴史的な事象について考察したことを論理的に表現・記述できる		歴史的な事象についての知識がない
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会や自然環境への理解を深め、幅広い視野を持つ必要がある。そこで本授業では、近現代の世界・日本の歴史を総覧することで知識を高め、それに基づいて現代の諸問題を主体的に考察し、自らの考えを論理的に表現する基礎学力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時、課題を解いてもらう。MCC対応：Ⅲ－C 社会、Ⅶ 汎用的技能、態度・志向性(人間力)、Ⅷ 態度・志向性(人間力)、Ⅸ 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	【評価方法・評価基準】 成績の評価基準として50点以上を合格とする。試験は期末試験の1回行う。 成績評価の割合は以下の通り。 前期末試験(50%)、課題(50%) 事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。 課題は必ず提出すること。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ナショナリズムとその時代		ナポレオンの大陸支配によって、ヨーロッパにおいてナショナリズムが自覚されていった経緯について理解できる。
		2週	イタリアとドイツの統一		ナショナリズムによって誕生した国家を具体的に理解できる。
		3週	欧米諸国のアジア進出		帝国主義がアジアに及ぼした影響について理解できる。
		4週	欧米諸国のアフリカ・中国分割		帝国主義がアフリカ・中国に及ぼした影響について理解できる。
		5週	明治新政府の成立		幕末の開国から討幕運動、新政府成立までを概観し、その政策について理解できる。
		6週	憲法の発布と議会の開設		自主憲法として発布された大日本帝国憲法について理解を深められる。
		7週	日清戦争と日露戦争		新政府の対外政策が帝国主義に基づいて行われたものであること、さらに日本が列強国を目指す過程とアジアの動向について理解できる。
		8週	第一次世界世界大戦と日本		第一次世界大戦を含む政治過程と、日本の動向について理解できる

2ndQ	9週	世界恐慌とファシズムの台頭	アメリカで起きた恐慌が日本を含む世界に及ぼした影響について理解できる。
	10週	第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦の政治過程と日本の戦争を関連付けて理解できる。
	11週	アメリカの日本占領	アメリカ軍による占領政策を概観し、特に新憲法成立過程について理解できる。
	12週	冷戦と日本の高度経済成長	冷戦の成立について概観し、特に日本の再軍備過程と日米安保体制に基づく経済的繁栄について理解できる。
	13週	冷戦の終結と日本	冷戦終結による世界の枠組みの再編と日本への影響について理解できる。
	14週	現代の世界と日本	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。
	15週	復習	本学期に学んだ内容を概観できる。また、現代にあるモノの起源や社会問題の遠因を発見できる力を養える。さらに現代社会の特質や課題に関する主題について資料を活用して探究し、その成果を論述することを通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について歴史の観点から展望できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	2	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	2	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	2	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	2	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	2	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	2	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2					

			事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
			自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	2	
			目標の実現に向けて計画ができる。	2	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	
			企業には社会的責任があることを認識している。	2	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2				
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	2				
企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2				
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2				
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	25	0	25
専門的能力	25	25	50
分野横断的能力	0	25	25

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	倫理
科目基礎情報					
科目番号	20023		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『高校倫理』(実教出版)、『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社)				
担当教員	佐々木 香織				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋における哲学・倫理学の知識を得、考え方を理解する。 2. 中国における哲学・倫理学の知識を得、考え方を理解する。 3. 日本思想の知識を得、その特徴を理解する。 4. 国際社会における宗教の在り方を理解する。 5. 科学技術史と思想との関係について理解する。 6. 哲学・倫理学・歴史・宗教に関する語句を正しく読解・表記できる。 7. 学習を通して得た知識を利用しながら、ある問いに対して自ら考察できる。 8. 自らの考察を客観的・論理的に表現・記述できる。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7		哲学・倫理学の知識を得、それを利用しながら自ら問いを立て考察を行うことができる。	哲学・倫理学についての正確な知識を得る。	哲学・倫理学に関する語句を正しく読解できない。それぞれの考え方の意味が説明できない。	
評価項目2 項目1,2,3,4,5,6,8		哲学・倫理学について自ら調査・資料収集し、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる	哲学・倫理学について調査したことを論理的に表現・表記できる	哲学・倫理学について調査したことを表現・表記できない	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	国際社会への幅広い視点を持ち、社会や環境に配慮できる技術者となるためには、その基盤となる人間の在り方や社会の仕組み、現代世界が形成された過程を知る必要がある。そこで本授業では、哲学・倫理学の基礎的知識の習得を主眼とし、その学習成果を論理的に記述し表現できる基礎学力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時、資料調査、論述文作成などの課題を課す。 事前事後学習：休暇時にレポート課題を与える。 関連科目：哲学、政治・経済、歴史Ⅰ・Ⅱ MCC対応：Ⅲ-C 社会、Ⅶ 汎用的技能、態度・志向性(人間力)、Ⅷ 態度・志向性(人間力)、Ⅸ 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	【評価方法・評価基準】 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末：中間試験成績(50%)、期末試験成績(50%) 学年末：定期試験成績(80%)、長期休暇課題(20%) 定期試験成績は4回の試験をそれぞれ20%として算出する。 長期休暇課題は必ず提出すること。提出を怠ることは、試験を1回受けないのと同じことです。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	現代の課題－哲学を学ぶ意義－	なぜ哲学・倫理学を学ぶのか、思想を通じて何を身につけるかについて理解できる。	
		2週	ポリス社会と自然哲学	古代ギリシアのポリス社会の特質と自然哲学の発祥についての知識を得る。	
		3週	ペルシャ戦争とアテネ	ポリス社会におけるペルシャ戦争の影響とソクラテスの哲学についての知識を得る。	
		4週	プラトンの哲学	イデア論を中心にプラトンの思想的特質について知識を得る。	
		5週	アリストテレスの哲学	アリストテレスの目的論的自然観と、その思想的特質についての知識を得る。	
		6週	ヘレニズムの哲学	アレクサンドロスの東征とヘレニズム期の哲学についての知識を得る。	
		7週	復習・論述指導	自らの考察を客観的・論理的に表現する技術を学ぶ。	
		8週	一神教の成立	ユダヤ教の発祥とその特質についての知識を得る。	
	2ndQ	9週	キリスト教の拡大	キリスト教の思想的特質とヨーロッパ世界における拡大について知識を得る。	
		10週	イスラム教の特徴	イスラームの成立および信者の生活に浸透した教義の特徴について知識を得る。	
		11週	仏教の教義	ガウタマ=シッダールタの生涯を通じて、原始仏教の成立と仏教の一般的教義についての知識を得る。	
		12週	古代日本の精神世界	古代の信仰形態を通じて日本の風土と伝統についての知識を得る。	
		13週	仏教の伝来	聖徳太子の逸話・思想を中心に、飛鳥時代の精神世界と仏教受容の在り方についての知識を得る	

		14週	日本的仏教の展開	奈良・平安時代から鎌倉新仏教に至る日本仏教史の知識を得る。
		15週	前期復習	学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・論述できる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	中世キリスト教世界	ヨーロッパ中世におけるキリスト教会の強権とその思想についての知識を得る。
		2週	ルネサンスの人間観と宗教改革	近代におけるルネサンスの意味と思想家の教説について理解する。
		3週	宗教改革	ルターおよびカルヴァンの宗教改革についての知識を得る。
		4週	ベーコンとイギリス経験論	ベーコンの哲学から、特に近代の帰納法の考え方について理解する。
		5週	デカルトと大陸合理論	デカルトの哲学から、特に演繹法の考え方について理解する。
		6週	カントの自由論	『純粋理性批判』における自然因果律と自由との関係について知識を得る。
		7週	カントの道徳思想	『実践理性批判』における自律としての自由について知識を得る。
		8週	ヘーゲルの歴史哲学	フランス革命の進展とヘーゲルの歴史観についての知識を得る。
	4thQ	9週	復習・論述指導	自らの考察を客観的・論理的に表現する技術を学ぶ。
		10週	産業革命と功利主義	産業革命による社会の変遷とベンサム功利主義について知識を得る。
		11週	自由主義	ミルの質的功利主義と自由主義についての知識を得る。
		12週	社会主義思想の成立	マルクスの社会主義思想についての知識を得る。
		13週	社会主義の影響	ロシア革命、現在の社会主義国の現状など、社会主義が与えた歴史的影響についての知識を得る。
		14週	実存主義哲学の潮流	20世紀の社会状況とキルケゴール、ニーチェなどの基本的な立場についての知識を得る。
		15週	後期復習	学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・論述できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3 3 3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2				
	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2				

				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力			

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	40	10	50
専門的能力	40	10	50
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	解析学 I
科目基礎情報					
科目番号	20033		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	高遠節夫ほか「新基礎数学 改訂版」(大日本図書) / 高遠節夫ほか「新基礎数学問題集 改訂版」(大日本図書) 高遠節夫ほか「新微分積分 I 改訂版」(大日本図書) / 高遠節夫ほか「新微分積分 I 問題集 改訂版」(大日本図書)				
担当教員	河合 秀泰				
到達目標					
1. 数列が理解できる。 2. 数学的帰納法が理解できる。 3. 関数の極限が理解できる。 4. 導関数が理解できる。 5. 不定積分が理解できる。 6. 定積分が理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目 1, 2	数列や数学的帰納法を説明できる。	数列や数学的帰納法が理解できる。	数列や数学的帰納法が理解できない。		
到達目標 項目 3, 4	関数の極限や導関数を計算し、説明できる。	関数の極限や導関数が理解できる。	関数の極限や導関数が理解できない。		
到達目標 項目 5, 6	不定積分や定積分を計算し、説明できる。	不定積分や定積分が理解できる。	不定積分や定積分が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	数学的な考え方は現代の様々な分野において必要とされる。この科目では、専門科目の理解に必要な広範囲の内容を扱い、技術者として必要な基礎学力の修得を目的とする。特に、微分法と積分法の基本について学習する。また、問題を解き解答を記述することにより、課題の解決に最後まで取り組み、自分の考えを正しく表現できるようになることを目指す。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】到達目標の達成度を確認するために、随時小テストを行う。長期休業中の自習課題を与える。 【関連科目】基礎数学 A, 基礎数学 B, 解析学 II, 応用数学 A, 応用数学 B 【MCC対応】 I 数学, VII 汎用的技能, IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	基礎数学 A, 基礎数学 B の内容をしっかり理解しておくこと。 小テストや定期試験には十分に準備し臨むこと。課題のレポートは必ず提出すること。 【専門科目との関連】 2 年次: 回路基礎, 電子情報工学基礎 II 3 年次: 電気回路 I, 電磁気学 I 4 年次: 応用物理 I, 電磁気学 II, 電子情報工学総合演習 5 年次: 制御工学, 電子情報工学実験 V 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として 50 点以上を合格とする。 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。 前期末: 前定期試験 (前期中間, 前期末) (70%), 前期の小テスト・課題レポート (30%) 学年末: 全定期試験 (前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末) (70%), 1 年間的小テスト・課題レポート・CBT (30%)				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数列	1. 数列が理解できる。	
		2週	等差数列	1. 数列が理解できる。	
		3週	等比数列	1. 数列が理解できる。	
		4週	いろいろな数列の和	1. 数列が理解できる。	
		5週	漸化式と数学的帰納法	2. 数学的帰納法が理解できる。	
		6週	関数の極限	3. 関数の極限が理解できる。	
		7週	微分係数と導関数	3. 関数の極限が理解できる。 4. 導関数が理解できる。	
		8週	演習		
	2ndQ	9週	導関数の性質	4. 導関数が理解できる。	
		10週	三角関数の導関数	4. 導関数が理解できる。	
		11週	指数関数の導関数	4. 導関数が理解できる。	
		12週	対数関数の導関数	4. 導関数が理解できる。	
		13週	合成関数の導関数 (1)	4. 導関数が理解できる。	
		14週	合成関数の導関数 (2)	4. 導関数が理解できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
後期	3rdQ	1週	逆三角関数とその導関数	4. 導関数が理解できる。	

4thQ	2週	関数の連続	3. 関数の極限が理解できる。 4. 導関数が理解できる。
	3週	曲線の接線と法線, 関数の増減	4. 導関数が理解できる。
	4週	極大・極小, 最大・最小	4. 導関数が理解できる。
	5週	不定形の極限	4. 導関数が理解できる。
	6週	高次導関数, 曲線の凹凸	4. 導関数が理解できる。
	7週	媒介変数表示, 速度と加速度	4. 導関数が理解できる。
	8週	不定積分	5. 不定積分が理解できる。
	9週	定積分の定義, 定積分と不定積分	6. 定積分が理解できる。
	10週	定積分の計算	6. 定積分が理解できる。
	11週	置換積分法	5. 不定積分が理解できる。 6. 定積分が理解できる。
	12週	部分積分法	5. 不定積分が理解できる。 6. 定積分が理解できる。
	13週	いろいろな関数の積分 (1)	5. 不定積分が理解できる。 6. 定積分が理解できる。
	14週	いろいろな関数の積分 (2)	5. 不定積分が理解できる。 6. 定積分が理解できる。
	15週	後期復習	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	
			総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	
			不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	
分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3				
簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3				
簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3				
簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3				

評価割合

	試験	小テスト・課題・CBT	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	代数・幾何 I
科目基礎情報					
科目番号	20035		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「新線形代数 改訂版」(大日本図書)/教材:「新線形代数問題集 改訂版」(大日本図書)/参考書:図書館にある多数の関連書籍				
担当教員	村山 太郎				
到達目標					
1. ベクトルの和, 差, 実数倍の定義が理解でき, それらが計算できる。 2. ベクトルの成分表示や内積に関する問題を解くことができ, ベクトルの平行・垂直の判定ができる。 3. ベクトルを用いて, 様々な図形の問題を解くことができる。 4. 行列の和, 差, 実数倍の定義が理解でき, それらが計算できる。 5. 行列の積や逆行列の定義が理解でき, それらを求めることができる。 6. 消去法を用いて, 連立1次方程式を解くことができる。 7. 行列式の定義や性質を用いて, 行列式の値を求めることができる。 8. 行列式を用いて, 逆行列や連立1次方程式や図形の面積・体積の問題を解くことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1	ベクトルの和, 差, 実数倍の定義が理解でき, それらが計算できる。	ベクトルの和, 差, 実数倍の簡単な計算ができる。	ベクトルの和, 差, 実数倍の定義が全く理解できない。		
到達目標項目2	ベクトルの成分表示や内積に関する問題を解くことができ, ベクトルの平行, 垂直の判定ができる。	ベクトルの内積や成分表示の簡単な計算ができる。	ベクトルの内積の定義を理解しておらず, 成分表示で表されたベクトルの計算も全く行えない。		
到達目標項目3	ベクトルを用いて, 様々な図形の方程式を導出することができ, 図形に関する問題を解くことができる。	ベクトルを用いた, 様々な図形の方程式の導出方法を理解し, 簡単な図形の問題を解くことができる。	図形のベクトル方程式を1つも理解できず, 図形に関する問題を全く解くことができない。		
到達目標項目4	行列の和, 差, 実数倍の定義が理解でき, それらが計算できる。	行列の和, 差, 実数倍の定義が理解でき, 簡単な計算問題が解ける。	行列の和, 差, 実数倍の定義が全く理解できない。		
到達目標項目5	行列の積や逆行列の定義が理解でき, それらを求めることができる。	行列の積や逆行列の定義が理解でき, 簡単な計算問題が解ける。	行列の積や逆行列の定義が理解できない。		
到達目標項目6	消去法(行基本変形)を用いて, 行列の階数や連立1次方程式の解を求めることができる。	消去法(行基本変形)を理解でき, 簡単な行列の階数や連立1次方程式の解を求めることができる。	消去法(行基本変形)を理解できず正しく行えない。		
到達目標項目7	行列式の定義や性質を用いて, 様々な行列式の値を求めることができる。	行列式の定義や性質を理解でき, 行列式の簡単な計算ができる。	行列式の定義や性質を理解できない。		
到達目標項目8	逆行列や連立1次方程式, 図形の面積・体積を求めるなど多岐にわたり行列式を応用できる。	簡単な逆行列や連立1次方程式, 図形の面積・体積を行列式を用いて計算できる。	行列式を用いて, 逆行列や連立1次方程式や図形の面積・体積を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	線形代数はベクトルとそれに関する最も簡単な形の方程式である連立1次方程式を行列, 行列式を用いて組織的に論じる理論で微分積分学と並ぶ数学の基礎的分野である。代数・幾何Iではこの線形代数の基本的考え方を理解し, 技術者としての基礎学力と問題解決能力を身につけると共に, 自己の考えを正しく表現できる力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】到達目標の達成度を確認するため, 適宜, レポートの提出を求める。 【関連科目】基礎数学A, 基礎数学B, 代数・幾何II, 応用数学 【MCC対応】I 数学, VII汎用的技能, IX総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	定期試験前の学習はもちろん, 日常の予習復習も非常に大切である。疑問点などがあれば質問をして解決しておく。定期試験には内容を十分に理解して受験する。レポートは必ず提出する。受講中は講義に集中する。携帯電話の電源を切るなど他の学生に迷惑を掛けないようにする。 【専門科目との関連】 専門科目全般 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。 前期末: 前期定期試験の平均(80%), レポート(20%) 学年末: 一年間の定期試験の平均(80%), レポート(20%)				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ベクトル・ベクトルの演算	項目1	
		2週	平面的ベクトルの成分	項目2	
		3週	平面的ベクトルの内積	項目2	
		4週	平面的ベクトルの平行と垂直	項目2	
		5週	平面的ベクトルの図形への応用	項目3	
		6週	平面内の直線のベクトル方程式	項目3	

後期	2ndQ	7週	平面のベクトルの線形独立・線形従属	項目 3
		8週	空間座標・空間のベクトルの成分	項目 1
		9週	空間のベクトルの内積	項目 2
		10週	空間内の直線のベクトル方程式	項目 3
		11週	空間内の平面のベクトル方程式	項目 3
		12週	球面の方程式	項目 3
		13週	空間のベクトルの線形独立・線形従属	項目 3
		14週	行列の定義、行列の和・差・スカラーとの積	項目 4
	15週	前期復習	項目 1 から項目 4	
	16週			
	3rdQ	1週	行列の積	項目 5
		2週	転置行列・逆行列	項目 5
		3週	消去法	項目 6
		4週	消去法の演習	項目 6
		5週	逆行列と連立 1 次方程式	項目 5, 6
		6週	行列の階数	項目 6
7週		2次と3次の行列式	項目 7	
8週		演習と復習	項目 5, 6	
4thQ	9週	n次の行列式・行列式の性質・行列の積の行列式	項目 7	
	10週	行列式の演習	項目 7	
	11週	行列式の展開	項目 7	
	12週	行列式と逆行列	項目 8	
	13週	連立 1 次方程式と行列式	項目 8	
	14週	行列式の図形的意味	項目 8	
	15週	後期復習	項目 7, 8	
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前1
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前2,前8
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前3,前9
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	前4
				空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	前10,前11,前12,前13
				行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	前14,後1
				逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	後2
				行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	後7,後9,後10,後11
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	2	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	2	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	2	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理学 I I A
科目基礎情報					
科目番号	20042		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 前田恵一(ほか「物理基礎」、佐藤文隆(ほか「物理 新訂版」(実教出版) 実験の実験書、「エクセル物理 総合版 物理基礎+物理」(実教出版)			教材等: 関連プリントや一斉	
担当教員	佐野 陽之				
到達目標					
1. 等速円運動と単振動を理解できる。 2. 進行波と定常波を理解できる。 3. 反射、屈折、回折、干渉を理解できる。 4. 音を理解できる。 5. 共鳴とドップラー効果を理解できる。 6. 光を理解できる。 7. 干渉縞と分散を理解できる。 8. 理想気体の状態方程式を理解できる。 9. 熱力学の第一法則を理解できる。 10. 万有引力の法則を理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
力学分野 (単振動・円運動、万有引力) 到達目標1,10	基本的な物理現象とそれらの数学的表式 (基本法則・公式) を十分に理解できる。基礎的な問題及び複数の法則 (公式) や物理量が関係した問題が解ける。	基本的な物理現象を理解し、それらの数学的表式 (基本法則・公式) を知っている。基礎的な問題が解ける。	基本的な物理現象及び基本法則・公式を理解できない。基礎的な問題が解けない。		
波動分野 (波動の基本的な性質、音、光) 到達目標2,3,4,5,6,7	基本的な物理現象とそれらの数学的表式 (基本法則・公式) を十分に理解できる。基礎的な問題及び複数の法則 (公式) や物理量が関係した問題が解ける。	基本的な物理現象を理解し、それらの数学的表式 (基本法則・公式) を知っている。基礎的な問題が解ける。	基本的な物理現象及び基本法則・公式を理解できない。基礎的な問題が解けない。		
熱分野 (気体の分子運動論・状態変化、熱力学の基礎) 到達目標8,9	基本的な物理現象とそれらの数学的表式 (基本法則・公式) を十分に理解できる。基礎的な問題及び複数の法則 (公式) や物理量が関係した問題が解ける。	基本的な物理現象を理解し、それらの数学的表式 (基本法則・公式) を知っている。基礎的な問題が解ける。	基本的な物理現象及び基本法則・公式を理解できない。基礎的な問題が解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	人類は自然現象の中に存在する法則を発見し、それを応用して文明を築いてきた。物理学IIAでは波動と気体に関する現象を中心に、その現象と物理量を言葉や式で表現する。また、数式で表現された物理量から現象を理解する。こうして技術者としての基礎学力を養い、さまざまな工学的な課題の解決方法を習得することを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業の進め方など】各項目ごとに物理現象・法則等の説明・解説を行い、導出した公式等の使い方を習得するために問題演習を行う。また、数回物理実験を実施する。 【事前事後学習など】必要に応じて宿題・課題を与える。 【関連科目】基礎数学A、基礎数学B、解析学I、代数幾何I、化学II 【MCC対応】II-A物理、II-B物理実験、II-C化学 (一般)				
注意点	物理と数学は密接に関連しているので、数学の基礎をしっかりと固めること。物理に関するセンスを磨き実力をつけるため、教科書や問題集の練習問題をなるべく多く解くこと。授業で理解できない点は、すぐに質問すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を実施する。 前期末: 前期中間試験 (45%)、前期末試験 (45%)、実験レポートなど (10%) 学年末: 後期の成績を、後期中間試験 (45%)、学年末試験 (45%)、実験レポートなど (10%) で評価し、前期と後期の成績の平均を学年末の成績とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	等速円運動I	等速円運動を理解できる	
		2週	等速円運動II	等速円運動を理解できる	
		3週	単振動I	単振動を理解できる	
		4週	単振動II	単振動を理解できる	
		5週	単振り子の実験	単振り子の周期を測定し、重力加速度の値を求めることができる。	
		6週	波動I	進行波を理解できる	
		7週	波動II	進行波を理解できる	
		8週	前期中間試験の解答と復習 重ね合わせの原理	1~7週の授業内容に関する基礎的な問題が解ける 重ね合わせの原理を理解できる	
	2ndQ	9週	定常波	定常波と波の反射を理解できる	
		10週	波の性質	干渉、回折、屈折、反射を理解できる	
		11週	音とうなり	音を理解できる。うなり、発音体を理解できる	

後期		12週	共振、共鳴	発音体、共鳴・共振を理解できる
		13週	気柱共鳴の実験	気柱共鳴の実験からおんさの振動数を求めることができる。
		14週	ドップラー効果	ドップラー効果を理解できる
		15週	前期の復習	8～14週の授業内容に関する基礎的問題が解ける
		16週		
	3rdQ	1週	光	光（反射、屈折）を理解できる
		2週	実像と虚像	光（実像と虚像）を理解できる
		3週	レンズの実験	レンズを用いた結像の実験からレンズの焦点距離を求めることができる
		4週	光の分散、散乱、偏光	光の分散とスペクトル、散乱、偏光を理解できる
		5週	光の回折と干渉I	回折と干渉を理解できる
		6週	光の回折と干渉II	回折と干渉を理解できる
		7週	復習と演習	1～6週の授業内容に関する基礎問題が解ける
		8週	後期中間試験の解答と復習 ボイル・シャルルの法則	1～7週の授業内容に関する基礎問題が解ける ボイル・シャルルの法則が理解できる
	4thQ	9週	理想気体の状態方程式 気体の分子運動論	理想気体の状態方程式、気体の分子運動論が理解できる
		10週	気体の内部エネルギー 気体の状態変化I	気体の内部エネルギーと熱力学の第一法則、状態変化が理解できる
		11週	気体の状態変化II	気体の状態変化が理解できる
12週		熱機関、熱サイクル	熱機関、熱サイクルが理解できる	
13週		万有引力I	万有引力を理解できる	
14週		万有引力II	万有引力を理解できる	
15週		後期の復習	8～14週の授業内容に関する基礎問題が解ける	
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	前1,前2
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
			熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	
				エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3	
				不可逆変化について理解し、具体例を挙げる事ができる。	3	
				熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3	
				波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	
			横波と縦波の違いについて説明できる。		3	
			波の重ね合わせの原理について説明できる。		3	
		波の独立性について説明できる。	3			
		2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3			
		定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3			
		ホイヘンスの原理について説明できる。	3			
		波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3			
		弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3			
		気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3			
		共振、共鳴現象について具体例を挙げる事ができる。	3			
		一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3			
		物理実験	物理実験	自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	
				光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	
				波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3	
		測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3			
		安全を確保して、実験を行うことができる。	3			

			実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	
			有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	
			力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
			波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
			光に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
	化学(一般)	化学(一般)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3	
			気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理学 I I B
科目基礎情報					
科目番号	20043		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	前田恵一ほか「物理基礎」佐藤文隆ほか「物理 新訂版」(実教出版) / 「エクセル物理 総合版 物理基礎+物理」(実教出版)				
担当教員	古崎 広志				
到達目標					
1. 電場を理解できる 2. 電位を理解できる 3. 簡単な直流回路を理解できる 4. 磁場を理解できる 5. 電磁誘導の法則を理解できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1, 2	概念, 関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	概念, 関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
到達目標項目4, 5	概念や現象, 関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	概念や現象, 関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	概念や現象, 関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
到達目標項目3	関連する物理量, 法則などが十分理解できており, 応用的な問題も解ける.	関連する物理量, 法則などがおおむね理解できており, 基礎的な問題は解ける.	関連する物理量, 法則などが理解できておらず, 基礎的な問題も解けない.		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	人類は自然現象の中に存在する法則を発見し, それを応用して文明を築いてきた. 物理学IIBでは電場と磁場に関する現象を中心に, その現象と物理量を言葉や式で表現する. また, 数式で表現された物理量から現象を理解する. こうして技術者としての基礎学力を養い, さまざまな工学的な課題の解決方法を習得することを目的とする.				
授業の進め方・方法	【授業の進め方など】板書により授業を進める. 【事前事後学習など】授業内容の復習のため, 毎回, 課題を与える. 【関連科目】基礎数学A, 基礎数学B, 解析学I, 代数幾何I, 化学II 【MCC対応】II-A物理、II-B物理実験				
注意点	復習が大事なので, 課題には必ず取り組むこと. 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として総合成績が 50 点以上で合格とする. 前期中間試験, 前期末試験を実施する. 総合評価: 前期中間試験 (45%), 前期末試験 (45%), 課題 (10%)				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	電荷と電場I (クーロンの法則, 電場の重ね合わせ)	電場を理解できる	
		2週	電荷と電場II (電位と電位差)	電場と電位を理解できる	
		3週	電荷と電場III (コンデンサー)	電場と電位を理解できる	
		4週	直流回路I (オームの法則, 抵抗接続)	簡単な直流回路を理解できる	
		5週	直流回路II (抵抗率, 電力)	簡単な直流回路を理解できる	
		6週	直流回路III (キルヒホッフの法則)	簡単な直流回路を理解できる	
		7週	復習と演習	1~6週の授業内容に関する基礎的な問題が解ける	
		8週	前期中間試験の解答と復習 電流と磁場I (磁場)	1~6週の授業内容に関する基礎的な問題が解ける 磁場を理解できる	
	2ndQ	9週	電流と磁場I (電流の作る磁場)	磁場を理解できる	
		10週	電流と磁場II (電流が磁場から受ける力)	磁場を理解できる	
		11週	電流と磁場III (ローレンツ力)	磁場を理解できる	
		12週	電磁誘導I (電磁誘導の法則)	電磁誘導の法則を理解できる	
		13週	電磁誘導II (起電力, うず電流)	電磁誘導の法則を理解できる	

		14週	電磁誘導III (自己誘導と相互誘導)	電磁誘導の法則を理解できる
		15週	前期の復習	8~14週の授業内容に関する基礎的問題が解ける
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	電気	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	
				電場・電位について説明できる。	3	
				クーロンの法則が説明できる。	3	
				クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。	3	
				オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	3	前4
				抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。	3	
	ジュール熱や電力を求めることができる。	3				
	物理実験	物理実験	電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3		

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 I I
科目基礎情報				
科目番号	20046	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子情報工学科	対象学年	2	
開設期	通年	週時間数	前期:4 後期:2	
教科書/教材	「化学基礎」, 「化学」 (東京書籍), エクセル化学 総合版 (実教出版), スクエア最新図説化学 (第一学習社), プリント			
担当教員	畔田 博文, 常光 幸美			
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 溶解, 溶解度, モル濃度を理解できる。 2. コロイドの性質を理解できる。 3. 化学反応式と熱化学方程式の違いを理解できる。 4. ヘスの法則を理解できる。 5. 化学反応の速さに影響を及ぼす原因を理解できる。 6. 活性化エネルギーとは何かを理解できる。 7. 化学平衡の移動について理解できる。 8. 酸と塩基の定義を理解できる。 9. 中和反応について理解できる。 10. 塩の生成とその性質を理解できる。 11. 酸化と還元の定義を理解できる。 12. 化学電池の原理を理解できる。 13. 電気分解の原理を理解できる。 14. 有機化合物の特徴と性質について理解できる。 15. 飽和, 不飽和炭化水素の性質について理解できる。 16. 芳香族炭化水素の性質について理解できる。 17. 地球環境と生物の共生について理解できる。 				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
溶液 1, 2	溶液の濃度に関する算出ができるとともに溶質を溶かした際の凝固点効果ならびに沸点上昇について説明できる。	溶液とはどのような状態かの解説ができ, 濃度の算出ができる。	溶液とはどのような状態化が説明できない。	
化学反応・変化とエネルギー 3, 4	ヘスの法則を理解し, 熱化学方程式を組み合わせて, 未知の反応熱の算出ができる。	化学反応もしくは変化とエネルギーとの関係が理解できるとともに, それを熱化学方程式と反応座標を用いて説明できる。	化学反応もしくは変化とエネルギーとの関係が理解できない。	
反応速度と平衡 5, 6, 7	反応速度をもとに化学平衡の解説ができるとともにルシャトリエの原理について解説できる。	反応速度とは何かを理解し, 速度式を立式できるとともに, 速度に影響を与える要因について理解できる。	化学速度とは何か, 速度式の作成について説明できない。	
酸と塩基・中和滴定 7, 8, 9, 10	酸・塩基が区別し, 中和反応式を考えられ, さらに各中和における各終点のpHについて説明できる。	酸・塩基の定義を理解しており, 酸塩基を区別できるとともに中和反応式を作成できる。	酸と塩基の定義, 酸塩基の区別ができていない。	
酸化と還元 11, 12, 13	酸化還元の説明, 酸化還元反応式の作成ができるとともに, それを活用し電池や電気分解についての解説できる。	酸化と還元の説明, 酸化剤と還元剤の半反応式を導くことができ, そこから酸化還元反応式を作成できる。	酸化と還元の説明, 酸化剤と還元剤の半反応式を導くことができない。	
有機化合物と官能基 14, 15, 16	有機化合物を官能基から見分けることができ, 各官能基ごとの化合物の性質について説明できる。	有機化合物と無機化合物の区別および有機化合物の構造式を描くことができる。	有機化合物と無機化合物の区別および有機化合物の構造式を描くことができない。	
生物の多様性と共通性 17	地球環境と生物の共生について理解し, 考えることができる。	地球環境と生物の共生について理解できる。	地球環境と生物の共生について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係				
本科学習目標 1 本科学習目標 3				
教育方法等				
概要	講義や化学実験を通して, 身の回りにある物質の性質, 分類, 構造をさぐり, それらの間に成り立つ法則を調べる。その中で, 専門科目の理解に必要な基礎学力を養い, 得られた化学的な知識や考え方を生かした様々な問題解決の方法を学ぶ。さらに, 化学実験においては, 適切な試薬使用量を守ること, 廃液をむやみに流さないことなど, 環境に配慮する態度を養う。			
授業の進め方・方法	化学 II は化学 II α (通年) と化学 II β (半期) に分けて行う。化学 II α は予習を軸とした協調学習と講義で学びます。化学 II β は予習を前提とした講義で学びます。 【事前事後学習など】化学 II α の部分は予習を軸として行います。指定された箇所の予習をしっかりと行い, 自分が分かる点とわからない点を明確にしてください。授業でわからなかった点が明確になったら, これを事後学習で補ってください。演習書はこのために活用します。 【関連科目】化学 I, 物理学 I, 物理学 II A, 物理学 II B 【MCC対応】II-C 化学, II-D 化学実験, II-E ライフサイエンス・アースサイエンス, VII 汎用的技能, VIII 態度・志向性 (人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力			

注意点	<p>記憶する事項が多いですが、単なる丸暗記ではなく、理屈を考えて記憶し、説明ができるように努めてください。自分が理解できることと理解できないことを明確にすることが大切です。座学だけでなく、実験を通じて、注意力、観察力、思考力、技術力を獲得するように努めてください。</p> <p>化学Ⅱαでは適宜グループで教えあう学習方法をとりますので、積極的に参加して分野横断的能力も磨いてください。社会においても人と関わりながら学ぶことはとても重要となります。</p> <p>化学Ⅱαの授業資料は、各自ダウンロードし事後学習に役立てられるよう綴るなど整理してください。化学Ⅱβについては教科書に沿って行うので教科書を忘れないこと。</p> <p>【評価方法・評価基準】前期中間試験，前期末試験，後期中間試験，学年末試験を実施する。</p> <p>化学Ⅱαおよび化学Ⅱβの評価方法は以下の通り</p> <p>化学Ⅱα評価方法 前期：前期中間試験（15%），期末試験（15%） 後期：後期中間試験（15%），学年末試験（15%） 年間課題（提出物，授業後理解度小テストを評価対象とする）（40%）</p> <p>化学Ⅱβ評価方法 後期中間試験（40%），学年末試験（40%） 課題（提出物）（20%）</p> <p>上記評価方法で得た化学Ⅱαと化学Ⅱβの成績を7：3の割合で平均し総合的評価とする。 前期成績については化学Ⅱβが後期開講のため化学Ⅱαのみで次式により評価を行う。 化学Ⅱα【（前期定期試験平均）*0.6+課題点（40点満点）】</p> <p>年間における各配分は以下の通りとなる</p> <p>化学Ⅱα：前期中間試験（10.5%），期末試験（10.5%） 後期中間試験（10.5%），学年末試験（10.5%） 課題点（28%）</p> <p>化学Ⅱβ：後期中間試験（12%），学年末試験（12%） 課題点（6%）</p> <p>成績の評価基準として総合的評価50点以上を合格とする。 詳細な説明は初回の授業時に行う。</p>
-----	--

テスト

授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	--	--	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	上段化学Ⅱα：溶液（1）	溶液とはどのような状態か、濃度の算出、溶解度について理解できる。
		2週	溶液（2）	沸点上昇、凝固点降下の仕組みについて理解できる。
		3週	溶液（3）	コロイドと透析について理解できる。
		4週	化学実験（1）	コロイドと透析についての知識をもとに現象を説明できるとともに器具の扱いを安全に正しく行うことができる。 アルカン、アルケン、アルキン、アルキル基の名前における規則性を理解できる。
		5週	化学反応と熱（1）	反応熱と化学反応および変化との関係を熱化学方程式で示すことができる。
		6週	化学反応と熱（2）	ヘスの法則をもとに未知の化学反応の熱変化量を既知の熱化学方程式から導くことができる。
		7週	復習	これまでの知識を総合的に活用することができる。
		8週	反応速度（1）	反応速度とは何かを説明でき、反応速度式を立式することができる。
	2ndQ	9週	反応速度（2）	反応速度に影響を与える因子について説明ができる。
		10週	化学実験（2）	反応速度に関する知識をもとに実験結果を説明できるとともに器具の扱いを安全に正しく行うことができる。
		11週	化学平衡（1）	化学平衡とは何かを説明できるとともに平衡定数を算出することができる。
		12週	化学平衡（2）	ルシャトリエの原理をもとに外部刺激にたいして平衡がどのように変化するかを説明することができる。
		13週	酸と塩基（1）	アレニウスの定義、ブレンステッド-ローリーの定義について例を用いて説明ができる。
		14週	酸と塩基（2）	水の解離平衡とpHとのかかわりについて理解することができる。 酸性、塩基性、中性の芳香族炭化水素の分離法について理解することができる。
		15週	前期復習 前期復習	これまでの知識を総合的に活用することができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	上段化学Ⅱα：中和反応（1） 下段化学Ⅱβ：生物の多様性と共通性（1）	中和反応式を立式できるとともに反応式において量的関係を考えることができる。 生物の多様性について理解でき、地球環境と生物のかかわりについて理解できる。
		2週	中和反応（2） 生物の多様性と共通性（2）	中和反応式から量的関係の算出ができる。 多様な生物の共生について考えることができる。
		3週	塩の性質（1） 有機化合物とは	塩の加水分解を理解し、その液性の推定ができる。 有機化合物の構造を共有結合数をもとに書くことができ、官能基を理解し、構造式から有機化合物の分類ができる。

4thQ	4週	塩の性質 (2) 飽和・不飽和炭化水素 (1)	塩の加水分解をもとに中和滴定における指示薬の選択ができる。 アルカン, アルケン, アルキン, アルキル基の名前における規則性を理解できる。
	5週	塩の性質 (3) 飽和・不飽和炭化水素 (2)	塩の加水分解と化学平衡をもとに緩衝溶液の性質について理解できる。 アルカンの反応について理解できる。
	6週	化学実験 (3) 飽和・不飽和炭化水素 (3)	塩の性質で学んだ知識をもとに実験結果を説明できるとともに器具の扱いを安全に正しく行うことができる。 アルケン, アルキンの反応について理解できる。
	7週	化学実験 (4) 鎖式炭化水素の誘導体 (1)	中和反応で学んだ知識をもとに実験結果を説明できるとともに器具の扱いを安全に正しく行うことができる。 アルコールの命名, 性質および反応について理解できる。
	8週	酸化と還元 (1) 鎖式炭化水素の誘導体 (2)	酸化と還元の定義が理解でき, 半反応式を作成することができる。 アルデヒド, ケトン, カルボン酸の命名, 性質および反応について理解できる。
	9週	酸化と還元 (2) 鎖式炭化水素の誘導体 (3)	半反応式をもとに酸化還元反応式を作成することができ, そこから量的関係について考えることができる。 エステル合成と加水分解反応について理解できる。
	10週	電池 (1) 芳香族炭化水素 (1)	イオン化傾向をもとに電池の仕組みを説明することができる。 芳香族化合物とアルケンとの違いを理解することができる。
	11週	電池 (2) 芳香族炭化水素 (2)	ボルタ電池とダニエル電池との違いを説明することができる。 芳香族化合物の名前と構造が理解できる。
	12週	電気分解 (1) 芳香族炭化水素 (3)	電気分解と電池の違いについて理解することができる。 芳香族化合物の反応について理解できる。
	13週	電気分解 (2) 芳香族炭化水素誘導体 (1)	ファラデー定数を用い電気分解における電流量と電気分解量との関係について理解できる。 フェノール, アニリン, 安息香酸の性質を理解できる。
	14週	酸化還元に関する演習 芳香族炭化水素誘導体 (2)	酸化還元反応を理解し, 反応式をもとに量的関係に関する演習を解くことができる。 酸性, 塩基性, 中性の芳香族炭化水素の分離法について理解することができる。
	15週	後期復習 後期復習	これまでの知識を総合的に活用することができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	
			物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3		
			水の状態変化が説明できる。	3		
			物質の三態とその状態変化を説明できる。	3		
			原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3		
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3		
			共有結合について説明できる。	3		
			構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3		
			化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3		
			化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	3		
			電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3		
			質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3		
			モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3		
			酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3		
			酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3		
			電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3		
			pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3		
			中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3		
			中和滴定の計算ができる。	3		
			酸化還元反応について説明できる。	3		
イオン化傾向について説明できる。	3					
金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3					
ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3					

	化学実験	化学実験	鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3				
			一次電池の種類を説明できる。	3				
			二次電池の種類を説明できる。	3				
			電気分解反応を説明できる。	3				
			電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3				
			ファラデーの法則による計算ができる。	3				
			実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3				
			事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3				
			測定と測定値の取り扱いができる。	3				
			有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3				
			レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3				
			ガラス器具の取り扱いができる。	3				
	ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	実験的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3				
			試薬の調製ができる。	3				
			代表的な気体発生の実験ができる。	3				
			代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3				
			地球上の生物の多様性について説明できる。	3				
			生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3				
			生物に共通する性質について説明できる。	3				
			植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3				
			世界のバイオームとその分布について説明できる。	3				
			日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3				
			生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3				
			生態ピラミッドについて説明できる。	3				
			生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3				
			熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3				
			有害物質の生物濃縮について説明できる。	3				
地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3							
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2				
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2				
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2				
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2				
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2				
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2				
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2				
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2				
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2				
			複数の情報を整理・構造化できる。	2				
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2				
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	2				
			態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
						自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
						目標の実現に向けて計画ができる。	2	
	目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2						
	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2						
	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2						
	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2						
	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2						
	当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2						
	チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2						

				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	

評価割合

	試験	課題など	合計
総合評価割合	66	34	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	66	34	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育 I I
科目基礎情報					
科目番号	20052		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習・実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	アクティブスポーツ総合版 (大修館書店)		その他、図書館に多数の関連書籍がある。		
担当教員	和久井 健吾, 南 雅樹				
到達目標					
<p>【サッカー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本技術の大切さを理解し説明できる。 2. 正確なボールコントロールができる。 3. ルールを理解しゲームができる。 <p>【バレーボール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 確実なサーブとレシーブができる。 5. ルールを理解しゲームができる。 <p>【卓球】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 簡単なラリーを続けることができる。 7. ルールを理解しゲームができる。 <p>【体操】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。 <p>【バスケットボール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 自在なボールコントロールができる。 10. 正確なシュートを決めることができる。 11. ルールを理解しゲームができる。 <p>【保健】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 交通安全の意識を高め事故防止を考えることができる。 13. 地球環境問題を理解し説明できる。 					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標項目 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11		ルールを理解するとともに、運動の技術的、体的および戦術的な構造を把握して運動に取り組むことができる。	ルールを理解して運動に取り組むことができる。	ルールを理解できず運動に取り組むことが困難である。	
到達目標項目 12, 13		健康の保持および増進に必要な知識を身につけ、自己または他者に実践することができる。	健康の保持および増進に必要な知識を身につけ、自己実践することができる。	健康の保持および増進に必要な知識を身につけることが困難である。	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	保健体育は技術者としてはもとより、人間としてより良い生活を実践していくための基礎学力および国際社会を多面的に捉える教養を身につける。個人の健康の保持増進に努めると共に、幅広い視点から社会性を見につけ、意欲的かつ実践的に運動課題の解決に取り組む姿勢を育成する。				
授業の進め方・方法	理解を深めるため、必要に応じてレポートや課題を課すことがある。 【MCC対応】Ⅷ 態度・志向性 (人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	<p>前期は雨天時にバレーボールを実施する。 学校指定の服装を着用すること。体育館に入るときは必ず室内シューズに履きかえること。 障害防止等安全上の観点より、実技授業中は携帯電話の保持やアクセサリー類の着用を禁ずる。 怪我等身体的事由により規定の種目が受講できない場合、適宜レポート課題を課す。</p> <p>【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期実技試験、前期末筆記試験、後期実技試験、後期中間筆記試験を実施した上で下記の割合で前期末と学年末の成績を算出する。 前期末：実技試験 (70%)、期末筆記試験 (30%) 後期末：実技試験 (70%)、中間筆記試験 (30%) 学年末：前期評価と後期評価の平均</p>				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・スポーツテスト (屋内種目)	授業における各種の注意点について理解できる。スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		2週	スポーツテスト (屋外種目 50m走・ハンドボール投)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		3週	スポーツテスト (屋内種目 シャトルランテスト)	スポーツテスト実施上のルールに従い実践できる。	
		4週	サッカー パス, ドリブル, シュート練習	確実なパス、ドリブル、シュートができる。	
		5週	サッカー ミニゲーム	正確なパス回しをしながらゲームができる。	
		6週	サッカー ミニゲーム	正確なパス回しをしながらゲームができる。	
		7週	サッカー ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
		8週	サッカー ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
	2ndQ	9週	サッカー ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
		10週	サッカー テスト	実技テスト課題を達成できる。	
		11週	バレーボール パス, レシーブ練習	確実なパスとレシーブができる。	
		12週	バレーボール サーブ, レシーブ練習	確実なサーブとレシーブで相手コートへ返球できる。	

後期		13週	バレーボール	テスト	実技テスト課題を達成できる。
		14週	保 健	交通問題を考える	交通安全の意識を高め事故防止を考えることができる。
		15週	前期復習		前期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。
		16週			
	3rdQ	1週	卓 球	サーブとラリー練習	確実なサーブとラリーができる。
		2週	卓 球	ゲーム	ルールを理解しゲームができる。
		3週	卓 球	テスト	実技テスト課題を達成できる。
		4週	保 健	環境問題を考える	地球環境問題を理解し説明できる。
		5週	体 操 大縄	縄跳び（短縄・ダブルダッチ・	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。
		6週	体 操 大縄	縄跳び（短縄・ダブルダッチ・	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。
		7週	体 操 大縄	縄跳び（短縄・ダブルダッチ・	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。
		8週	体 操 大縄	縄跳び（短縄・ダブルダッチ・	縄跳び運動の規定種目を跳ぶことができる。
	4thQ	9週	体 操	縄跳び テスト	実技テスト課題を達成できる。
		10週	バスケットボール	ボールコントロール, シュート	自在なボールコントロールや確実なシュートができる。
		11週	バスケットボール	ランニングシュート, ゲーム	正確なシュートを決めることができる。
		12週	バスケットボール	ゲーム	ルールを理解しゲームができる。
13週		バスケットボール	ゲーム	ルールを理解しゲームができる。	
14週		バスケットボール	テスト	実技テスト課題を達成できる。	
15週		後期復習		後期の授業内容を振り返り、理解し説明できる。	
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
			目標の実現に向けて計画ができる。	2	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2				
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	

評価割合

	実技試験	筆記試験	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	70	30	100

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎英語 I I
科目基礎情報					
科目番号	20073		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II」(東京書籍) Standard」(同) 参考書: 多読多聴図書(図書館蔵)			教材等: 「同 WORKBOOK	
担当教員	紺谷 雅樹				
到達目標					
1. コミュニケーション活動に必要な基本的な語彙や文法事項などを理解し、実際に活用できる。(語彙・文法力) 2. 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえることができる。(読解力) 3. 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえることができる。(リスニング力)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 コミュニケーション活動に必要な基本的な語彙や文法事項などを理解し、実際に活用できる。	コミュニケーション活動に必要な基本的な語彙や文法事項などをよく理解し、実際に上手く活用できる。		コミュニケーション活動に必要な基本的な語彙や文法事項などを概ね理解し、実際に活用できる。		コミュニケーション活動に必要な基本的な語彙や文法事項などを理解し、実際に活用できない。
評価項目2 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえることができる。	英語を読んで、情報や書き手の意向などをよく理解し、概要や要点を上手くとらえることができる。		英語を読んで、情報や書き手の意向などを概ね理解し、概要や要点をとらえることができる。		英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえることができない。
評価項目3 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえることができる。	英語を聞いて、情報や話し手の意向などをよく理解し、概要や要点を上手くとらえることができる。		英語を聞いて、情報や話し手の意向などを概ね理解し、概要や要点をとらえることができる。		英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえることができない。
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	本授業では「聞く・話す・読む・書く」という語学の4技能を総合的に習得させることを大きな目標とするが、その中でも特に「読む」能力を「英文読解」という形で養うものである。豊富な語彙と基礎的な文法知識を覚え、それを応用する力を身につけることによって、TOEICなどの英語資格試験に対応できる英語能力を習得させることを目指す。また、語学を通して複眼的な視点から社会と環境に配慮する世界観・人生観を身につけて、自分自身の意見を持ち、表現と対話のできる英語コミュニケーションの基礎能力を養う。				
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】適宜、ワークブックからの課題等を課す。応用力養成のため多読多聴図書(図書館蔵)を各自で利用すること。 【関連科目】英語表現Ⅱ 【MCC対応】Ⅲ-B 英語, IV-D グローバリゼーション・異文化多文化理解, VII 汎用的技能, VIII 態度・志向性(人間力), IX 総合的な学修経験と創造的思考力				
注意点	ワークブック等は適宜授業で使用する。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期成績:中間試験(40%), 期末試験(40%), 提出物(20%) 後期成績:中間試験(40%), 学年末試験(40%), 提出物(20%) 学年末成績:前期と後期の平均 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験を実施する。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : Listening 1 旅先での会話	基礎的な英語聴解力を養う。	
		2週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : Reading 1 博物館のガイドブック	基礎的な英語読解力を養う。	
		3週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : Listening 2 ガイドの説明	基礎的な英語聴解力を養う。	
		4週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : Reading 2 動物図鑑	基礎的な英語読解力を養う。	
		5週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : ワークブックへの取り組み(前半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
		6週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : ワークブックへの取り組み(後半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
		7週	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? : まとめと復習	Unit 1 の内容を総復習し、英語運用力の増強を目指す。	
		8週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : Listening 1 日常会話	基礎的な英語聴解力を養う。	

後期	2ndQ	9週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : Reading 1 ウェブの記事	基礎的な英語読解力を養う。	
		10週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : Listening 2 ディベート	基礎的な英語聴解力を養う。	
		11週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : Reading 2 ウェブの記事	基礎的な英語読解力を養う。	
		12週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : ワークブックへの取り組み (前半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
		13週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : ワークブックへの取り組み (後半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
		14週	Unit 2 Which sports can really be called sports? : まとめと復習	Unit 2 の内容を総復習し、英語運用力の増強を目指す。	
		15週	前期復習		
	16週				
	3rdQ	4thQ	1週	Unit 3 How do we choose what we eat? : Listening 1 日常会話	基礎的な英語聴解力を養う。
			2週	Unit 3 How do we choose what we eat? : Reading 1 新聞記事	基礎的な英語読解力を養う。
			3週	Unit 3 How do we choose what we eat? : Listening 2 日常会話	基礎的な英語聴解力を養う。
			4週	Unit 3 How do we choose what we eat? : Reading 2 ウェブのレビューとコメント	基礎的な英語読解力を養う。
			5週	Unit 3 How do we choose what we eat? : ワークブックへの取り組み (前半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。
			6週	Unit 3 How do we choose what we eat? : ワークブックへの取り組み (後半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。
			7週	Unit 3 How do we choose what we eat? : まとめと復習	Unit 3 の内容を総復習し、英語運用力の増強を目指す。
		4thQ	8週	Unit 4 How have inventions changed history? : Listening 1 日常会話	基礎的な英語聴解力を養う。
9週			Unit 4 How have inventions changed history? : Reading 1 科学雑誌の記事	基礎的な英語読解力を養う。	
10週			Unit 4 How have inventions changed history? : Listening 2 プレゼンテーション	基礎的な英語聴解力を養う。	
11週			Unit 4 How have inventions changed history? : Reading 2 発明についてのプレゼンテーション	基礎的な英語読解力を養う。	
12週			Unit 4 How have inventions changed history? : ワークブックへの取り組み (前半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
13週			Unit 4 How have inventions changed history? : ワークブックへの取り組み (後半)	読解力・語彙力・文法知識を習得・実践する。	
14週			Unit 4 How have inventions changed history? : まとめと復習	Unit 4 の内容を総復習し、英語運用力の増強を目指す。	
15週	後期復習				
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能力の基礎固め	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2		
			それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	2		
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2		
汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2		

				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。				2		
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。				2		
他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。				2		
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現 I I
科目基礎情報					
科目番号	20075		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「be English Logic and Expression I Clear」 「be 総合英語 4th Edition」 「be English Logic and Expression I Clear Grammar Book」 「be English Logic and Expression I Clear Workbook」 「be English Logic and Expression II Clear」 「be English Logic and Expression II Clear Workbook」 (以上、いっずな書店) 「DataBase 4500 完成英単語・熟語 [5th Edition]」 (桐原書店) / 「ジーニアス英和辞典」 (大修館書店)、「ウィズダム和英辞典」 (三省堂)				
担当教員	香本 直子				
到達目標					
1. 英語の基本的構造, 語順等が理解できる。 2. 英文の意味を正しく理解できる。 3. 基本的な表現を英語に直すことができる。 4. 準動詞を正しく理解し, 適切に使い分けすることができる。 5. 基本的な比較表現を使いこなすことができ, 慣用的比較表現の意味が理解できる。 6. 関係詞の用法を理解し, 適切に使うことができる。 7. 直説法と仮定法の違いを理解し, 適切に使い分けすることができる。 8. 否定表現の使い方がわかる。 9. 名詞構文・無生物主語の使い方がわかる。 10. パラグラフライティングの基本を理解し, エッセイを書くことができる。 11. 与えられたテーマについて, 考えをまとめ発表することができる。 12. 高校基本レベルの英単語を理解・使用することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目1, 2, 3	基礎的な文法事項や構文を理解し, 活用・運用することができる。	基礎的な文法事項や構文を理解し, おおむね活用・運用することができる。	基礎的な文法事項や構文の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目4	不定詞・動名詞・分詞の用法を理解し, 活用・運用することができる。	不定詞・動名詞・分詞の用法を理解し, おおむね活用・運用することができる。	不定詞・動名詞・分詞の用法の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目5	比較を理解し, 活用・運用することができる。	比較を理解し, おおむね活用・運用することができる。	比較の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目6	関係詞の用法を理解し, 活用・運用することができる。	関係詞の用法を理解し, おおむね活用・運用することができる。	関係詞の用法の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目7	仮定法を理解し, 活用・運用することができる。	仮定法を理解し, おおむね活用・運用することができる。	仮定法の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目8	否定を理解し, 活用・運用することができる。	否定を理解し, おおむね活用・運用することができる。	否定の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目9	名詞構文・無生物主語を理解し, 活用・運用することができる。	名詞構文・無生物主語を理解し, おおむね活用・運用することができる。	名詞構文・無生物主語の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目10	パラグラフライティングの基本を理解し, 活用・運用することができる。	パラグラフライティングの基本を理解し, おおむね活用・運用することができる。	パラグラフライティングの基本の理解および活用・運用ができない。		
到達目標 項目11	与えられたテーマについて, 考えをまとめ発表することができる。	与えられたテーマについて, 考えをまとめ発表することがおおむねできる。	与えられたテーマについて, 考えをまとめ発表することができない。		
到達目標 項目12	高校基本レベルの英単語を理解・使用することができる。	高校基本レベルの英単語をおおむね理解・使用することができる。	高校基本レベルの英単語を理解・使用することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	どの言語にも, 聞いたり読んだりして理解するための, あるいは会話をしたり, 文章表現したりするための規則 = 文法がある。本授業では, 英語の基本的な文法を理解し, 日本語との相違を意識し確認することで, 発展的な英文解釈および英作文を可能にする基礎学力の確立と, 幅広い視点から自らの立場を理解し社会や環境に配慮できる能力の確立を目指す。				
授業の進め方・方法	文法の解説, 演習を行う。単語の小テストを随時行う。 【事前事後学習など】適宜, 課題を課す。長期休業中に自習課題を与える。 【関連科目】基礎英語II 【MCC対応】Ⅲ-B 英語, Ⅶ 汎用的技能, Ⅷ 態度・志向性 (人間力), Ⅸ 総合的な学修経験と創造的な思考力				
注意点	予習・復習をしっかりと行うこと。予習では教科書や参考書を参照し, 自分が理解できる箇所と理解できない箇所を把握しておく。授業では, 予習で学んだことへの理解を深めるとともに不明点の解消に努める。復習では, 学んだ範囲が理解できているかを確認し, 知識を定着させる。 授業には辞書 (紙の辞書もしくは電子辞書) を必ず持参すること。 積極的に表現し, クラスメートの発言をしっかりと聞き取ることで, コミュニケーション能力の向上に努めること。 TOEIC Bridge IPを11月に実施する。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験, 学年末試験を実施する。 前期末成績: 前期中間試験 (35%), 前期末試験 (35%), 小テスト・課題 (30%) 学年末成績: 後期の成績を後期中間試験 (35%), 学年末試験 (35%), 小テスト・課題 (TOEIC Bridge IPを含む) (30%) で評価し, 前期と後期の成績の平均を学年末の成績とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション, 復習	授業の進め方がわかる 1年次で習った表現を整理し, それを使って表現できる
		2週	Lesson 10: Future Activities 不定詞の名詞用法 疑問詞+不定詞, 不定詞の意味上の主語と否定語	将来したい活動について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		3週	Lesson 11: Staying Healthy 不定詞の形容詞用法, 不定詞の副詞用法: 目的 不定詞の副詞用法: 原因・根拠, 形容詞+不定詞	健康や運動について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		4週	Lesson 12: New Products SVO+不定詞, 使役動詞+名詞+動詞の原形 知覚動詞+名詞+動詞の原形, 不定詞の進行形・受動態・完了形	新しい製品について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		5週	Lesson 13-1: Hobbies and Interests 動名詞の用法	趣味・関心について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		6週	Lesson 13-2: Hobbies and Interests 動名詞の意味上の主語と否定語, 動名詞の受動態・完了形	趣味・関心について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		7週	Lesson 14: The World of Nature 分詞の限定用法, 分詞形容詞 分詞の叙述用法, 分詞を使う表現	自然について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		8週	まとめと復習	これまで学んだことを整理・復習して, 総合的な英語力を高めることができる
	2ndQ	9週	Lesson 15-1: Trouble and Accidents SVO+分詞, 知覚動詞+名詞+分詞	トラブル・事故について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		10週	Lesson 15-2: Trouble and Accidents 分詞構文, with+名詞+分詞	トラブル・事故について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		11週	Lesson 16-1: Inventions 関係代名詞: 主格と目的格	発明について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		12週	Lesson 16-2: Inventions 前置詞と関係代名詞, 関係代名詞: what	発明について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		13週	Lesson 17: Cities and Towns 関係副詞: whereとwhen 関係副詞: whyとhow, 複合関係詞	都市・町について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		14週	Lesson 18: Living Environment 原級を使う比較, 倍数や分数を使う比較 比較級を使う比較, 比較対象の示し方	生活環境について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		15週	前期復習	これまで学んだことを整理・復習して, 総合的な英語力を高めることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	Lesson 19: Social Problems 最上級を使う比較, 最上級を使う表現 原級・比較級の表現, 比較の表現	社会問題について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		2週	Lesson 20-1: Making a Wish 仮定法過去, 仮定法過去完了	願い事について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		3週	Lesson 20-2: Making a Wish I wish / If only, as if	願い事について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		4週	Introduction-1, 2 「論理的に考える」ためのウォーミングアップ	論理的に出来事を伝えたり, 説明することができる
		5週	Introduction-3, 4 「論理的に考える」ためのウォーミングアップ	論理的に話の流れを読み取ったり, 理由を述べたりすることができる
		6週	Introduction-5, 6 「論理的に考える」ためのウォーミングアップ	論理的に具体例を示したり, 分析することができる
		7週	Lesson 7 Languages of the World 副詞	世界の言語について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		8週	まとめと復習	これまで学んだことを整理・復習して, 総合的な英語力を高めることができる
	4thQ	9週	Lesson 8 Imagining the Future 副詞句	未来について想像し, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる。
		10週	Lesson 9 Happiness and Stress 副詞節	幸福とストレスについて, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		11週	Lesson 10 Comparing Countries 比較の表現	世界のデータを比較し, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		12週	Lesson 11 Cultural Diversity 仮定法	文化の多様性について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		13週	Lesson 12 Japanese Customs that節	日本の文化について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		14週	Lesson 13 Population Issues 存在や変化を表す表現	人口問題について, 学んだ文法事項を踏まえ, 適切な表現を用いて表現できる
		15週	後期復習	これまで学んだことを整理・復習して, 総合的な英語力を高めることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	後5	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2		
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2		
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2		
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2		
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	2					
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
					自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
					社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。					2		

評価割合

	試験	小テスト・課題	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報工学基礎 I I
科目基礎情報				
科目番号	20310	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科	対象学年	2	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	プリントを配布する			
担当教員	小村 良太郎,三吉 建尊,竹下 哲義			
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 指数関数、対数関数、三角関数を用いた応用問題が解ける。 2. 対数グラフを用いて問題が解ける。 3. 合成抵抗や分圧・分流の考え方、重ねの理、キルヒホッフの法則を説明できる。 4. 各種センサなどの取り扱いに必要な、直流回路の計算ができる。 5. 電力量と電力を説明し、これらを計算できる。 6. プログラミング言語を用いて基本的なプログラミングができる。 7. 他者が理解できるように記述できる。正しい文章を書くことができる。 8. 情報を収集し適正に判断し情報の加工・作成・整理、発信ができる。 9. ペアワークで合意形成、問題解決、アイデア創造等の活動ができる。 10. 微分の考え方が理解できる。 11. 関数を多項式で表現できる。 12. 積分の考え方が理解できる。 				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標 項目 1, 2, 10, 11, 12	関数と微積分の基礎概念を理解・説明でき、その応用的な考え方が説明できる。	関数と微積分の基礎概念を理解・説明でき、その基礎的な考え方が説明できる。	関数と微積分の基礎概念を理解・説明できない。	
到達目標 項目 3, 4, 5, 6	新しいマイコンの活用方法を提案でき、実装できる。	手本がなくてもマイコンの周辺回路を組み、プログラミングできる。	手本があればマイコンの周辺回路を組み、プログラミングできない。	
到達目標 項目 7, 8, 9	他者の話を理解し、自分の意見を述べ他者に理解してもらうことができ、おたがいに納得した合意を得ることができる。	他者の話を理解し、自分の意見を説明することができる。	他者の話を聞き理解できない。	
学科の到達目標項目との関係				
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4				
教育方法等				
概要	電子情報技術を理解し応用する技術を身に付けるために、前期の前半と後期の後半は電子情報技術を習得する上で必要な数学の基礎を学習する。前期の後半から後期の前半は回路を設計する上で必要な基礎を、実際に回路を作成することで習得する。いずれも内容は必要最小限にとどめ、基本概念の習熟と基本的課題の解決能力を養うことを目指す。この科目は企業で電子材料と周辺機器の開発を担当していた教員が、その経験を活かし、電子情報工学の基礎的な考え方等について講義形式で授業を行うものである。			
授業の進め方・方法	到達目標の達成度を確認するため、随時、演習問題を与える。 【関連科目】基礎数学、解析学 I、電子情報工学基礎 I、回路基礎 【MCC対応】IV-C 情報リテラシー、VII 汎用的技能、情報教育対応科目			
注意点	日頃の予習・復習が大事です。 課題等は期限までに必ず提出すること。 【評価方法・評価基準】 前期・後期とも、中間試験・期末試験を実施する。成績の評価基準として 50 点以上を合格とする。 前期末：前期中間試験 30%、前期末試験 30%、前期課題および小テスト 40% 後期分：後期中間試験 40%、後期末試験 40%、後期課題および小テスト 20% 学年末：前期分 50%、後期分 50%			
テスト				
授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	アイデア創造	情報技術を活用したものづくりのアイデアを創出できる。
		2週	2進数の計算 1	2進数の四則演算を計算する方法がわかる。
		3週	2進数の計算 2	2進数の四則演算を計算する方法がわかる。
		4週	2進数の計算 3	2進数の四則演算を計算する方法がわかる。
		5週	マイコンの基礎	マイコンの仕組みを知っている。
		6週	マイコンプログラミングの基礎	マイコンを自らのプログラムで動作させられる。
		7週	LEDの光らせ方 1	マイコンを用いてLEDを点灯させる回路が組める。
		8週	LEDの光らせ方 2	マイコンを用いてLEDを点滅させたりフルカラーLEDの色を変更できる。
	2ndQ	9週	スイッチの取り扱い方	スイッチのON/OFFをマイコンの入力として利用できる。
		10週	AD変換	AD変換を理解し利用できる。
		11週	センサの使い方 1	各種センサをマイコンに接続できる。
		12週	センサの使い方 2	各種センサをマイコンに接続できる。
		13週	自主課題制作 1	マイコンを使った制作物を作成できる。

		14週	自主課題制作2	マイコンを使った制作物を作成できる。
		15週	前期の復習	前期の内容を理解し表現できる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	電子情報の数学	電子情報数学の基礎概念を理解し、説明できる。
		2週	指数と対数1	指数と対数の基礎概念を理解し、説明できる。
		3週	指数と対数2	指数と対数の応用概念を理解し、説明できる。
		4週	対数グラフの考え方1	対数グラフの基礎概念を理解し、説明できる。
		5週	対数グラフの考え方2	対数グラフの応用概念を理解し、説明できる。
		6週	ダイオード特性と対数グラフ1	ダイオード特性の概念を理解し、説明できる。
		7週	ダイオード特性と対数グラフ2	ダイオード特性を対数グラフを用いて解析できる。
		8週	微分の概念	微分の概念を理解し、説明できる。
	4thQ	9週	関数を多項式で表現1	関数を多項式で表現でき、基礎計算ができる。
		10週	関数を多項式で表現2	関数を多項式で表現でき、応用計算ができる。
		11週	極限値と積分	極限値と積分概念を理解し、説明できる。
		12週	区分求積法による積分計算1	区分求積法による積分計算ができ、基礎計算ができる。
		13週	区分求積法による積分計算2	区分求積法による積分計算ができ、応用計算ができる。
		14週	定積分とは	定積分の概念を理解し、説明できる。
		15週	後期の復習	
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3

評価割合

	試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	回路基礎
科目基礎情報					
科目番号	20311		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「電気回路の基礎(第3版)」(森北出版)、「電気回路(ドリルと演習シリーズ)」(電気書院)				
担当教員	小村 良太郎				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電荷と電流、電圧を説明できる。 2. オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。 3. 倍率器と分流器を理解し、計算できる。 4. 直列・並列接続を理解し、計算できる。 5. キルヒホッフの法則、テブナンの定理、重ねの理を理解し計算できる。 6. ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。 7. 電力量と電力を説明し、これらを計算できる。 8. 交流の表現を特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。 9. 正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。 10. 平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。 11. R,L,C素子における正弦波交流電圧と電流の関係を説明できる。 12. 瞬時値を用いて、簡単な交流回路の計算ができる。 13. フェーザを用いて、簡単な交流回路の計算ができる。 14. インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。 15. 交流の瞬時値表示と複素数表示を相互に変換できる。 16. 基礎的な交流回路の電圧、電流、電力を計算できる。 17. 相手の意見を聞き自分の意見を伝えることで円滑なコミュニケーションを図ることができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標項目1	電流と電荷及び電流が抵抗を通った時の電圧の関係を他人に説明出来る。	電流と電荷の関係を他人に説明出来る。	電流と電荷の関係を知らない。		
到達目標項目2	電圧が一定で抵抗の大きさが変化する時、電流値がどのように変化するかを説明出来る。	電流と電圧の値がわかれば抵抗値が計算できる。	オームの法則の公式が書ける。		
到達目標項目3	倍率器と分流器の性能を計算できる。	倍率器と分流器の仕組みを説明出来る。	倍率器と分流器とは何かがわからない。		
到達目標項目4	直並列回路の合成抵抗と各所の電圧と電流の値を計算できる。	直列回路と並列回路の合成抵抗と各所の電圧と電流の値を計算できる。	直列回路の合成抵抗と各所の電圧と電流の値を計算できない。		
到達目標項目5	キルヒホッフの法則、テブナンの定理、重ねの理を理解し計算できる。	重ねの理とキルヒホッフの法則を使い電流と電圧の値を計算できる。	キルヒホッフの法則を使い電流と電圧の値を計算できない。		
到達目標項目6	平衡していないブリッジ回路の各所の電圧と電流の値を求められる。	ブリッジ回路の平衡条件を求められる。	ブリッジ回路とは何か知らない。		
到達目標項目7	電圧と電流の値がわかれば電力量が計算できる。	電圧と電流の値がわかれば電力が計算できる。	電力量と電力とは何かを知らない。		
到達目標項目8	正弦波以外の交流についても何かを説明でき、立式できる。	振幅と周波数がわかれば正弦波交流の式を立式できる。	正弦波交流とは何かを説明出来ない。		
到達目標項目9～16	基礎的な交流回路の電圧、電流、電力を計算できる。	R,L,C素子における正弦波交流電圧と電流の関係を説明し計算できる。	交流信号を数式で表現する方法を知らない。		
到達目標項目17	自分の意見を表現しつつ、他人の意見を引き出すことができる。	自分の意見を適切に表現しつつ他人の意見を理解できる。	他人の意見を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	電気・電子・通信などの電気関係分野を学ぶには、電気回路の専門的知識は不可欠である。この授業では、電気回路の基礎、直流回路の基礎と計算、交流回路の基礎、交流回路網の計算、電気回路の計算技法、共振回路、交流電力についての基礎的な計算法を修得し、技術者として必要な基礎学力を養い、演習問題によって課題の解決能力も養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	理解を深めるため、随時、課題を与え、グループワークを行う。 【MCC対応】V-C-1電気回路、V-C-6 計測、V-D-8 その他の学習内容、VII 汎用的技能、VIII 態度・志向性(人間力)				

注意点	<p>【評価方法・評価基準】 中間試験、前期末試験、学年末試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期末：前期中間試験（30%）、前期期末試験（30%）、課題（40%） 学年末：前期中間試験（15%）、前期期末試験（15%）、後期中間試験（15%）、後期末試験（15%）、課題（40%）</p>
	<p>【関連科目】 電子情報工学基礎Ⅰ、解析学Ⅰ</p> <p>三角関数、指数関数、微分の基礎知識と計算力が必要である。 課題は締切日までに必ず提出すること。 講義中に演習の時間を設ける場合があるのでレポート用紙を常に準備しておくこと。 講義中にe-learningシステムを利用した課題等与えることがあるので、スマートフォンないしはノートPCを利用できるように準備しておくこと。 交流回路の計算では関数電卓を使用するので準備しておくこと。 教科書に貼る付箋があると便利である。</p>

テスト

授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	--	--	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	直流回路の基礎	オームの法則にまつわる基本的な法則を理解し計算できる。
		2週	直並列回路	直並列回路の合成抵抗値が計算できる。
		3週	Y-Δ変換	Y-Δ変換ができる。
		4週	キルヒホッフ則	キルヒホッフの法則を理解し適用できる。
		5週	網目電流法	網目電流法で各所の電圧、電流を計算できる。
		6週	重ねの理	重ねの理で各所の電圧、電流を計算できる。
		7週	テブナンの定理	テブナンの定理を理解し適用できる。
		8週	試験答案の返却と解説	試験範囲の内容を理解し表現できる。
	2ndQ	9週	交流回路計算の基礎	位相を含んだ数式の表現を理解し適用できる。
		10週	正弦波交流の波高値、平均値、実効値	交流の基本的なパラメータを理解し適用できる。
		11週	正弦波交流の位相	交流の位相について理解している。
		12週	正弦波交流のフェーザ表示とフェーザ図	交流信号をフェーザ表示とフェーザズで表現できる。
		13週	正弦波交流の複素数表示	交流信号を複素数で表現できる。
		14週	交流における回路要素の性質と基本式	交流における回路素子の特性を式で表現できる。
		15週	前期復習	前期の内容を理解し表現できる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	回路要素の直列接続	交流において回路素子を直列に接続したときの各種パラメータを計算できる。
		2週	回路要素の並列接続	交流において回路素子を並列に接続したときの各種パラメータを計算できる。
		3週	2端子回路の直列接続	交流において2端子回路を直列に接続したときの各種パラメータを計算できる。
		4週	2端子回路の並列接続	交流において2端子回路を並列に接続したときの各種パラメータを計算できる。
		5週	交流の電力（1）	交流の電力を計算できる。
		6週	交流の電力（2）	負荷に最大の電力を供給する方法を知っている。
		7週	演習	これまでの内容を表現できる。
		8週	交流回路網の解析	交流回路網の解析ができる。
	4thQ	9週	交流回路のキルヒホッフ則	交流におけるキルヒホッフの法則を理解し表現できる。
		10週	直列共振回路	直列共振回路の特性を理解し表現できる。
		11週	並列共振回路	並列共振回路の特性を理解し表現できる。
		12週	回路計算演習 1	これまでの内容を表現できる。
		13週	回路計算演習 2	これまでの内容を表現できる。
		14週	回路計算演習 3	これまでの内容を表現できる。
		15週	後期復習	年間を通じた内容を理解し表現できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	3	
				オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	3	
				キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	3	
				合成抵抗や分圧・分流の考え方をを用いて、直流回路の計算ができる。	3	
				ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。	3	
				電力量と電力を説明し、これらを計算できる。	3	
				正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。	2	

				平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。	3		
				正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。	3		
				R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。	2		
				瞬時値を用いて、交流回路の計算ができる。	3		
				フェーザ表示を用いて、交流回路の計算ができる。	3		
				インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。	2		
				キルヒホッフの法則を用いて、交流回路の計算ができる。	3		
				合成インピーダンスや分圧・分流の考え方を用いて、交流回路の計算ができる。	2		
				直列共振回路と並列共振回路の計算ができる。	2		
				交流電力と力率を説明し、これらを計算できる。	2		
				重ねの理を用いて、回路の計算ができる。	2		
				網目電流法を用いて回路の計算ができる。	2		
				節点電位法を用いて回路の計算ができる。	2		
				テブナンの定理を回路の計算に用いることができる。	2		
				計測	電圧降下法による抵抗測定の原理を説明できる。	4	
ブリッジ回路を用いたインピーダンスの測定原理を説明できる。	4						
有効電力、無効電力、力率の測定原理とその方法を説明できる。	4						
電力量の測定原理を説明できる。	4						
情報系分野	その他の学習内容	オームの法則、キルヒホッフの法則を利用し、直流回路の計算を行うことができる。	4				
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
					コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
評価割合							
				試験	課題・小テスト	合計	
総合評価割合				60	40	100	
基礎的能力				0	0	0	
専門的能力				60	40	100	
分野横断的能力				0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	デジタル回路
科目基礎情報					
科目番号	20312		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	坂井修一「論理回路入門」(培風館)				
担当教員	松本 剛史				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基数の変換ができる。 2. 補数・符号の考えを理解し、説明できる。 3. 2進数の算術演算ができる。 4. 論理代数の基本定理を用いて論理式を簡単化できる。 5. カルノー図等を用いて論理式を簡単化できる。 6. 代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。 7. 代表的な組み合わせ回路の設計ができる。 8. 実際の回路における組み合わせ回路最適化の意味を説明できる。 					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標 項目1,2,3		基数と二進数演算について理解し、進数変換や二進数の算術演算の応用的な問題を解決できる。	基数と二進数演算について理解し、進数変換や二進数の算術演算の基本的な問題を解決できる。	基数と二進数演算について理解しておらず、進数変換や二進数の算術演算の問題が解けない。	
到達目標 項目4,5		論理代数の基本定理やカルノー図等を用いて、論理式の高度な簡単化ができる。	論理代数の基本定理やカルノー図等を用いて、論理式の基本的な簡単化ができる。	論理式の簡単化ができない。	
到達目標 項目6,7,8		応用的な組み合わせ回路について、その動作を説明できる。	基本的な組み合わせ回路について、その動作を説明できる。	組み合わせ回路について、その動作を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	デジタル回路は、CPUをはじめとする各種プロセッサの動作理解や目的に応じた専用回路の設計に必要な不可欠な知識である。この科目では、論理回路の動作原理とその設計方法を学び、代表的な論理回路の動作を説明できる能力を身につけることを通じて、技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけることを目指す。また、デジタル回路の設計に関する諸問題を解くことを通じて、意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるようになることを目標とする。				
授業の進め方・方法	コンピュータや回路における数の表現、論理演算と論理式の簡単化、代表的な組み合わせ回路について、講義と問題演習を通して学ぶ。 【事前事後学習など】 授業内容の理解を深めるため、問題演習を課す。 【関連科目】 電子情報工学基礎Ⅰ・Ⅱ、コンピュータアーキテクチャ、回路基礎、電子回路Ⅰ、ハードウェア設計工学【MCC対応】 IV-C 情報リテラシー、V-D-3 計算機工学				
注意点	問題演習を課すので、自らの手で問題を解くことを通じて、学習内容の定着に努めること。 【評価方法・評価基準】 演習課題を課す。後期中間試験、学年末試験を実施する。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 学年末評価：後期中間試験（40%）、学年末試験（40%）、課題（20%）				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	数の表現	基数の変換ができる。	
		2週	2進数の算術演算	補数・符号の考えを理解し、説明できる。2進数の算術演算ができる。	
		3週	論理式と論理回路	論理代数の基本定理を用いて論理式を簡単化できる。	
		4週	論理演算	論理代数の基本定理を用いて論理式を簡単化できる。	
		5週	スイッチ回路	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。代表的な組み合わせ回路の設計ができる。	
		6週	論理関数の表現方法	論理代数の基本定理を用いて論理式を簡単化できる。	
		7週	組み合わせ回路設計法	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。実際の回路における組み合わせ回路最適化の意味を説明できる。	
		8週	カルノー図を用いた論理式簡単化	カルノー図等を用いて論理式を簡単化できる。	
	4thQ	9週	クワイン・マクラスキー法	カルノー図等を用いて論理式を簡単化できる。	
		10週	組み合わせ回路（1）エンコーダ・デコーダ	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。代表的な組み合わせ回路の設計ができる。	
		11週	組み合わせ回路（2）マルチプレクサ	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。代表的な組み合わせ回路の設計ができる。	
		12週	組み合わせ回路（3）加算器・減算器	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。代表的な組み合わせ回路の設計ができる。	
		13週	組み合わせ回路（4）その他	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。代表的な組み合わせ回路の設計ができる。	

		14週	組み合わせ回路の実現方法	代表的な組み合わせ回路の動作を説明できる。実際の回路における組み合わせ回路最適化の意味を説明できる。
		15週	後期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	計算機工学	整数・小数をコンピュータのメモリ上でデジタル表現する方法を説明できる。	4	
				基数が異なる数の間で相互に変換できる。	4	
				整数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	4	
				小数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	4	
				基本的な論理演算を行うことができる。	4	
				基本的な論理演算を組合わせて、論理関数を論理式として表現できる。	4	
				論理式の簡単化の概念を説明できる。	4	
				簡単化の手法を用いて、与えられた論理関数を簡単化することができる。	4	
				論理ゲートを用いて論理式を組合せ論理回路として表現することができる。	4	
与えられた組合せ論理回路の機能を説明することができる。	4					
組合せ論理回路を設計することができる。	4					

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	プログラミング基礎 I I
科目基礎情報					
科目番号	20325	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子情報工学科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	高橋麻奈「やさしいC (第5版)」SB Creative/LMSやMicrosoft Teams等で適宜配布する(参考書籍はシラバス内を参照のこと)				
担当教員	三吉 建尊				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. C言語の基本文法について理解し, 説明できる. 2. 変数の記法について理解し, 説明できる. 3. データ型について理解し, 説明できる. 4. C言語の制御文の動作を理解し, 各種制御文を用いたプログラムを作成できる. 5. 関数の記法と動作について理解し, 関数を用いたプログラムを作成できる. 6. 変数のスコープについて理解し, 適切なプログラムを作成できる. 7. ポインタ変数の記法と動作を理解し, 説明およびプログラムを作成できる. 8. 配列について理解し, 説明できる. 9. 配列とポインタの関係について理解し, 説明できる. 10. ポインタを用いたプログラムを作成できる. 11. 文字と文字列を理解し, それを用いたプログラムを作成できる. 12. 構造体を理解し, 説明できる. 13. 簡単なファイル入出力処理の記法を理解し, 説明およびプログラムを作成できる. 14. メモリの動的確保の記法と動作を理解し, 適切なプログラムを作成できる. 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目 1 ~ 4	C言語の基本文法について理解し, プログラムを作成できる.	C言語の基本文法について理解し, 簡単なプログラムを作成できる.	C言語の基本文法について理解し, プログラムを作成できない.		
到達目標 項目 5, 6	関数などの概念を理解し, これらを含むプログラムを記述できる.	関数などの概念を理解し, これらを含む簡単なプログラムを記述できる.	関数などの概念を理解し, これらを含むプログラムを記述できない.		
到達目標 項目 7 ~ 14	配列, ポインタ, 構造体の概念を理解し, これらを含むプログラムを記述できる.	配列, ポインタ, 構造体の概念を理解し, これらを含む簡単なプログラムを記述できる.	配列, ポインタ, 構造体の概念を理解し, これらを含むプログラムを記述できない.		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2					
教育方法等					
概要	<p>この授業では, C言語によるプログラミングの基礎とコンピュータの仕組みに詳しくなることを目指す。そのために, C言語の基本構文, ロジックの組み立て, 関数, ポインタ, 構造体, ファイル入出力などの他のプログラミング言語の修得にも応用可能な知識を一通り習得する。</p> <p>本講義では企業においてシステムエンジニア(SE)としてシステム開発を担当していた教員がその経験を活かして講義を行うものである。</p>				
授業の進め方・方法	<p>各自のノートパソコンを利用し, 講義と演習を同時に実施する。 【事前事後学習など】講義内容の復習および理解を深めるために, 適宜, 課題を課す(長期休業中の課題を含む)。 【関連科目】プログラミング基礎 I, 電子情報工学基礎 I・II, アルゴリズムとデータ構造, コンピュータアーキテクチャ 【MCC 対応】V-D-1プログラミング, VI-D情報系分野(実験・実習能力), 情報教育対応科目</p>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義には充電が完了したノートパソコンを持参すること。 ・ 授業中に適宜演習を行い学習到達の確認を行う。 ・ 演習課題の配点が高いため, しっかりと取り組み, 提出期限を厳守すること。 <p>プログラミング上達のコツは, 「多くのプログラムを構築すること」「エラーやトラブルを自己解決すること」の2つです。 エラーやトラブルが発生することは悪いことではありません。 たくさんの知識を身に付けてどんどん新しいことに挑戦し, 色々なプログラムを作りましょう!</p> <p>【評価方法・評価基準】成績の評価基準として50点以上を合格とする。 前期・後期ともに中間試験・期末試験を実施する。 前期成績: 中間試験 25%, 期末試験 25%, 前期課題 50% 後期成績: 中間試験 25%, 期末試験 25%, 後期課題 50% 学年末: 前期成績 50%, 後期成績 50%</p>				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	C言語の基本文法について理解し, 説明できる	
		2週	C言語の基本 (1)	C言語の基本文法について理解し, 説明できる	
		3週	C言語の基本 (2)	C言語の基本文法について理解し, 説明できる	
		4週	変数と型	変数の記法やデータ型について理解し, 説明できる	
		5週	式と演算子	変数の記法やデータ型について理解し, 説明できる	
		6週	条件分岐	C言語の制御文の動作を理解し, 各種制御文を用いたプログラムを作成できる	

後期	2ndQ	7週	論理演算子	C言語の制御文の動作を理解し、各種制御文を用いたプログラムを作成できる	
		8週	関数	関数の記法と動作について理解し、関数を用いたプログラムを作成できる	
		9週	変数とスコープ	変数のスコープについて理解し、適切なプログラムを作成できる	
		10週	ポインタ (1)	ポインタ変数の記法と動作を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		11週	ポインタ (2)	ポインタ変数の記法と動作を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		12週	配列とポインタ (1)	配列について理解し、説明できる	
		13週	配列とポインタ (2)	配列とポインタの関係について理解し、説明できる	
		14週	計算機演習	ポインタを用いたプログラムを作成できる	
	15週	前期復習			
	16週				
	後期	3rdQ	1週	構造体 (1)	構造体を理解し、説明できる
			2週	構造体 (2)	構造体を理解し、説明できる
			3週	構造体 (3)	構造体を理解し、説明できる
			4週	メモリの動的確保 (1)	文字と文字列を理解し、それを用いたプログラムを作成できる。
			5週	メモリの動的確保 (2)	メモリの動的確保の記法と動作を理解し、適切なプログラムを作成できる
			6週	計算機演習	メモリの動的確保の記法と動作を理解し、適切なプログラムを作成できる
7週			計算機演習	メモリの動的確保の記法と動作を理解し、適切なプログラムを作成できる	
8週			ファイル入出力 (1)	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
4thQ		9週	ファイル入出力 (2)	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		10週	ファイル入出力 (3)	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		11週	計算機演習	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		12週	計算機演習	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		13週	計算機演習	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		14週	計算機演習	簡単なファイル入出力処理の記法を理解し、説明およびプログラムを作成できる	
		15週	後期復習		
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	プログラミング	代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。	4	前1,前2,前3,前5
				プロシージャ(または、関数、サブルーチンなど)の概念を理解し、これらを含むプログラムを記述できる。	4	前8,前9
				変数の概念を説明できる。	4	前4
				データ型の概念を説明できる。	4	前4
				制御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。	4	前6,前7
				制御構造の概念を理解し、反復処理を記述できる。	4	前6
				与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラムを記述できる。	4	前14
				ソフトウェア生成に必要なツールを使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	前3
	分野別の工学実験・実習能力	情報系分野【実験・実習能力】	情報系【実験・実習】	与えられた問題に対してそれを解決するためのソースプログラムを、標準的な開発ツールや開発環境を利用して記述できる。	4	前14
				ソフトウェア生成に利用される標準的なツールや環境を使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	前14
				ソフトウェア開発の現場において標準的とされるツールを使い、生成したロードモジュールの動作を確認できる。	4	前14
				フローチャートなどを用いて、作成するプログラムの設計図を作成することができる。	4	後11,後12
				問題を解決するために、与えられたアルゴリズムを用いてソースプログラムを記述し、得られた実行結果を確認できる。	4	後13,後14

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0

専門的能力	50	50	100
分野横断的能力	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報工学実験 I I
科目基礎情報					
科目番号	20343		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習・実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	実験テーマごとに指導書・プリント等がWebClassあるいはTeams等で配布される。詳細は、実験テーマの担当者からの指示に従うこと。				
担当教員	越野 亮,松本 剛史,三吉 建尊,小村 良太郎				
到達目標					
1. UNIXを理解し, 説明できる 2. デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる 3. AI/IoTを活用した作品を制作することができる 4. 正弦波交流の電圧波形を理解し, 説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標 項目 1	UNIXを理解し, 説明できる。	UNIXを理解できる。	UNIXを全く説明できない。		
到達目標 項目 2	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 測定結果に基づいて説明できる。	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。	デジタル回路を構成する基本素子について全く説明できない。		
到達目標 項目 3	AI/IoTを活用した独創的な作品を制作することができる	AI/IoTを活用した作品を制作することができる	AI/IoTを活用した作品を制作することができない		
到達目標 項目 4	正弦波交流の電圧波形を理解し, 説明できる。	正弦波交流の電圧波形を理解できる。	正弦波交流の電圧波形を全く説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4					
教育方法等					
概要	電子情報工学の基礎知識をより実践的に活用できることを目的とし, 基礎学力の向上をはかり, 各専門科目の基礎となる題目について, 実験, 演習を行って自分で考えて理解したことを表現でき, 他の実験者や指導教員との対話を通じて課題を解決できる能力を養う。 この科目は企業でシステムエンジニアとして勤務していた教員が, その経験を活かし, AI/IoT技術について演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	実験の準備として事前の内容の予習および実験結果(データ)の整理が大切です。実験前に予習を担当者に提出してもらったことがある。 また, 授業で学んだ専門科目の基礎を理解している必要があります。一部実験テーマではWebClass(eラーニングシステム)を使用する。 【関連科目】デジタル回路, プログラミング基礎I, プログラミング基礎II, コンピュータアーキテクチャ, アルゴリズムとデータ構造 【MCC対応】IV-A 工学実験技術(各種測定方法, データ処理, 考察方法), IV-C 情報リテラシー, V-C-6計測, VI-C 電気・電子系分野(実験・実習能力), VI-D 情報系分野(実験・実習能力), V-D-8 その他の学習内容, VII 汎用的技能, 情報教育対応科目				
注意点	実験のレポートは必ず定められた期限内に提出すること。 到達目標の達成度を確認するため, 提出されたレポートに対して質問することがある。 【評価方法・評価基準】 前期末評価は, 前期末までに終了したテーマのレポート点数の平均とする。全テーマのレポートを提出期限・最終期限までに提出することで, 成績評価対象となる。各テーマについて次の内訳で総合的に評価し, テーマ数で平均した結果を成績とする。成績の評価基準として50点以上を合格とする。 ・予習・実験状況(実験の取り組み方, 器具の扱い, 協調性など) 40% ・レポート(図表などの書き方, 実験結果の整理と検討, 提出期限など) 60%				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	UNIX入門(1)	UNIXを理解し, 説明できる。	
		2週	UNIX入門(2)	UNIXを理解し, 説明できる。	
		3週	UNIX入門(3)	UNIXを理解し, 説明できる。	
		4週	UNIX入門(4)	UNIXを理解し, 説明できる。	
		5週	UNIX入門(5)	UNIXを理解し, 説明できる。	
		6週	UNIX入門(6)	UNIXを理解し, 説明できる。	
	7週	UNIX入門(7)	UNIXを理解し, 説明できる。		
	2ndQ	8週	デジタル回路の基礎(1)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。	
		9週	デジタル回路の基礎(2)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。	
		10週	デジタル回路の基礎(3)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。	
		11週	デジタル回路の基礎(4)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。	
12週		デジタル回路の基礎(5)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し, 説明できる。		

後期		13週	デジタル回路の基礎(6)	デジタル回路を構成する基本素子について理解し、説明できる。	
		14週	デジタル回路の基礎(7), レポート指導	デジタル回路を構成する基本素子について理解し、説明できる。	
		15週	前期復習		
		16週			
	3rdQ		1週	交流回路の基礎(1)	正弦波交流の電圧波形を理解し、説明できる。
			2週	交流回路の基礎(2)	正弦波交流の電圧波形を理解し、説明できる。
			3週	交流回路の基礎(3)	正弦波交流の電圧波形を理解し、説明できる。
			4週	交流回路の基礎(4)	正弦波交流の電圧波形を理解し、説明できる。
			5週	交流回路の基礎(5), レポート指導	正弦波交流の電圧波形を理解し、説明できる。
		4thQ	6週	AI演習(1)	AIを活用した作品を制作することができる。
			7週	AI演習(2)	AIを活用した作品を制作することができる。
			8週	AI演習(3)	AIを活用した作品を制作することができる。
	4thQ		9週	AI演習(4)	AIを活用した作品を制作することができる。
			10週	AI演習(5)	AIを活用した作品を制作することができる。
			11週	AI演習(6)	AIを活用した作品を制作することができる。
			12週	AI演習(7)	AIを活用した作品を制作することができる。
13週			AI演習(8)	AIを活用した作品を制作することができる。	
14週			AI演習(9)	AIを活用した作品を制作することができる。	
15週			後期復習		
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	1		
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	1		
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	1		
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	1		
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	1		
			実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	1		
			実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	1		
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	1		
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	1		
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	1		
	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	1				
	情報リテラシー	情報リテラシー	同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在していることを知っている。	2		
			与えられた基本的な問題を解くための適切なアルゴリズムを構築することができる。	2		
			任意のプログラミング言語を用いて、構築したアルゴリズムを実装できる。	2		
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	計測方法の分類(偏位法/零位法、直接測定/間接測定、アナログ計測/デジタル計測)を説明できる。	4		
			精度と誤差を理解し、有効数字・誤差の伝搬を考慮した計測値の処理が行える。	4		
			SI単位系における基本単位と組立単位について説明できる。	4		
			オシロスコープの動作原理を説明できる。	4		
			インピーダンスの周波数特性を考慮し、実験結果を考察できる。	4		
			論理回路の動作について実験結果を考察できる。	4		
	分野別の工学実験・実習能力	電気・電子系分野【実験・実習能力】	電気・電子系【実験実習】	ダイオードの電氣的特性の測定法を習得し、その実験結果を考察できる。	4	
				デジタルICの使用方法を習得する。	4	
		情報系分野【実験・実習能力】	情報系【実験・実習】	与えられた問題に対してそれを解決するためのソースプログラムを、標準的な開発ツールや開発環境を利用して記述できる。	4	
				ソフトウェア生成に利用される標準的なツールや環境を使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	
				ソフトウェア開発の現場において標準的とされるツールを使い、生成したロードモジュールの動作を確認できる。	4	
				フローチャートなどを用いて、作成するプログラムの設計図を作成することができる。	4	
			問題を解決するために、与えられたアルゴリズムを用いてソースプログラムを記述し、得られた実行結果を確認できる。	4		
			基礎的な論理回路を構築し、指定された基本的な動作を実現できる。	4		

			論理回路などハードウェアを制御するのに最低限必要な電気電子測定ができる。	4	
--	--	--	--------------------------------------	---	--

評価割合			
	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0